

紫友同窓会会報 第50号

2022.08.26

●紫友同窓会(府立五中、都立小石川高校および都立小石川中等教育学校)

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-29-29 東京都立小石川中等教育学校内 TEL FAX: 03-3945-1961



「惹かれる心」(アクリル 100F) 小松 修 (019F)

CONTENTS

▶目次

- 02 紫友みらい基金ご寄付のお願い
- 03 会長挨拶 戸叶司武郎(027C)
- 04 校長挨拶 鳥屋尾史郎
- 05 副校長挨拶 高橋省司
- 06 特集 つながる・ひろげる
—コロナ下の同窓会活動 2—
交流局・教育支援局・環境企画局
- 12 「紫友みらい基金」寄付
返礼品の紹介
- 14 2022年度評議委員会報告
- 18 2021年度決算報告
- 19 2022年度予算案

- 20 役員一覧
- 21 同窓生訪問
開拓編集部の3年間と
進路を決めた川野先生の助言
御厨 貴さん(022H)
- 29 先生お元気ですか
岩田浩司先生・三浦吉明先生
- 31 吾が校友の精神を
①認知症家族介護者と共に歩む
蛭間マサ子さん(022C)
②鉾山技師として歩んで
境 大学さん(023C)
③コロナ下でのパリ商品展示会
松本好史さん(035G)
④AIとジャズと
松田圭子さん(036D)
⑤あるラーメン屋のオヤジのこと

- 故伊藤睦君(022I)の軌跡
022同期の友人たち
- 45 今、学校では
- 47 PTA会長活動報告
- 48 旧職員だより
末佐和子先生・高杉達也先生
- 50 大学合格者一覧
- 51 同期会・クラス会
- 52 クラブOP会活動報告
- 53 小石川つながり
—クラス・学年を超えた同窓の交流—
- 60 事務局だより
- 62 逝去者一覧
- 63 表紙の言葉・編集後記

「紫友みらい基金」へのご寄付のお願い

会員・客員の皆様には、既にご承知のことと存じますが、創立百周年を契機に開始した「教育支援活動」、「交流促進活動」、「小石川の杜プロジェクト」という3つの新しい同窓会活動を、今後も継続して実施していく財務基盤を構築するため、2019年度に百周年募金の残余資金等（約49.5百万）を原資として「紫友みらい基金」を創設致しました。

これらの活動継続には、10年間で約1億円の費用が見込まれており、2021年度は5.0百万（451名）のご寄付を頂き、大変感謝申し上げます。これからも会員・客員の皆様に「紫友みらい基金」への継続的なご寄付を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

「募金要項」や「申込み方法」等の詳細につきましては、「事務局だより」に記載しておりますので、ご一読のうえご協力を宜しく申し上げます。

寄付進捗状況(ご参考、2022年5月末)

一般口(注)	教育支援口	交流活動口	環境企画口	合計	備考
67,000	12,000	24,844	54,000	157,844	寄付(2022年度実績)
3,964,387	462,000	442,000	131,700	5,000,087	寄付(2021年度実績)
5,948,113	379,000	117,000	156,000	6,600,113	寄付(2020年度実績)
3,933,489	255,000	625,000	233,651	5,047,140	寄付(2019年度実績)
4,245,184	23,250,000	12,650,000	2,110,000	42,255,184	2019年度期初基金
14,376,786	23,924,000	13,392,000	2,499,651	54,192,437	累計

創立105周年「みらい基金プレキャンペーン」

百周年募金に寄付をお寄せいただいた会員の皆様には、これまで寄付金額に応じて「百周年史3部セット」や「カシミヤストール」をお送りしてきました。

今年度から来る母校創立105周年に向けた事業活動の推進を図るため、新たな試みとして「みらい基金プレキャンペーン」を実施いたします。その一環として、ご寄付に対する新たな返礼品として、協賛いただいた同窓生が関わる商品・サービスなどを贈呈することとなりました。

リストアップされた返礼品の一つ一つに寄付者と同窓会・母校がつながる思いと、提供された同窓生の事業紹介や応援の期待を込めまして、本会報やホームページ等で随時ご案内するとともに、今後も定期的に募集してまいります。

※本キャンペーンの詳しい内容と協賛の同窓生の方々の紹介及び返礼品については、12・13・61ページをご覧ください。



会長挨拶

急激な時代の変化に三校是同窓生交流で臨む

紫友同窓会 会長 戸叶司武郎 (027C)



新型コロナウイルスに罹患された皆様に謹んでお見舞いを、また医療を筆頭にエッセンシャルワークの最前線で日々ご尽力されている関係者の皆様に心からの敬意と感謝を申し上げます。そしてウクライナ情勢の深刻化により、失われた命、傷つき被害にあわれたすべての方々に深い哀悼の意を表します。

○世界は多極化に向かっている？

48号から3年連続で同じご挨拶になるとは想定外でした。コロナウイルス BA.5 型の爆発的な感染は、社会経済活動維持に影響を及ぼすほどに深刻です。ウクライナ紛争はロシアと欧米の対立を際立たせ、世界の国々はどちらかのグループに入ることを強いられています。モノ作りに必要な基幹部品・エネルギー資源の輸入調達リスクや元首相の暗殺事件など平成の時代には想像すらしなかったニュースが毎日飛び込んできて、高校時代に学んだ現代史の数ページを思い出します。もしかしたら私たちはいま、「時のうねり」の始まりにいるのかもしれない。50年後に今の時代はどう記述されているのでしょうか。府立五中時代の諸先輩に学生時代の話をもっと聞いておけばよかった、と今さらながら反省しています。

○ with コロナの同窓会活動

同窓会理事会各局はコロナ禍の影響で今年度も制限を多々受けていますが、感染対策の徹底とともに前向きに活動中です。評議委員会は概要説明を YouTube でご覧いただくなど情報公開に努め、3年連続でメール投票となりましたが、全議案可決しました。植樹祭は昨秋と今春に実施し、現役生・同窓生・校長と副校長そして担任の先生がた・応援参加いただいた保護者など、総勢 50 名弱が集まって大イベントとなりました。校内 web 開催となった昨秋の創作展に、「小石川の杜」活動と伊藤長七先生を紹介するビデオを実行委員会に提供しました。紫友経済人交流会も 2 年ぶりにリアルで開催でき 30 名を超えるメンバーが参加しました。紫友スタジオの昨年度実績は同窓生利用・PTA 理事会など計 90 回以上で、さらに年間 5 回の紫友オンラインセミナーの発信基地として大いに活用しています。セミナーは講演テーマが多岐に渡り、小石川ダイバーシティ（多様性）を体現していると自負し

ております。また派生企画で世界 4 都市と千石をオンラインで繋ぐ Global 懇談会も開催できました。世界各地の同窓生を繋ぐ活動は今後も続けていきます。

○現役生支援と紫友みらい基金

現役生は各種コンテスト世界大会への Web 参加や英国カーディフ大学へのオンライン短期研修などで活躍を続けています。小石川は今春、文科省から第 4 期 SSH 校指定を受け新たな 5 年間（通算 20 年間）がスタートしました。SSH の研究に協力してくださる同窓生の研究者メンター登録も受け付けています。また昨年 7 月の SSH サイエンスカフェを機に医学部学生を中心とする医療紫友会が発足しました。

進学状況も好調です。秋の行事週間を成功させてから受験対策を開始して、希望大学に現役合格する現役生が多いとのこと。母校伝統の「よく遊びよく学べ」を実践されているのは嬉しい限りです。コンテスト遠征費用・クラブ備品購入・大型扇風機レンタルなど、教育支援は皆様からの寄付を原資として学校・一般財団法人紫友会と連携のもとに継続しています。

紫友みらい基金は直近 3 年度連続で寄付金額が 500 万円を超えました。同窓生の皆様に御礼を申し上げるとともに、今年度から同窓生が関わるモノやコトを返礼品として用意します。バラエティに富んだ返礼品の数々に小石川らしさを感じていただけるでしょうか。母校の支援とともに、がんばっている同窓生の応援も合わせてお願い申し上げます。

○105 周年に向けての交流活動推進

来年度（2023 年）は創立 105 周年です。来年 11 月頃にオンライン会議システムを活用した総会と懇親会を企画しています。総会開催会場を中心にクラス会・クラブ OB/OG 会・各地の紫友会支部をネットで繋ぐ試みです。皆様には同窓会 web 名簿にメールアドレスの登録を、そしてクラス会などの幹事の方はぜひ 105 周年実行委員会にご参加をお願いいたします。来年秋に世の中がどう変わっていても、立志・開拓・創作の精神と同窓生相互の繋がりが明日に向かう活力の源になるはず。105 周年総会が同窓生交流をさらに促進する機会となることを目指し、皆様には今まで以上に、同窓会活動への参加や名簿登録などのご協力をお願い申し上げます。

校長挨拶

ごあいさつ

東京都立小石川中等教育学校 校長 とやお鳥屋尾 史郎

紫友同窓会、ならびに一般財団法人紫友会の皆様には、日頃より本校の教育活動にさまざまなご支援をいただきありがとうございます。

皆様も御存知のとおり、小石川は平成18年度より、16年間3期にわたって文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けてきました。伊藤 長七初代校長先生がお考えになられた「理数教育」は本校の教育の柱であり、卒業生には、自然科学の研究の道に進まれた方も多いうかがっております。昨年度はこのSSH指定3期の最後年にあたるため、4回目のSSH指定の準備を進め文科省に申請しましたところ、これまでの成果が認められ、今年度から5年間の第4期のSSHの再指定を受けることができました。

こうしたことを踏まえ、今年度の6年生対象校長面談では、「小石川フィロソフィーでどんな研究テーマを選んでいきますか」について話をすることにしました。現在「小石川フィロソフィー」は、1年から6年までの全学年の時間割に組み入れられ、課題研究を行う取組となっていて、きわめてレベルの高い専門的な研究を行う生徒が出ています。6年生は私に、とても興味深い発見や失敗、研究過程で起きたエピソードを聞かせてくれました。6年生が話してくれた研究の中でも、私が面白いと感じたテーマは、微生物の胚発生の研究や、水の硬度と染色との関係、リチウム電池に代わる二次電池の研究、生物のハミルトン効果に関する研究、より精度の高い3Dプリンターの開発といった自然科学や技術に関わる分野が多いですが、生徒たちの研究は自然科学の分野だけではなく、文学、哲学、歴史、芸術、スポーツなどあらゆる分野に及んでいました。これも小石川教養主義の成果であると思えました。特に今年の6年生は、美術や音楽といった芸術系に興味をもって、研究を進める生徒が多かったです。

もう一つの教育の柱である「国際理解教育」についても、昨年度よりオンラインを活用した海外との交流を積極的に進めています。昨年度行った海外との交流で、興味深い取組をいくつかあげますと、JICAにコーディネートいただき、イスラエルのガザ地区に居住する高校生と、本校の生徒とで交流したことがありました。ガザ地区の戦闘がどんな様子であったか、ガザ地

区の高校生がどんな夢をもっているかを聞いたときは、紛争地の臨場感が伝わってきました。また、アフガニスタンで勤務する国境なき医師団の看護師の方に、国境なき医師団の活動の様子や、アフガニスタンの勤務地での新型コロナウイルス感染症の拡大状況、住民の様子などをお話しいただいたこと、イギリスのカーディフ大学の大学教授から、それぞれの専門の分野について、生徒たちが講義を受けることができたこと、シンガポールの交流校の高校生とSDGsについて、生徒同士の議論することができたこと、などがあります。これまでは、直接現地に行かなければできなかった国際理解教育、国際交流を、オンラインを活用することで生徒たちは体験することができました。

こうした教育活動の成果により、11期生の進学状況も好調で、高い進学の結果を上げた10期生を超えて希望の大学に多数の生徒が合格いたしました。11期生は医学部進学者が例年になく多かったです。

今年度も、通常の教育活動に完全に復することが困難なことが予想されますが、生徒たちの活躍や活動がより進展するようにがんばっていきたくて考えています。今年度も皆様の変わらぬご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



副校長挨拶

創学の理念をさらに進化させた学校

後期課程副校長 高橋 省司



紫友同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に御支援、御協力を賜り、感謝申し上げます。4月に副校長職に昇任し、御縁あって小石川中等教育学校に着任いたしました高橋省司と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。

平成17年4月の白鷗を皮切りに、都内で都区立の中高一貫教育校が11校誕生しました。私は3月までそのうちの一つの学校に勤務しておりましたが、その学校は中高一貫になるタイミングで全く新しいコンセプトの学校に生まれ変わろうとしました。いわば舵を切ったわけです。その是非は個々で判断すべきですが、創学の精神や理念が継承されているといい難い部分があると個人的に感じていました。それに対して、小石川は「立志・開拓・創作」の理念を「小石川教養主義・理数教育・国際理解学習」として継承しつつ、「小石川フィロソフィー」に代表される探究学習の充実等によって、中等教育学校としてさらに進化させていると

感じました。今年度からSSH（スーパー・サイエンス・スクール）第4期の指定を受け、より期待される学校になるようお力添えをさせていただき所存です。

最近、授業の様子を観察したり、先生方と個別に面談をしたりする機会が増えました。どの授業においても、生徒が前向きに取り組む姿、活発な意見交換の場面、そんな生徒の期待に応える教員の指導に出会います。また、面談を通して、専門分野の一層の研鑽や他分野の教養を積もうとし続ける先生方の姿勢と熱意に、本校が支えられているのと感じます。

生徒や保護者、教職員、紫友同窓会をはじめ本校に関わる全ての皆様から「小石川・愛」を感じます。そんな学校の一員になれることは、とても幸せなことですし、誇りに思います。紫友同窓会の皆様におかれましては、本校の教育活動の更なる充実のために、一層の御支援、御協力をいただければ幸いです。今後とも何卒宜しくお願いいたします。



紫友同窓会からのお知らせ

◆ホームカミング・デー・パーティは9月18日（日）開催予定です

母校の創作展の開催期間中、同窓生同士が懇親を深めるホームカミングデー。

コロナ禍のため中止を余儀なくされていましたが、今年は9月18日（日）午後3時頃から文京グリーンコート、イーストウイング2階カフェテリアで開催予定です。創作展は開催されますが、現時点で公開の範囲は、保護者のみ抽選で入場できるとの連絡がありました。今後の状況次第では変更もありますので、判明次第、HP、ニューズレター等でご案内します。

ホームカミングデーが開催できる場合は105周年事業の一環として、小石川卒業1年目から大学4年生までの同窓生の参加費を無料といたします（先着30名まで）。交流局までお申し込みください。

申し込み先：交流局 k100kouryusitu@gmail.com

つながる・ひろげる

—コロナ下の同窓会活動 2—

蔓延から三年目を経ても「コロナ」は、新たな株の変異と感染の強弱を繰り返しています。科学的知見の蓄積や医療体制の整備の下に、私たちは感染予防に注意を払いながら、人とウイルスとの共生、あるべき日常生活の回帰へと徐々に舵を切り始めました。ようやく薄日が差し込みそうな世界に水を差した、2月のロシアによるウクライナへの一方的な侵攻と戦禍の拡大のニュース。人間が時に何度も繰り返す戦争の悲劇と現実にも眼を背けてはならないと感じています。

そしてこの夏迎えた、感染の再拡大「第7波」の到来。「コロナ禍」がもたらした自粛と制約の2年半の期間で、人と人との新たな出会いと交歓の機会は極端に減りました。また、人生の最も多感なひとときを過ごしている現役の生徒たちにとっても、勉学やクラブ活動の制限、行事の中止などが強いられ、貴重な機会が奪われています。このような不規則な状態がいつまでも続いて人と人が分断が進めば、同窓会は次の10年、次の世代へとバトンをつなげられるのでしょうか。今はそんな危機感も共有されています。

こうした中で新たな活動が生まれています。その原動力はただ一点、友人たちとの何気ない会話や交流、何かの為に力を合わせた時に感じる喜び、高揚感を味わうこと。今号の特集「つながる・ひろげる」は、前号の「つなげる・ささえる」から一歩進んで目に見える形にしようと努力する各局の取り組みと、各事業にこころよく協力をいただいた同窓生一人一人の活動を報告します。

2022年度評議委員会の開催

2022年度評議委員会は、本年も昨年に引き続き校内開催を取りやめ、6月29日付けで各クラス評議委員の皆さんへ郵送・メールによる議案提示、説明を実施し、7月7日にご意見の聴取、投票を締め切りました。詳細は14～20ページをご覧ください。

コロナ下でつなげる・ひろげる

交流局活動報告

小石川同窓生・関係者をつなぐオンラインセミナーの実施
交流局副局长 河村 英敏 (035D)・理事 河井 興正 (018I)・渡邊 和真 (064B)

「紫友オンラインセミナーとは」

コロナ禍で全ての活動の先行きが見えなかった2020年6月、河井理事の発案により同窓生を対象とした第1回セミナー「新型コロナ対策 医療現場からの緊急報告」を開催しました。同窓生交流の新たな取り組みとして、以来、交流局河村理事が企画運営の中心となって、同窓生や学校関係者が身近に関心を持つ「異業種交流」「リベラルアーツ」をテーマに回を重ねています。

当初は不安定だった技術的な課題も徐々に改善され、現在、配信は原則2ヶ月に1回のペースで計9回のセミナーを実施しています。

開催の日程と内容については、事前に同窓会HPと

名簿登録者へのメール発信により周知に努めています。多方面で活躍する小石川ならではの同窓生講師による新たな知見や情報をたっぷり聞くことができるセミナーです。どうぞ、気楽にご参加ください。

「各回のセミナーの概要」

第1回 2020年6月27日

「新型コロナ対策 医療現場からの緊急報告」

講師：湘南藤沢病院肝胆膵・消化器病センター長
岩渕省吾さん (018I)

概要：会報第48号をご参照ください。

第2回 2020年8月1日

「新型コロナ対策 医療現場からの緊急報告 その2」

講師：湘南藤沢病院肝胆膵・消化器病センター長
岩渕省吾さん (018I)

コメンテーター：健愛クリニック顧問、元柳原病院院長
鈴木篤さん (018I)

概要

第1回目のセミナーを踏まえ、「どんな新型コロナ対策をするべきか」「新型コロナが通常診療に与えた影響は？」といった参加者からの疑問に答え、新型コロナとの闘いの中で分かかってきたこと・患者に接した医師の目線から感じたことを、最新データを交えてお話しいただきました。

第3回 2021年5月8日

「世界195か国を旅して」

講師：野手麻令さん (019C) (やてまれ/ペンネーム)

概要：会報第49号をご参照ください。

第4回 2021年7月31日 紫友美術会共催

「変貌する美術大学と美術館」

講師：多摩美術大学学長
建島 哲さん (018I)

コメンテーター：
紫友美術会代表幹事
猪野 忍さん (012B)

講師紹介：
紫友美術会会員
飯塚智江さん (018I)



概要

いま美術大学でアート思考を学ぶ霞が関やビジネスマンが増えています。コロナ禍で美術館のありかたも見直されています。美術評論の建島さんと建築の猪野さんによる美術館と美術系大学の抱える課題と機能主義の限界とサステナブルなデザインについての奥深い議論を伺いました。制作を公開させる等、魅力的な空間のあり方を模索する美術館の現在をレポートしていただきました。



変貌する美術大学と美術館 - 多摩美術大学学長 建島哲 (018I)

建島哲(左)さん/猪野忍(右)さん

第5回 2021年9月25日

「自分をどう表現するか～非言語表現の威力」

講師：(一社) パフォーマンス教育協会認定 自己表現力診断士
河村英敏さん (035D)



概要

日常の仕事やご家庭等の場面で、自分をどう表現するか。ハリウッド大学院大学佐藤綾子教授の下でパフォーマンス心理学を学び、企業などの講師として活躍する河村さんが、「コロナ禍のマスク越しの会話が苦手です」等、事前いただいた18の質問に答える形で進行しました。表現されない実力はないも同じ。科学的エビデンスにもとづく理想の自己表現とは、企業人としての豊富な経験とそれに止まらない努力と姿勢を楽しく学びました。



自分をどう表現するか～非言語表現の威力 - 自己表現力診断士 河村英敏 (035D)

第6回 2021年11月27日

「行政のデジタル化を考える～韓国に学ぶ～」

講師：日本CIO協会副会長
元国立研究開発法人国立成育医療研究センター理事、元日本アイ・ビー・エム(株)常務執行役員
木村正治さん (018I)



概要

国連の電子政府ランキングでトップに位置する韓国の行政、公益システムの事例を具体的に紹介されました。日々進化するIT化社会において、行政は国民のためにどのような仕組みを作るのか、公務員は何をすべきか。両国の組織を比較すると、利便性を徹底的に追い求める韓国政府の積極的な取り組みがありました。折しも、日本ではデジタル庁が発足したばかり。周回遅れの日本、DX改革の視座を得る大切なヒントが語られました。



第7回 2022年2月5日

「花柳界入門～花街・芸者遊びの粋をどう楽しむか」

講師：伝統文化研究家、(一社)日本料理文化振興協会特別会員、舞踊学会会員
高丘祥徑(しょうけい)こと市川明彦さん(017A)



概要

会社勤務の傍ら全国64か所の花街を訪ね、多くの芸者衆と交歓してきた市川さん。芸者とは？花街とは？その粋の魅力、歴史、そしてビジネスモデルについての解説でした。自らの趣味をとことん極めるには、時間とお金はもちろんの事、何より対象への無償の愛が必要です。今、消え去ろうとする花街の文化を同じ目線から愛おしそうに語る市川さんのお話は、皆さんの関心の高さからか事前の質問も多く、なかなか知る機会がなかったセミナーとなりました。



花柳界入門～花街・芸者遊びの粋をどう楽しむか・高丘祥徑 こと 市川明彦 (017A)

第8回 2022年4月9日

「イタリア人になった弓道家～ミラノ弓道場での国際交流」

講師：弓道家
市倉昭一さん(020G)(イタリア・ミラノ在住)
インタビューアー：

松永 Aki Rohr さん(034E)(スイス・チューリッヒ在住)

概要

紫友オンラインセミナー初の海外編、ミラノ、ジュネーブ、東京を繋いでお届けしました。小石川高校時代は剣道部に所属していた市倉さんが、大学を卒業してから欧州に弓道修行に行き、現地の女性と国際結婚、イタリアに永住を決意して、日本の武道を伝えるライフストーリーをスイス在住の松永さんがお聞きする国際色に溢れたセミナーでした。

また、追加企画として、4月24日(日)にGlobal懇談会が開催されました。日本、メキシコ、ロンドンからの参加者と距離や時差を超えて繋がり、現地での生活・節約術・国際結婚など、様々な話題が飛び交う同窓ならではの楽しく充実した時間を共有しました。



市倉昭一(左)さん/松永Aki Rohr(右)さん

第9回 2022年6月25日

「六義園の主 柳沢吉保一歴史上の悪役は、どのように作られるのか」

講師：東京工業大学リベラルアーツ研究院准教授
福留真紀さん(044C)



概要

小石川生にはなじみ深い庭園「六義園」。五代將軍徳川綱吉の側近柳沢吉保には天下取りに野望を抱き、女色で籠絡する悪役のイメージがつきまっています。後世の実録物、歌舞伎、林述斎や徳富蘇峰等による脚色、取り上げ方が吉保の虚像を作り上げました。一方、史料を丹念に読み込むと、当時の職制や書簡等から異例の出世の背景が見えてきます。吉保と綱吉の共通点(立場の根拠の弱さ)、綱吉が吉保を抜擢した根拠に血筋を強調したこと等を挙げました。

柳沢吉保は武家社会の秩序、構造を乱す成り上がりの新興大名として、悪役を背負わざるを得なかったのです。柳沢吉保の実像は、福留さんの「日本史」の授業で明快に蘇り、「歴史」を学び、「発見」の面白さを感じたセミナーでした。

教育支援局の活動

教育支援局副局長 富田 晴彦 (032I)

創立百周年記念事業の目的の一つとして始まった教育支援活動は、(一財)紫友会と連携して、現役生の海外短期留学の補助、各種大会出場者への交通費の一部補填、楽器や実験器具、運動用具等クラブ備品の貸与等、様々な支援として結実しています。

2021年度は、「新型コロナ」の影響に伴い前年は見送っていた支援を再開しました。具体的には学校と現役生(各クラブ代表者)の支援物品要望を学校側でとりまとめ、理事会で内容を精査、協議しながら「一般財団法人 紫友会」とともに部活動支援を以下の通り行いました。一部の物を除き3月に引き渡し(貸与)を行いました。

◆教育支援活動

- SSH 海外研修 →支援なし
- ※ 2022年度も「新型コロナウイルス」の影響が大きく、web研修を実施したいとの学校側の意向です。
- SSH サイエンスカフェ →支援なし

◆部活動支援活動

主に各クラブ活動における備品類の支援(貸与)を行いました。貸与物品の詳細は、『紫友同窓会ホームページ』トップページ右下の「クラブ活動備品支援」のところ、「貸与品のリスト」をご覧ください。

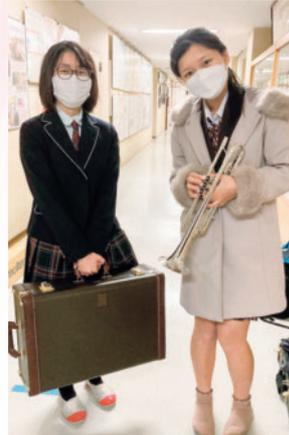
<https://www.shiyu-dousoukai.jp/100shuunen/rental/rental-list.html>

○音楽系クラブ

- ・楽器類貸与：吹奏楽部、フォークソング研究会
- ・楽器類の修理：軽音楽研究会



小石川フィルハーモニーの活動



貸与楽器の梱包を開封
(吹奏楽部)

○文化系クラブ

- ・交通費助成：物理研究会「ロボカップジュニア・ジャパンオープン2022 けいはんな」参加旅費 助成

○運動系クラブ

- ・物品貸与：軟式野球部、女子バスケットボール部、柔道部(※)、剣道部(※)、体操部(※)
- (※) 柔道・剣道場に夏場3か月、大型扇風機をレンタル手配して貸与しています。



新調したユニフォーム
(女子バスケット部)



ティーバッティング用ネット
(軟式野球部)

◆学校生活支援活動

2020年度は学校側の要望に応じて、新型コロナウイルス対策として「大型の加湿器」を30台レンタルして、各教室や特別教室に配備しましたが、2021年度は学校の空調施設が整備されたことにより貸与の必要がなくなりました。

環境企画局の活動

「小石川の杜プロジェクト」の推進

環境企画局長 岡村 幸二 (021A)

◆ 2021 年度環境企画局の取組み

- ①「小石川の杜」プロジェクト —将来像の再確認と発展—
「小石川の杜」プロジェクトの理念、意義を幅広く同窓会、在校生および本校関係者に周知していく。そのために、「小石川の杜」リーフレット（2017年改訂）に続いて、新たに小冊子などを作成して実際の活動への理解を広める。
- ②第4回・5回の植樹祭（11月20日）の実施
2021年度の植樹祭は、当初の5月開催はコロナ拡大で延期され、11月20日に昨年中止の分も含めて3年生、2年生を対象として実施しました。
- ③創作展への展示参加については、引き続き見送り「小石川の杜」の動画配信のみとなりました。

○ 2021 年度：小石川の杜第4回・5回植樹祭

延期された植樹祭は、10月以降にコロナの蔓延が急速に収まり、学校側からも1か月前になってようやくゴーサインが出たため、11月20日に同窓会として急きょ植樹祭の実施を決めました。

○植樹祭の実施状況

2年ぶりの植樹祭は、直前の開催決定にも関わらず藤田副校長先生や澤井経営企画室長の全面的な協力のもと、当日は生徒保護者から7名、同窓会からの応援

スタッフ8名、環境企画局8名の参加によってスムーズに実施することができました。各回の実施の様子は、紫友同窓会公式ホームページ (<https://www.shiyu-dousoukai.jp>) のアーカイブの欄でも見ることができます。

◆ 2022 年度の小石川の杜プロジェクトの目標

- ①「小石川の杜」プロジェクトの充実・発展
百周年記念プロジェクトとしてスタートした「小石川の杜」の基本理念を踏襲しつつ、プロジェクトの意義について生徒全員と同窓会に周知していきます。そのために、2016年に作成された「小石川の杜」リーフレット（2017年改訂）に続き、新たに小冊子などを作成して「小石川の杜」の理念と実際の活動について理解を広めていきます。
- ②過去5回の植樹祭実績を踏まえ、次のステージへ
2021年度までに合計32本の植樹がなされ、今後も順調に植樹本数が増えていくことにより、学校側や生徒自身や同窓会にとっても日常的な散水・水遣りや校内樹木に対する観察活動などが課題となっています。とくに、樹木の維持管理に関しては、紫友同窓会と東京都とで交わした約束事項を実質的なものに発展させる必要性が生じてきていると思われます。

小石川の杜
— みんなで創るキャンパスの緑 —
これまでの活動報告

植樹祭 第6回資料 2022.5.14

過去5回の植樹で、24種・32本の植樹のほかには校名板周囲に寄せ植えを行いました。

(リストとプロット図参照)

■ 2017年5月13日 第一回



事前の中央委員との会議風景。



開始前の説明会。



当日は小雨、低木の寄せ植え作業。



植込み作業、服装は体操着がベスト。

■ 2021年11月20日 第四回・五回合同

2020年はコロナのために中止となり、昨年は二回分合同の植樹となりました。



同窓会のスタッフ集合準備万端。



夕方暗くなってからの植樹となるため、照明装置を準備。(写真は2018年時の様子)



事前説明。



不忍通り側の作業風景。



詳しくは、紫友同窓会公式サイトのご報告をご覧ください。
<https://www.shiyu-dousoukai.jp/100shuunen/mori-pro/mori-site.html>

番号	樹木名	植栽場所	植樹担当	
2017年5月13日 試験植樹 (第一回)				
	低木の寄せ植え	正門横校名板前	中央委員と生徒有志および同窓生	
1	ヤマモミジ	グリーンコート側		
2	ヤマザクラ			
3	イロハモミジ			
4	センダングヤ			
5	オオモミジ			
6	オオシマザクラ			
2018年11月23日 百周年記念植樹 (第二回)				
7	コブシ	不忍通り側 グリーンベルト内	同窓会	
8	コブシ		上級生	
9	カワヅザクラ		2年B組	
10	ソメイヨシノ		2年C組	
11	オオシマザクラ		上級生	
12	ヤマザクラ		2年D組	
13	ハナミズキ		PTA	
14	ヤマボウシ		2年D組	
15	常緑ヤマボウシ		教員	
16	サルズベリ		2年A組	
17	サルズベリ		2年A組	
2019年5月11日 植樹祭 第三回				
18	ジュンペリ		グリーンコート側	2年A組
19	オリーブ(ミッション)			2年B組
20	ナツミカン			2年C組
21	ヤマモモ			2年D組
22	クロガネモチ			中央委員
23	ピワ	教員		
24	オリーブ(カラマツ)	同窓会		
2021年11月20日 合同植樹祭 第四回 第五回				
25	ヤマボウシ	不忍通り側 グリーンベルト内	3年A組	
26	コブシ		3年B組	
27	サルズベリ		3年C組	
28	ヤマザクラ		3年D組	
29	ナツツバキ		2年A組	
30	カラタネオガタマ		2年B組	
31	常緑ヤマボウシ		2年C組	
32	アオダモ		2年D組	

○ 2022 年 5 月 14 日 第 6 回植樹祭

例年どおり公開授業が終了後に、植樹祭参加の 2 年生生徒代表と先生方、PTA 有志が参加しました。準備の段階から、鳥屋尾校長、高橋副校長、金谷経営企画室長より協力・支援をいただきました。新 2 年生の 4 クラスの代表 (5、6 人) が 4 クラス分 4 本の植樹作業を行う予定でしたが、B 組が急きょ参加できない状況の中、A 組から 5 人の応援手助けがありました。2 年クラス分 4 本のほかに、先生チーム、PTA チーム、同窓会チーム (019F) の合計 7 か所で実施しました。

このうち、先生チームと PTA チームは新たに中木・低木・草類を集合させたパターン植栽に挑戦しました。参加者は、生徒保護者、同窓会サポート、環境企画局を含めて約 20 名が集まりました。



念願の同窓会クラス植樹(019F)

○ 創作展会場における同窓会展示と資料配布予定

2021 年度から取り組んでいる「小石川の杜」(みどりを育てるプロジェクト) 小冊子は、今回の植樹祭を機にその骨格を整理し、秋の創作展に向けて全校生徒と同窓会など多くの方への配布を行っていきます。

○ 「小石川の杜」(みどりを育てるプロジェクト) 小冊子の概要の配布

例年は植樹祭の 1～2 週間前に、生徒代表+先生+同窓会(環境企画局)で Meeting を行っていました。今回は対面の会議は見送られました。その代わりに、プロモーションビデオ (3 分) DVD を 2 年のクラスと先生方にも視聴していただきました。今回新たに作成したのは、「小石川の杜・これまでの活動報告」と「文京区のみどりの現状」を組み合わせたリーフレット 500 枚です。植樹祭の主役となった 2 年生全員へと、当日の参加者等へ配布しました。



植樹祭開始時の説明会



植樹の様子

「小石川の杜」(みどりを育てるプロジェクト)小冊子

目次構成	主な内容
1. 表紙・裏表紙	創作展の表紙なみのデザインを
2. 小石川の杜とは	現「小石川の杜プロジェクト」パンフ内容 ◆生徒が創作するキャンパスイメージ ◆神宮の森に学ぶ ◆次の 100 年に向けて
3. 緑の多い周辺地域を知る	六義園～千石の森～小石川植物園など緑のネットワークを地図上で示す
4. まちの昔と今	小石川周辺地域の昔 (50 年前、100 年前) はどう変わったか (道路、緑地、都電、市街地)
5. 樹木の基礎知識	樹木の一般的特性と、枝や葉っぱのつき方、常緑樹と落葉樹、花の咲く時期など
6. CO2 削減とみどりの役割	◇植物の CO2 削減で地球温暖化を遅らせる効果、みどりが人々の生活を潤す効果
7. 昨年の植樹祭の報告	◇既植樹区域と今後の植樹対象エリア ◇生徒からの意見・感想を入れたい

紫友みらい基金 105周年プレキャンペーン

寄付返礼品のご紹介

皆様のご寄付が「同窓生交流と在校生支援」を進め、同窓生の応援につながります。

母校創立105周年に向けての「紫友みらい基金」キャンペーン活動として、協賛の同窓生より提供される返礼品が決定しました。初めての試みとなりますが、まずは一步踏み出したいと考えております。同窓会と母校への応援を目的に寄付を下さる方へ、感謝の印としてお贈りいたします。また今後、皆さまからのご質問、ご意見にもお答えしながら、新たな返礼品につきましても確定次第ご案内いたします。
(基金局)

- ◎キャンペーン期間 2022年9月1日～2023年8月31日
 - ◎ご寄付の方法 61ページ「事務局だより」紫友みらい基金へのご寄付のお願いを参照ください。
 - ◎返礼品の贈呈 期間内のご寄付（年度会費分を除いた金額）に対して、その都度、61ページに掲載の返礼品一覧表から希望の品1点を選択し、カテゴリと番号を事務局へご連絡ください。
 - ◎寄付金額とカテゴリ
A：5千円以上1万円未満 B：1万円以上2万円未満 C：2万円以上5万円未満
D：5万円以上（10万円を超えるご寄付については、感謝状+別途検討中です）
- ※ 各カテゴリの返礼品の内容、組み合わせは、今後追加・変更となる場合があります

キャンペーン協賛の同窓生（氏名・期・クラス）／商号／ご提供の返礼品の内容／カテゴリ番号

① 塚田 憲さん（017D）／塚田技術士事務所／スマートフォンホルダー“elastiX（エラスチック）”B-1



長く電気関係のエンジニアだった塚田さんは、60歳の時に脳出血を発症し右半身に麻痺が残りました。日常生活や仕事にスマートフォンが必要不可欠ですが、片手の操作は難しく苦労しました。そこで試行錯誤の結果、薄いシリコンゴムをX字形状にカットし、スマホ裏側に貼り付けたホルダーを開発しました。スマホ本体とホルダーの間に指を差し込んで返すと親指が自由に動き、片手ででの入力、操作ができます。材質など改良を重ね、考案した技術を初めて製品化しました。

② 窪田慎三さん（022D）／手づくりゆう遊 慎工房／和風小物（地名入りブックカバー B-2）・（名刺入れ C-1）



ブックカバー(上)
名刺入れ(下)

慎工房は、伝統的な日本の“和布”を身の回りの文具・小物に取り入れ、和柄の美を表現します。主宰者の窪田慎三さんが定年後に始めた工房では、工芸、和小物、着物リメイク等多彩な方々とのコラボによって、名刺&カード入れ、わ手帖、ブックカバー、スマホカバー、楽譜ファイル、財布など15を超える作品を発表、販売しています。詳しくは「手づくりゆう遊 慎工房」で検索してください。

今回提供される紫色の和柄文庫ブックカバーと名刺入れ（50枚収納）は、京橋エドグランB1「中央区観光情報センター」常設展示販売コーナーで限定好評販売中です。窪田さんより一言。「和柄の生み出す《雅・粋・品》を愉しめる日用品を是非あなたの身の回りに！」

③ 中村良行さん (029F) / (株) Creation Farm / 山梨県韮崎市の自社農園でブドウ栽培と関連商品の生産販売 (ロワイヤルヴェルジュ B-3)・(ヴェルジュ+ジュースセット C-2)・(赤ワイン C-3)・(ブドウ狩りセット D-1)



ロワイヤルヴェルジュ・ワイン

退職後に農業をしたいと目標を立てた中村さんは、2016年から土日を利用して甲府盆地の北西部、韮崎市に通い野菜作りを始めました。2017年から同市上ノ山地区でブドウの栽培を学び、2019年に移住して地元の農家から約4,000m²の畑を借りて自家栽培を始めました。2020年に株式会社「Creation Farm」設立、生食用の品種以外に、2021年からは自社栽培の「ベリーー A」を使って商品3種の販売を開始しました。

「ロワイヤルヴェルジュ」(1瓶 190ml)は、ブドウの未熟果を摘みその果汁を使った調味料で、レモンやライムのような爽やかな酸味が特徴です。この他に自慢のブドウジュース、赤ワインを提供し、さらに8月後半～9月にはブドウ摘み体験も計画しています。

④ 伊藤紀幸さん (035E) / ショコラボグループ / 手作りチョコレートと菓子工房&横浜戸塚区の古民家レストラン (マンディアンチョコ B-4・チョコレート商品詰め合わせ C-4・D-2 / 久右衛門邸ランチコースお食事券1名様 D-3)



商品詰め合わせイメージ

「久右衛門邸」内観イメージ

CHOCO LABO
ロゴ

伊藤さんから初めてショコラボのことを聞いたのは、2013年に開かれた035同期会とき。「僕、今こんなことをやっているんだよ」と。健常者と障がい者とのコラボで美味しいスイーツを作り出す「ショコラのラボ」は、障がいのある息子さんを授かった伊藤さんが、社会との共生、何ができるかを考え抜き、障がい者の雇用創出と工賃アップを目指して、2012年に全国初の福祉チョコレート工房をオープンしました。

2019年にはBean to Bar工房の「ショコラ房」を開業、商品はカカオ豆からの直接手作りが中心で、材料にも徹底してこだわった個性的で種類も豊富です。体にも心にも優しいチョコレートがおすすめです。

「久右衛門邸」は横浜市戸塚区の敷地600坪の里山とお庭が一体の古民家レストランです。お箸で食べるフレンチを特別な日に。

⑤ 安城守英さん (053F)・安城(庄野)あゆみさん (058D) / (株) 黒川農産 / 新潟産米 (1kgB-5)・(5kgC-5)・(10kgD-4)



高校時代、共に「軽音研」に所属していた二人は、5年の学年差もあり、互いに面識はありませんでした。進学後、二人は別々に農業を志し、片や新潟、片や北海道での農業に携わっていました。ある時、お互いの存在をクラブOBの知人を介して知り合い、奇跡のように意気投合！新潟県胎内市での守英さんのお米作りにあゆみさんが合流してから、今年で8年目になりました。

この地の豊かな自然の里山を背景に、美味しい水と空気が新潟米を育てています。春夏秋冬、作業と子育てに追われていますが、汗をかいた分、収穫の喜びはまた格別です。2015年に会社を設立、「精米したらすぐ発送の新潟県産コシヒカリ」を是非、同窓生の食卓へ。

2022年度評議委員会報告

評議委員会は昨年に続きコロナ下での開催を断念し、今年も各議案についてメール・ハガキでの議決となりました。評議委員会は本会の運営と活動について各クラス同窓生皆様のご意見・ご提言をうかがい反映する貴重な機会でもあります。来年こそは通常の形に戻し、合わせて多くの同窓生のご参加を期待しております。

活動報告と議案は下記の通りです。各クラス評議委員の皆様には、以下の報告並びに議案の詳細説明文書を事前にお送りするとともに、今回も YouTube で補足説明をご覧いただけるよう準備、発信しました。

I. 各局活動報告

基金会計対象局 ①交流局 ②教育支援局 ③環境企画局 ④基金局 ⑤伊藤長七研究委員会
同窓会会計対象局 ①部活後援局 ②広報局 ③資料局 ④事務局

II. 105周年に向けた活動報告と計画（戸叶会長）

III. 1号議案 決算・監査報告（高橋・鈴木・月田監事）

IV. 2号議案 予算案の提案（戸叶会長）

V. 3号議案 役員選任・退任の提案（戸叶会長）

※メール・ハガキによる賛否の投票（評議委員への事前送付数 522）を集計した結果、3件の議案全てが賛成票 105、反対票 0、補足修正意見なしで原案通り可決・承認されました。

I. 各局活動報告

(1) 基金会計対象局

交流局（戸叶局長・河村副局長）

◆紫友スタジオ運用管理

創立百周年事業の一環として設置・運営されているスタジオは、緊急事態宣言とコロナ感染懸念の影響で2020年度の利用56回と大幅に減りました。2021年度は感染対策を遵守しながらの合唱やバンドの練習、クラス会開催のための幹事会、PTA「こいしかわら版」編集会議や「親時の会」、交流局打合せなどで計92回の利用がありました。特に、紫友オンラインセミナーでは配信基地&撮影スタジオとして重要な役割を担っています。

今年度は、感染対策を徹底しながらのコロナ後を想定したスタジオの利用を促進します。スタジオは地下1階で電子ピアノ、ミキサーとスピーカー、50型モニター、A3プリンター、Wi-Fi環境を完備し、Web会議やバンド練習、舞台稽古などに最適です。オンライン配信用のグリーンバックスクリーンやWebカメラなどの機材もそろいました。経費削減のため常駐スタッフはいません。備品管理やスタジオ利用の課題はまだありますが、皆様のご利用をお待ちしております。申込み方法は下記をご参照、または事務局にお問合せください。

<https://www.shiyu-dousoukai.jp/100shuunen/studio/studio-manual.pdf>

◆紫友オンラインセミナー開催等

2021年度からは「紫友オンラインセミナー」として年間5回（2、4、6、9、11月）の開催をシリーズ化いたし

ました。基軸となるテーマは小石川の伝統である「リベラルアーツ」です。現在まで配信された概要は、今号の特集6～8ページをご覧ください。

【番外】PTAの主催するセミナーで、12月18日に027A 森本あんりさん（ICU元副学長、現：東京女子大学長）の講演、「『反知性主義』をそのまま生きてきた一私小石川で学んだこと」を多目的ホールで行い、zoomで現役生とPTA会員に配信しました。

今年度も年間5回のセミナー開催を計画しています。

9月24日（土）には035E 伊藤紀幸さん（（一社）AOH 会長/ショコラボ・グループ代表）による「障害者との共生社会について～ショコラボ・グループの企業を通じての体験」を予定しています。同窓生の中で素晴らしい研究やユニークな活動をされている方、面白い経験を積まれた方など、クラスやクラブのお知り合いを交流局まで是非ご紹介ください。

◆紫友まち歩き会（53ページを参照）

2021年度も公式のまちあるき会は開催できず、2020年2月の神奈川二宮町以来約2年間、メンバー各自が「ひとりまちあるき会」や「別所沼4人まち歩き会」を適宜自主開催しています。

過去の活動内容は53ページと下記同窓会HPページに紹介されています。https://www.shiyu-dousoukai.jp/archives/a_dousousei/a_hito_koto/machi/index.html

◆「紫友経済人交流会」（55・56ページを参照）

2022年4月23日、2年半ぶりとなる第2回交流会が開催されました。詳細は56ページをご覧ください。小石川

OPの世代を超えた新しいネットワークとして、年2回の開催と入会登録者100名の早期実現を目指しています。現在の登録者はほぼ80名に達し、今後同窓会の有力な交流の場として広がっていくことを期待しております。

※紫友経済人交流会ホームページ：

<https://shiyu-keiei.com/>

◆紫友会地域・職域支部、サテライト等

2021年度は医療紫友会が発足しました。7月10日に学校多目的ホールで開催されたSSHサイエンスカフェで、パネラーとして登壇した070B押見祥太さん（東京医科歯科大学・医学部4年）と070B是方真悠子さん（東北大学・医学部4年）が発起人となり、医学部生の情報交換の場として約30人が集まっています。また2022年3月には020G市倉昭一さんに紫友会ヨーロッパ支部長をお願いしました。

今年度の方針は、支部・サテライトのオンライン活動の支援です。紫友国際室については来年度以降に向けての開室検討を継続します。なお、4月に紫友オンラインセミナーで講演をいただいた市倉さんと聞き手の034E松永Aki Rohrさん（チューリッヒ在住）、045B川村宣人さん（メキシコ/アグアスカリエンテス）、073A宮下翔光さん（ロンドン）も加わり、4月24日千石と世界4都市を繋いで16名の参加によるGlobal懇談会を実施しました。国内各地の「ご当地紫友会」、会社内や同じ業界内の「職域紫友会」の新規登録をお待ちしています。

教育支援局（富田局長）

（一財）紫友会とともに、部活動支援を以下の通り行いました。2021年度は前年に見送った支援を再開し、学校側で支援物品の要望をとりまとめ、一部の物を除き3月に貸与することが出来ました。2022年の新学期に副校長先生2名が異動され新任の先生に引き継がれましたが、その後も滞りなく支援を継続しています。

◆教育支援活動

◎海外研修支援

カーディフ大学への夏期研修は中止となり、webを通じての研究発表と講義になりました。

※2022年度も「新型コロナウイルス」の影響が大きく、web研修を実施したいとの学校側意向です。

◎SSH支援

サイエンスカフェは7月10日に中等4期から9期の大学・大学院在学中同窓生のパネルディスカッション「小石川での学びや体験が進学した大学での専攻分野にどのように繋がっているのか」を議論しました。詳細は下記をご覧ください。

<https://www.shiyu-dousoukai.jp/bokou/bokou.html>

SSHの各テーマ研究活動を支援するメンターの募集を同窓生に呼びかけ、大学教授など7人が登録されました。また、2022年度から5年間、文部科学省からSSH第4期指定校に認定され、研究開発課題は、『「小石川リサーチラーニング」による、世界の科学技術を牽引する人材の育成』です。同窓会として諸先輩の知見や経験・人脈の

支援を継続していきます。

◆部活動支援活動 ◆学校生活支援活動

主に各クラブ活動における備品類の支援（貸与）を行いました。詳細は今号の特集7・8ページをご覧ください。

環境企画局（岡村局長）

◆小石川の杜プロジェクトについて

「小石川に杜を創る」を基本理念に同窓会、学校・PTAとが協働して2021年11月に第4回と第5回の合同植樹祭、2022年5月に第6回植樹祭を実施しました。

今後も継続していくことで地球環境の課題を再認識して、CO₂削減や持続可能な社会への貢献などをイメージした取り組みを発展させていきます。詳しくは今号の特集10・11ページ及び下記ページをご覧ください。

<https://www.shiyu-dousoukai.jp/100shuunen/mori-pro/mori-site.html>

創作展は2021年秋も現役生のみ校内で視聴できる映像展だったため、「小石川の杜プロジェクト・プロモーションビデオ」と「伊藤長七ビデオ」（伊藤長七研究委員会）の2編を提出しました。

基金局（高井局長）

◆「紫友みらい基金」の実績と予算

基金は10年間で1億円の寄付金を目指しておりますが、2021年度は451名の方々に総額500万円のご寄付を頂きました。前年度の実績6百万円より1百万円ほど減少しました。大口寄付が少なかったためだと考えられます。寄付金は、同窓会会計にとりまして会費と並ぶ二本柱として確立したと考えておりますので、今年度の収入も引き続き会費予算と同額の6百万円といたしました。

◆今後の募金活動について

10年間目標の達成のためには新たな推進策が必要と考え、昨秋以降タスクフォースを立ち上げ、数回にわたり今後の募金の在り方を検討しました。結論として、「寄付金への返礼品制度」を創設いたします。（12・13ページを参照）

新しい寄付金の取組が会員と同窓会の強い絆となり紫友同窓会の新しい伝統になることを目指します。また、令和5年度は創立105周年となりますので、特別キャンペーンの実施を検討してまいります。

※みらい基金返礼品について

百周年募金活動で寄付をお寄せいただいた同窓会員には、これまで百周年史3冊セットやカシミア製ストールなどを返礼品としてお送りしてきました。

今年度から「紫友みらい基金」活動の一環として新たな返礼品の提供を同窓生に広く呼びかけ、第一期として別記の返礼品が決定致しました。同窓会に寄付を下さるかたへの感謝の印として、さらに同窓生が関わっている商品・サービスなどをご紹介することの両方を目的とし、現在相談中のものも確定次第随時ご案内していきます。

返礼品を見ると母校を思う気持ち、または返礼品をご提供頂いた同窓生の事業を応援したくなる気持ちが高ま

ることを期待し、今後も定期的に募集してまいります。
※寄付金額と返礼品の分布は今後変更となる場合もあります
※返礼品の内容については会報12・13ページ、同窓会公式ホームページなどでご紹介いたします

伊藤長七研究委員会（古山理事）

初代校長・伊藤長七の教育思想を研究・情報発信するため、諏訪寒水会とも連携して継続的に活動を行っています。また、小諸寒水会の立ち上げに向けて、諏訪市教育長の三輪晋一先生にもお力添えをいただき活動中です。毎年実施している「PTA日帰り研修」は、昨年に続きコロナのため中止となりました。故依同窓会会長のご尽力で2019年9月から始まった東洋英和女学院大学院との交流は今後も維持していきます。

(2) 同窓会会計対象局

部活後援局

学校内各部活動の支援を通じて、同窓生と現役生の交流に繋がる場を作る目標は、昨年度は校内活動が制限され実質的な後援活動ができない状態でした。今年度は各部活動のOG・OB会組織とも連携し、各会の幹事リストの作成など局として可能な活動支援を行います。

広報局（並木局長・高橋局員）

◆会報グループ

会報49号の発行（印刷19,000部）：2021年9月に郵送配布しました。

（内容）『特集：つなぐ・ささえる ―コロナ下の同窓会活動―』

- ・2021年度評議委員会を開催
- ・コロナ下での各局の活動と学校関連行事を報告
- ・紫友オンラインセミナー開催報告
- ・SSHサイエンスカフェ開催「若い同窓生が『小石川での学び』を語る」
- ・母校・同窓生への応援→メッセージ付き名刺広告
◎先生お元気ですか

高田俊治先生（保健体育）1975.4～1989.3在任

◎同窓生訪問

- ①林 香君さん（024A）「土と火の対話を重ねて―私が選んだ創作のみちのり―」
- ②北 潔さん（021H）「1冊の新書が導いた生化学の道 抗マラリア薬、そして新型コロナの創薬へ」
◎わが校友の精神を
- ①ゆかりの色をかざし来し方―花の五中と歩む―
須賀恒夫さん（01C）
- ②ダイヤモンドプリンセス乗船とコロナ禍
仲佐博裕さん（07F）
- ③追悼 岡 康道（027I）のいた時代
小田嶋隆さん（027I）・森本あんりさん（027A）
- ④或る博物館学芸員の仕事 ―故酒井一光さん（39H）が残したもの―
・酒井一光さんの思い出 稲垣陽さん（038G）

- ・酒井一光さんと船場 大塚融さん（011A）
- ⑤あの頃の私、今の私 福留真紀さん（044C）
◎同期会・クラス会（オンラインクラス会実施報告）

- ・015回A組・039E組
◎クラブOPつながり
- ・紫友美術会・軽音楽研究会
◎小石川つながり
- ・紫友まち歩き・近畿紫友会・紫友経済人交流会

◆HPグループ

- ・毎月1日に公式ホームページを更新、必要に応じて、追加更新も行いました。
- ・コロナ禍の影響で「紫友まち歩き」やクラス会、学校行事等が開催されず、掲載の分量も低下しました。
- ・会報部会と連携して、会報のバックナンバーの掲載や「特集：つなぐ・ささえる―コロナ下の同窓会活動―」のメッセージ付き名刺広告をWeb版として掲載しています。

資料局（久光局長）

- ・五中・小石川デジタルアーカイブ（<https://koishikawa.wiki/>）の記事を4本追加「E組歌集」「我らは伊藤長七の教え子だった」「私の五中・小石川さがし」「我らは長七の教え子だった」
- ・デジタルアーカイブの既存記事の更新を実施
- ・学校要覧を入手する機会がなく、年度記事の2020、2021年度分の定型項目は今年度に持ち越しとなりました。

事務局（清水茂事務局長）

2021年度の主な活動報告は、下記の通りです。

- 4月 2020年度決算報告作成、会計監査
- 5月 2021年度卒業記念品選定
- 6月 会報原稿作成（寄付一覧・学校情報・評議委員会報告・事務局便り・逝去者一覧等）・評議委員会議案書発送（郵送/メール）・議決結果集計
- 7月 会報発行準備（宛名台紙作成、発送先リスト作成等）
- 8月 会員・客員への会報郵送
- 9月 在校生・教職員への会報配布
- 10月 海外会員への会報郵送（前年度会費納入者のみ）
- 11月 新入会員（6年生）への入会承諾確認票配布
- 12月 新入会員（6年生）から入会承諾確認票回収
- 1月 新入会員（6年生）への入会金・会費請求（学年積立金から振替）・会費未納会員への納入督促（対象者抽出・督促メール発送）
- 2月 各局から2022年度予算提出
- 3月 2022年度予算案編成

【随時対応業務】

- 郵便物等受取り ○銀行・郵便局対応（記帳、入出金）
- 会費・寄付等入金処理 ○各局経費等支払い対応
- web名簿更新（住所判明・転居・改姓・逝去・退会）
- 問合せ対応（郵便・メール・電話・FAX・来局）
- 会報宛先不明戻り対応（web名簿住所不明処理・追跡メール送付・住所判明者に会報再送）
- 東洋文庫会員証発行
- 紫友文庫蔵書寄贈対応（配架・閲覧・貸出返却・HP掲

載依頼)

- HP 更新情報作成 (事務局担当分)
- 理事会・局長会開催
- (資料作成・開催案内メール送付：月1回)

II. 105周年に向けた活動報告と計画

紫友同窓会会長 戸叶 司武郎

—紫友105周年パーティ(2023年)の開催について—

2018年の盛大な百周年記念パーティから3年半、来年秋がどんな世界になっているか予測が付きませんが、105周年行事は開催を予定しています。105周年パーティなどを企画するにあたり、従前と異なる点を以下ご案内いたします。

※105周年で幹事担当世代を調整します

長寿社会・高齢労働社会への対応として、105周年にかぎり016から040までの幅広い学年から行事委員をリクルートし、協働プロジェクトチームによって企画運営します。036-040世代の皆様は、従前であれば105周年主幹事世代ですが、協働プロジェクトメンバーとして参画をお願いします。2028年の110周年から担当世代を5歳上へシフトし、その時点で59-63歳となる036-040世代の皆様が中心となり、楽しい110周年企画が開催されること

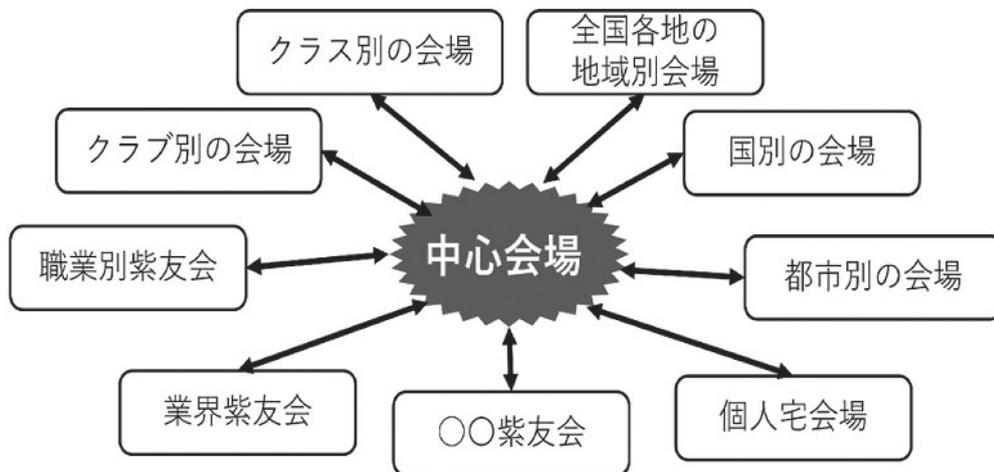
を期待しています。

行事名	幹事担当世代	行事名	幹事担当世代
85周年	016 - 020 (58-54歳)	100周年	031 - 035(58-54歳)
90周年	021 - 025 (58-54歳)	105周年	016 - 040(74-54歳) /協働プロジェクト
95周年	026 - 030 (58-54歳)	110周年	036 - 040(63-59歳) /幹事世代シフト

※105周年パーティはネットワークを活用します

105周年パーティは大会場に集まることにこだわらず、ZoomなどのWebミーティングツールを活用します。総会を開催する中心会場を基点として、クラス会・学年同窓会・クラブOB/OG会・先生を囲む会・地域/職域紫友会…等々で集まる国内と世界各地の会場、そして自宅などをネットワークで繋ぐ分散型イベントを想定しています。

東京と近郊在住で活動的な同窓生の参加を前提としていた従来型の総会/パーティとは違う感覚の105周年を目指します。クラス会、クラブOB/OG会幹事の方、ネットワーク型イベントの企画運営に興味のある方、いままで多忙で同窓会に関われなかった方の、105周年行事への積極的な参加をお待ちしております。



※各会場と中心会場(開催地・開催方法は未定)をネットワークで連携する。

<105周年総会・パーティ企画方針案(概念図)>

税理士法人タックスソリューション

税理士 倉林俊男 015F

〒150-0011 渋谷区東 3-25-4-703

TEL 03-3444-7391 FAX 03-3444-8361

税金のこと
お気軽に
ご相談
ください。

● 紫友同窓会 2021 年度決算報告

I. 2021 年度収支実績

2022 年 3 月 31 日

1. 収支総括

(単位：円)

	2020 年度実績	2021 年度予算	2021 年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
前期繰越金 (A)	26,431,478	26,195,231	26,195,231	0	
当年度収入計 (B)	7,048,011	7,171,000	6,967,333	- 203,667	
総収入合計 (C = A + B)	32,479,489	33,366,231	33,162,564	- 203,667	
年度支出合計 (D)	6,284,258	7,358,000	6,273,200	- 1,084,800	
次期繰越金 (E = C - D)	26,195,231	26,008,231	26,889,364	881,133	
当年度収支 (F = B - D)	763,753	- 187,000	694,133	881,133	

2. 収入

(単位：円)

収入内訳	2020 年度実績	2021 年度予算	2021 年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
i) 年会費	6,074,000	6,150,000	5,994,000	- 156,000	納入者 2,997 名(対象者約 18,000 名)
ii) 入会金	888,000	900,000	888,000	- 12,000	第11回中等教育学校卒業生 147 名、転出者 1 名
iii) 利息	1,011	1,000	333	- 667	
iv) 寄付	0	0	0	0	基金奉金は基金事業特別会計に計上
v) 広告料	85,000	120,000	85,000	- 35,000	会報掲載広告 (コロナ禍のため大幅減額)
当年度収入計 (B)	7,048,011	7,171,000	6,967,333	- 203,667	
前期繰越金 (A)	26,431,478	26,195,231	26,195,231	0 ※2	
総収入合計 (C = A + B)	32,479,489	33,366,231	33,162,564	- 203,667	

3. 支出

(単位：円)

支出内訳	2020 年度実績	2021 年度予算	2021 年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
局運営費					
部活後援局	0	10,000	0	- 10,000	OB・OG 活動支援関連会議費等
広報局	37,767	44,000	31,128	- 12,872	会報制作関連交通費、消耗品費等
資料局	0	10,000	0	- 10,000	資料室 / デジタルアーカイブ維持管理関連会議費等
事務局	0	10,000	6,022	- 3,978	総務庶務、法務対応・資料作成等
小計 (d1)	37,767	74,000	37,150	- 36,850	
事業費					
部活後援局	0	0	0	0	OB・OG 活動支援
広報局	1,760,000	1,830,000	1,705,000	- 125,000	会報制作費
資料局	0	0	0	0	資料室 / デジタルアーカイブ維持管理
事務局	593,555	600,000	593,555	- 6,445	名簿システム使用料
	147,250	150,000	150,100	100	卒業記念品 (印鑑)
	23,914	165,000	124,308	- 40,692	プロバイダ・サーバー利用料、IT 環境整備等
	0	180,000	0	- 180,000	東洋文庫会費 (2021 年度はなし)
小計 (d2)	2,524,719	2,925,000	2,572,963	- 352,037	
事務運営費					
1. 人件費	994,896	1,000,000	825,428	- 174,572	事務局員報酬 (常勤 2 名)
2. 消耗品備品費	759,826	890,000	967,740	77,740	会報発送関連、不明者一覽印刷、コピー機・プリンター等
3. 光熱費	35,251	30,000	41,964	11,964	事務局電気料金
4. 郵送料	1,322,078	1,684,000	1,289,186	- 394,814	会報発送、委員会案内状発送、切手等
5. 電話代	69,545	70,000	72,202	2,202	事務局電話料金
6. 振込手数料	486,814	450,000	456,947	6,947	郵便振替、銀行振込、自動引落手数料他
7. 会議費	7,831	5,000	10,73	- 3,927	評議委員会観覧会費用補填、茶菓等
8. 慶弔費	2,541	20,000	3,047	- 16,953	市電、供花
9. 交通費	0	5,000	0	- 5,000	事務局員交通費
10. 雑費	0	5,000	0	- 5,000	印紙代、合鍵等
小計 (d3)	3,678,782	4,159,000	3,657,587	- 501,413	
子備費 (d4)	42,990	200,000	5,500	- 194,500	電気ポット購入 (事務局)
当年度支出合計 (D = d1 + d2 + d3 + d4)	6,284,258	7,358,000	6,273,200	- 1,084,800	
次期繰越金 (E = C - D)	26,195,231	26,008,231	26,889,364	881,133 ※4	
総収入合計 (C = D + E)	32,479,489	33,366,231	33,162,564	- 203,667	
当年度収支 (F = E - A)	763,753	- 187,000	694,133	881,133 ※3	

II. 2021 年度貸借対照表

(単位：円)

科目	金額	備考	科目	金額	備考
資産の部					
流動資産	56,135,570		流動負債	29,246,206	
現金預金	56,135,570		基金寄付預り金	29,246,206	
			正味資産		
			(前期正味資産)	(26,195,231) ※2	
			(当期正味資産増減)	(694,133) ※3	
			当期正味資産	26,889,364 ※4	
資産の部計	56,135,570 ※1		負債・正味資産の部計	56,135,570	

当期正味資産 (次期繰越金) の内訳

(単位：円)

内訳		金額
預金 みずほ銀行		27,249,113
内訳 (定期預金)	(普通預金)	11,000,000
	(普通預金)	152,466
	(普通預金)	15,243,964
	(普通預金)	852,683
貯金 郵便貯金		28,886,457
内訳 (郵便貯金)	(郵便貯金)	6,270,718
	(郵便振替)	22,615,739
預貯金合計		56,135,570
資産合計 (次期繰越金)		56,135,570 ※1

(注) この他に、紫友スタジオ分敷金 322,224 円がある。

2021 年度会計の原簿及び諸証拠書類を照合した結果、正確に処理されていることを認めます。

2022 年 4 月 30 日

監事 高橋 俊一 ㊟

監事 伊藤 みどり ㊟

監事 月田 陽子 ㊟

以上の通り報告いたします。

2022 年 4 月 30 日

会長 戸叶 司武郎

● 2021 年度基金事業に関する決算報告書

I. 2021 年度収支実績

2022 年 3 月 31 日

1. 収入

(単位：円)

収入内訳	2020 年度実績	2021 年度予算	2021 年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
寄付金	6,600,113	6,000,000	5,000,087	- 999,913	
利息	98	1,000	92	- 908	紫友会寄付預り口座
収入計 (A)	6,600,211	6,001,000	5,000,179	- 1,000,821	
前期繰越金 (B)	42,123,844	38,292,742	38,292,742	0	
収入総計 (A + B) = C	48,724,055	44,293,742	43,292,921	- 1,000,821	

2. 支出

(単位：円)

支出内訳	2020 年度実績	2021 年度予算	2021 年度実績	予算比 (実績-予算)	備考
局運営費					
① 交流局	29,925	492,000	55,674	- 436,326	紫友スタジオ消耗品、交通費等
② 教育支援局	2,940	40,000	0	- 40,000	会議費、交通費、郵送料
③ 環境企画局	0	40,000	34,724	- 5,276	小石川の社資料作成、植樹祭反省会
④ 基金局	0	10,000	0	- 10,000	会議費、交通費、郵送料
⑤ 伊藤長七研究委員会	0	139,000	9,900	- 129,100	書籍購入
⑥ 特別委員会	49,363	0	0	0	「みんなの百年」部会
小計	82,228	721,000	100,298	- 620,702	会議費・郵送料
事業費					
① 交流局	1,605,118	3,818,000	1,982,014	- 1,835,986	紫友スタジオ資料、電話代、備品等
② 教育支援局	3,155,543	5,220,000	1,551,034	- 3,668,966	他部活支援
③ 環境企画局	68,640	1,050,000	462,000	- 588,000	小石川の社 PJ (植樹祭 2 年分実施)
④ 基金局	146,300	200,000	0	- 200,000	基金 PR パンフレット制作
⑤ 伊藤長七研究委員会	0	0	0	0	
⑥ 特別委員会	4,435,200	200,000	0	- 200,000	「みんなの百年」制作費
小計	9,410,801	10,488,000	3,995,048	- 6,492,952	
事務運営費					
1. 人件費	652,320	1,864,000	535,338	- 1,328,662	事務局 2 人 (常勤・非常勤)、交流局 (スタジオ管理 1 名)、アルバイト
2. OPP 封筒代	15,275	0	0	0	みんなの百年 (1/20 部) 発送費
3. 宛名紙作成・印刷費	57,760	0	0	0	みんなの百年 (1/20 部) 発送費
4. 封入作業費	39,812	0	0	0	みんなの百年 (1/20 部) 発送費
5. 局出し費用・郵送料	147,121	0	0	0	みんなの百年 (1/20 部) 発送費
6 その他経費	25,996	0	0	0	みんなの百年 (1/20 部) 発送費
小計	938,284	1,864,000	535,338	- 1,328,662	
子備費	0	300,000	0	- 300,000	
支出合計 (D)	10,431,313	13,373,000	4,630,684	- 8,742,316	
次期繰越金 (C - D) = E	38,292,742	30,920,742	38,662,237	7,741,495	
再計 (D + E)	48,724,055	44,293,742	43,292,921	- 1,000,821	
当年度収支 (A - D)	- 3,831,102	- 7,372,000	369,495	7,741,495	

II. 2021 年度貸借対照表

(単位：円)

科目	金額	備考	科目	金額	備考
資産の部					
流動資産	38,662,237		負債・正味資産の部		
現金預金	9,416,031		正味資産		
未収金	29,246,206		普通預金：寄付預り口座	38,292,742	
			当期正味資産増減	369,495	
			当期正味資産	38,662,237	
資産の部計	38,662,237		負債・正味資産の部計	38,662,237	

当期正味資産 (次期繰越金) の内訳

(単位：円)

内訳		金額
預金 みずほ銀行		9,416,031
内訳 普通預金：寄付預り口座		9,416,031
預貯金合計		9,416,031
その他資産	未収金	29,246,206
資産合計 (次期繰越金)		38,662,237

2021 年度会計の原簿及び諸証拠書類を照合した結果、正確に処理されていることを認めます。

2022 年 4 月 30 日

監事 高橋 俊一 ㊟

監事 伊藤 みどり ㊟

監事 月田 陽子 ㊟

以上の通り報告いたします。

2022 年 4 月 30 日

会長 戸叶 司武郎

同窓会会計 2022 年度予算案

1. 総括

(単位：円)

当期収入総額	当期支出総額	当期収支
7,171,000	7,343,000	- 172,000

2. 収入

(単位：円)

収入内訳	2021年度予算	2021年度実績	2022年度予算	予算比 (実績-予算)	備考
年会費	6,150,000	5,994,000	6,150,000	156,000	2021年度納入会員 2,997名(対象者 約19,000名)
入会金 (会費5年分込)	900,000	888,000	900,000	12,000	2021年度入会者 148名(@6千円)
利息	1,000	333	1,000	667	
寄付	0	0	0	0	寄付は基金会計に 計上
広告料	120,000	85,000	120,000	35,000	会報掲載広告料
当年度収入計(A)	7,171,000	6,967,333	7,171,000	203,667	
前年度繰越金(B)	26,195,231	26,195,231	26,889,364	694,133	
収入総計 (A+B)=C	33,366,231	33,162,564	34,060,364	897,800	

3. 支出

(単位：円)

支出内訳	2021年度予算	2021年度実績	2022年度予算	予算比 (実績-予算)	備考
部活後援局	10,000	0	60,000	60,000	OB・OG会活動支援
広報局	44,000	31,128	54,000	22,872	会報・ホームページ・メルマガ・SNS等
資料局	10,000	0	10,000	10,000	資料室管理、デジタルアーカイブ維持管理
事務局	10,000	6,022	10,000	3,978	事務・会計・名簿管理・情報管理・総務庶務・法務対応・資料作成
小計	74,000	37,150	134,000	96,850	
部活後援局	0	0	0	0	OB・OG会活動支援
広報局	1,830,000	1,705,000	1,930,000	225,000	会報・ホームページ・メルマガ・SNS等
資料局	0	0	0	0	資料室管理、デジタルアーカイブ維持管理
事務局	600,000	593,555	600,000	6,445	名簿システム使用料
	150,000	150,100	150,000	- 100	卒業記念品(印鑑)
	165,000	124,308	165,000	40,692	プロバイダ・サーバー利用料、IT環境整備等
	180,000	0	180,000	180,000	東洋文庫会費
小計	2,925,000	2,572,963	3,025,000	452,037	
1. 人件費	1,000,000	825,428	850,000	24,572	事務局員報酬(常勤2名)
2. 消耗品 備品費	890,000	967,740	890,000	- 77,740	会報宛名印字、封入袋、PC/WLAN/コピー機関連、プリンタ関連
3. 光熱費	30,000	41,964	30,000	- 11,964	事務局電気料金
4. 郵送料	1,684,000	1,289,186	1,434,000	144,814	会報発送・封入セット、委員会案内状発送、切手他
5. 電話代	70,000	72,202	70,000	- 2,202	事務局電話料金
6. 振込手数料	450,000	456,947	600,000	143,053	郵便振替、銀行振込、自動引落手数料他(事務局)
7. 会議費	5,000	1,073	65,000	63,927	評議委員会懇親会費用補填、茶菓等(事務局)
8. 慶弔費	20,000	3,047	30,000	26,953	祝電・弔電、供花(事務局)
9. 交通費	5,000	0	5,000	5,000	事務局員交通費
10. 雑費	5,000	0	10,000	10,000	印紙代、合鍵等(事務局)
小計	4,159,000	3,657,587	3,984,000	326,413	
予備費 (基金除く)	200,000	5,500	200,000	194,500	
当年度支出合計(D)	7,358,000	6,273,200	7,343,000	1,069,800	
次期繰越金 (C-D)=E	26,008,231	26,889,364	26,717,364	- 172,000	
再計(D+E)	33,366,231	33,162,564	34,060,364	897,800	
当年度収支 (A-D)	- 187,000	694,133	- 172,000	- 866,133	

基金会計 2022 年度予算案

1. 収入

(単位：円)

収入内訳	2021年度予算	2021年度実績	2022年度予算	予算比 (実績-予算)	備考
寄付金	6,000,000	5,000,087	6,000,000	999,913	
利息	1,000	92	1,000	908	
当年度収入計	6,001,000	5,000,179	6,001,000	1,000,821	
前年度繰越金	38,292,742	38,292,742	38,662,145	369,403	
百周年募金残金(同窓会口座)					
百周年募金残金(紫友会口座)					
特別会計					
収入計(A)	6,001,000	5,000,179	6,001,000	1,000,821	
前年度繰越金(B)	38,292,742	38,292,742	38,662,145	369,403	
収入総計 (A+B)=C	44,293,742	43,292,921	44,663,145	1,370,224	

2. 支出

(単位：円)

支出内訳	2021年度予算	2021年度実績	2022年度予算	予算比 (実績-予算)	備考
①交流局	492,000	55,674	462,000	406,326	交流室事業
②教育支援局	40,000	0	15,000	15,000	教育支援局事業
③環境企画局	40,000	34,724	40,000	5,276	環境企画局事業 (小石川の杜PJ)
④基金局	10,000	0	10,000	10,000	基金局事業(返礼品)
⑤伊藤長七研 究委員会	139,000	9,900	139,000	129,100	諏訪寒水会、小諸寒水 会出張旅費
⑥105周年事 業	0	0	100,000		【新設】105周年事業の 準備費用
⑦特別委員会 (みん百残作業)	0	0	0	0	みん百部会残作業
小計	721,000	100,298	766,000	665,702	
①交流局	3,818,000	1,982,014	4,222,000	2,239,986	交流室事業
②教育支援局	5,220,000	1,551,034	5,370,000	3,818,966	教育支援局事業
③環境企画局	1,050,000	462,000	950,000	488,000	環境企画局事業 (小石川の杜PJ)
④基金局	200,000	0	800,000	800,000	基金局事業(返礼品)
⑤伊藤長七研 究委員会	0	0	0	0	
⑥105周年事 業	0	0	0	0	
⑦特別委員会 (みん百残作業)	200,000	0	200,000	200,000	みん百部会残作業
小計	10,488,000	3,995,048	11,542,000	7,546,952	
1. 人件費	1,864,000	535,338	1,520,000	984,662	事務局3人(常勤1、非 常勤2)、交流室(紫友 スタジオ管理1名)
2. OPP封筒代	0	0	0	0	
3. 宛名台紙作成 印刷費	0	0	0	0	
4. 封入作業費	0	0	0	0	
5. 局出し費用・ 郵送料	0	0	200,000	200,000	返礼品送料(基金局)
6. その他経費	0	0	0	0	
小計	1,864,000	535,338	1,720,000	1,184,662	
予備費	300,000	0	200,000	200,000	
当年度支出合計(D)	13,373,000	4,630,684	14,228,000	9,597,316	
次期繰越金 (C-D)=E	30,920,742	38,662,237	30,435,145	- 8,227,092	
再計(D+E)	44,293,742	43,292,921	44,663,145	1,370,224	
当年度収支 (A-D)	- 7,372,000	369,495	- 8,227,000	- 8,596,495	

紫友同窓会 2022 年度役員一覧 2022/6/28

役員	評議委員	新任・留任・再任	備考
会長 027C 戸叶 司武郎		留任 (2期2年目)	交流局・教育支援局 局長
副会長 021G 鈴木 由美子☆		新任	特命事項担当
副会長 022E 並木 隆	○	留任 (2期2年目)	広報局 局長
副会長 028C 小堤 康史		留任 (2期2年目)	(一財)紫友会 理事長
副会長 040G 中代 次郎	○	留任 (2期2年目)	部活後援局 局長
理事 017A 高井 俊成		留任 (2期2年目)	基金局 局長
理事 018I 河井 興正		留任 (2期2年目)	交流局・基金局 局員
理事 019E 伊藤 正俊	○	留任 (2期2年目)	基金局 局員
理事 021A 岡村 幸二		留任 (1期2年目)	環境企画局 局長
理事 022D 杉測 武	○	留任 (2期2年目)	基金局 副局長、環境企画局 局員
理事 023C 古山 光久	○	再任 (2期1年目)	伊藤長七研究委員会 委員長
理事 030H 笠原 盛泰	○	留任 (1期2年目)	交流局 紫友経済人交流会担当
理事 031D 清水 茂※	○	留任 (3期2年目)	事務局 局長
理事 032I 富田 晴彦	○	留任 (2期2年目)	特命事項担当 (105周年準備)
理事 034E 大場 賢一☆		新任	教育支援局
理事 035C 虫明 智恵子		留任 (2期2年目)	広報局 局員
理事 035D 河村 英敏	○	留任 (2期2年目)	交流局 副局長
理事 035G 安藤 真規子		留任 (2期2年目)	部活後援局 局員
理事 035G 松本 好史		留任 (2期2年目)	広報局 局員
理事 064B 渡邊 和真		留任 (2期2年目)	IT 環境改善担当
監事 019E 高橋 俊一		留任 (1期2年目)	活動及び会計監査担当、広報局・環境企画局 局員
監事 028E 伊藤 みどり		留任 (2期2年目)	活動及び会計監査担当
監事 029B 月田 陽子	○	留任 (2期2年目)	活動及び会計監査担当

☆ 新任役員

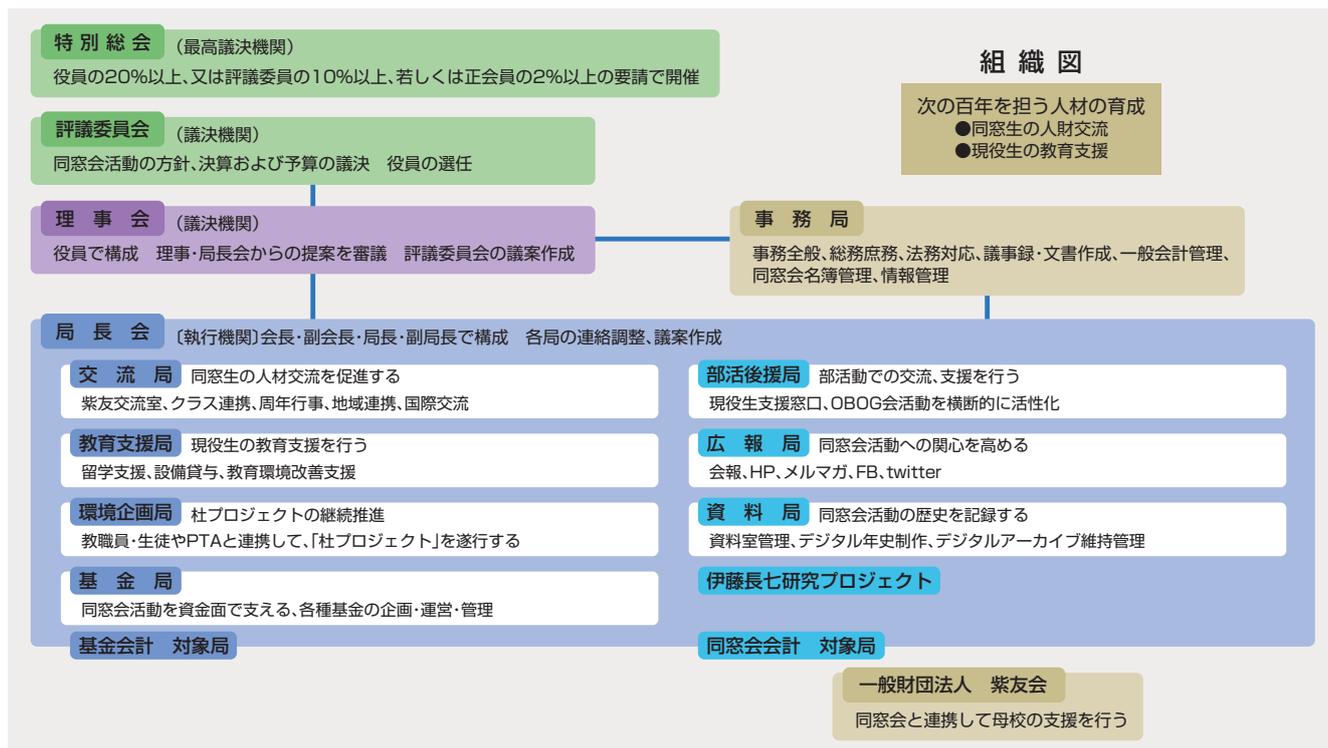


副会長 鈴木由美子



理事 大場 賢一

紫友同窓会 新組織図



同窓生訪問



「開拓」編集部の3年間と 進路を決めた川野先生の助言

2022.4.8

022H 御厨 貴

近・現代の日本政治史研究にオーラルヒストリー（当事者への聞き取り）の技法を駆使して、政官財の様々な人物像と政策決定過程に切り込み、新たな地平を切り開いた御厨貴（みくりやたかし）さん。そのお名前は狭い学問の世界を飛び越えて、一般向けの多数の著作、新聞・テレビなどマスコミ、さらに歴任した公機関の委員としての発言などから広く知られています。

そんな「物言う政治史学者」御厨さんの原点は、実は高2の3学期に校内誌「開拓」に発表した一篇の論文にあります。今回のインタビューでは、ジャーナリストの嶋沢裕志さん（026B）と歴史研究者の福留真紀さん（044C）が同席し、現代政治や歴史研究に関する踏み込んだ質問にも答えていただきました。 並木隆（022E）

◎お生まれはどちらですか。

——東京です。杉並区で生まれたらしいけど、小石川近くの文京区丸山町の公団住宅に当たって丸山町に移り、幼稚園までいました。幼稚園の途中で父親が福岡市の博多に転勤になり、昭和31年から38年の7年間ずっと博多で過ごしました。いきなり遠くの博多に行くと、まず困ったのは、

言葉がわからないこと。僕の顔を見て、いきなり「お前の顔を見て、腹かく」と言うんです。「腹かく」って何だろうと思ったら、要するに「自分は怒っている」と。こんな奴が近くに来て嫌だと思ったのでしょう。とにかく言葉を理解するのが大変でした。博多弁を使わないと子供社会では相手にされない。ところが父親、母親は全く逆で、自分達はまた東京に戻るんだから、博多弁に染まってはダメだと言われて……。親の前では東京弁を使い、子供達の世界では博多弁を使う。その頃から「国際政治」



をやっていました（笑）。

◎どんな少年時代でしたか。

——福岡市の西新の近く、今はちょっとした繁華街になっていますが、当時は何もない田舎。家の前に蓮池があってそこに落ちる奴もいた。川はあるしドブはあるし、昆虫取りとか蛇をどうやって捕まえるかとか。捕まえたカエルを牛乳瓶に入れて2B弾でバーンとやるとか、駆けっこして誰かを肥だめに落とすとか。僕は一人っ子ですが、ずっと誰かの後ろにくっついてやっていたな。僕がポケーッとしていると兄貴分の子がちゃんと教えてくれた。

◎その頃の映画やテレビ、スポーツについては。

——あの頃の福岡では中洲の朝日会館の中に映画館があって、親や仲間と一緒にいった覚えがあります。一番驚いたのは東宝の怪獣映画「モスラ」（1961年）。ザ・ピーナッツが出てくるやつです。

それと、僕は野球が苦手だったけれど、当時の子供は1も2もなく野球でした。西鉄ライオンズが三原脩監督の下でシリーズ3連覇（1956～58年）した頃です。稲尾和久や豊田泰光がいて、とにかく強かった。親父も野球が好きだったので、近所の子供達を集めて野球チームを作って、日曜日は一緒にガンガンやっていた。僕も一緒にやるのかと思ったけど、父親がやっているのに出るのもね（笑）。

◎東京に戻られたのは何年生でしたか。

——小学校6年生で博多から東京に戻ってきて、文京区立誠之小学校に入りました。そして誠之から文京六中、小石川高校というコースです。

◎東京に帰ったとはいえ、幼い頃の記憶はあまりないでしょうから、ほとんど新しい世界ですね。

——そうなんです。東京に戻ってきたら、誠之小の先生が、「今日から皆さんとは全く違う人が来ました。海の向こうから来た御厨君です」と。「君が九州から来た人か」と、珍獣を見るような目でみんなが見ている。僕が東京の言葉を使うと、「向こうではこれは何と言うんだ」とか、言葉の違いは子供にとってすごく違和感があるから、それが差別につながっていく。随分いじめられて大変でし

たよ。両親に言う訳にもいかないし。ただ、小学校はすぐ終わって、文京六中に行っちゃったから、そこで友達関係はリセットされました。

◎中学時代の思い出は。

——生徒が多くて、I組まであった。僕等より上はJ組までありました。狭い校庭に並んだだけで一杯になって「気を付け」もできない。あの頃の六中は日教組が強かった。僕の担任は文京区の日教組の親玉みたいな人で、「お前達。我々は虐げられたのだから、いざとなったら今の政府を倒さなければならない」とか言ってね。家に帰って父親に話すと、「お前のところはどんな教育をしているんだ」と(笑)。日本国憲法も全部暗唱させられた。「先生、意味が全然わからないですよ。僕の間ではあまりきれいな日本語ではない気がする」と言ったら怒られてね。「そんなことはない。これは日本の理想だ」と。

中学時代の最大の出来事は学校群(入試制度)の導入ですよ。僕くらいの成績だったら小石川に行けるつもりで受験勉強なんて特にやらなかった。ところが中3の年になって突然、学校群となって、しかもいきなり適用することになった。普通は試行期間を置くでしょう。小尾席雄という当時の東京都教育長が副知事になりたくてやった、という話もあります。眞田(幸男)校長なんかは、ずいぶん反対したんだけど。

◎当時のテレビでも、受験制度について中学生として発言されたそうですね。

——「小川宏ショー」(編集注・フジテレビ系列のモーニングショー)に10人くらい各校の学級委員が呼ばれて行ったんですが、本番ではみんなシーンとしていたので、生意気を言ったんだね。選択の自由、この1点で学校群に反対であると。後になって、眞田先生と同じことを言っていると知りました。やっぱり不条理だと思った。普通は小石川に入りたい、竹早に入りたいと思って受験するのに、何群に受かってそれから割り振るって変でしょう。

小石川に当たった方は、まあ色々あったにせよ高校生活は楽しく送れたけれど、竹早に回った連中は不満がたまっているから、結局、高校紛争を起こします。だから竹早の方が小石川より紛争は激しかった。僕等が感じたのは、2年生から上が僕等を見る目つきが違う。「学校群で薄まった奴らが来ている」と。こんなこと言うのかよ、と思ってね。一部の先生にもそんなことを言う人がいたけど、2年生から言われるのは嫌だった。「俺たちは良かったな、薄まらなくて」とか。

◎担任や思い出に残る先生は。

——担任は化学の長谷川俊明先生です。後の僕との関

係で言うと、A組の担任で学年主任だった政経の川野健二郎先生には本当にお世話になりました。(69年に始まる)学園紛争では2年生が騒ぎ出し、我々3年は抑える側に回っていました。あの時、2年生の「全闘連」が出した4項目要求に「回答」を書いたのが川野さんです。校長先生も一番に頼りにしていましたね。

ゴン次(鈴木由次)さんとか、地理の斎藤薫さんとかも覚えています。斎藤先生は代々木ゼミナールの講師を兼ねていたから授業がうまい。代ゼミで使っている参考書を、我々にも「強制はしないけど買った方がいい」と言うから、みんな買うよね。愛嬌があって面白い人だった。



022期担任団
(前列左端 長谷川俊明先生、左から二人目 川野建二郎先生)

◎クラブ活動は「開拓」編集部ですね。当時発行の第54～56号にお名前が載っています。

——活字に興味があったけれど、入って見たら開拓編集部はもう潰れそうだった。男はほとんどいなくて、僕の他は全員女性でした。その女性達から勧誘を受けて、「男がいなくて潰れるから入って」と言われて。2年生の時に編集長になったのですが、そんな雑誌をやりたがる人はだいたい左系なんですよ。僕自身はどう見ても左系でないから、東大に入った先輩がしごきに来るんです。「お前の思想の程度を試してやる」とか言って難しいことを言う。こっちは適当に答えていると、「お前は雑誌の編集長なんてやるタマではない。思想と哲学がない限り、伝統ある『開拓』の編集長は許されない。1年間にこれだけの本を読め」と、マルクスの資本論みたいな類の本を渡されました。「これが最低限の教養だ」と。そう言われて、嘘だろ? 絶対に読まない、と思った。

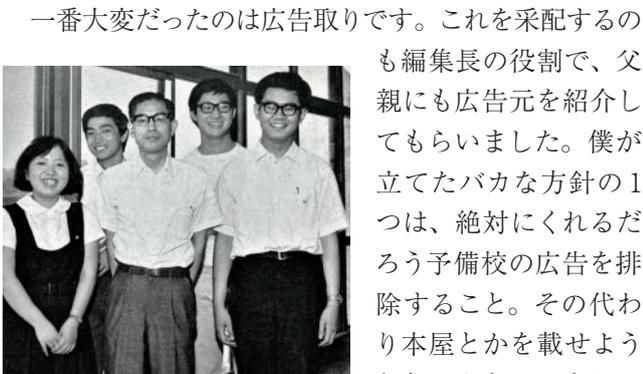
後年、その人に会ったら、銀行に入って偉くなっていた。何か遠慮して喋っているから、「あなたはあの時、僕にマルクスを読めとか言ったでしょう」と言うと、「そんな覚えはない」と(笑)。

だから僕は思想誌にするつもりはなかったし、仲間もみんなそうでした。少し柔らかい、今で言うと、岩波書



「開拓」第53～55号(1968～1970年)

店の「世界」的な路線はやめて、「文藝春秋」みたいな路線で行こうというのが僕の考えでした。あまり硬くないのをやろうと。だから楽しかったですよ。



開拓編集部と御厨さん(右端)

一番大変だったのは広告取りです。これを采配するのも編集長の役割で、父親にも広告元を紹介してもらいました。僕が立てたバカな方針の1つは、絶対にくれるだろう予備校の広告を排除すること。その代わり本屋とかを載せようと色々なところを回った。国語の先生達にも紹介してもらいました。夏休みを使って、みんなで手分けして行ったものです。

◎「開拓」55号に寄稿された「平沼騏一郎と国本社」は昭和初期の政治を取り上げていますが、内容は普通の高校生が取り上げるテーマとは思えません。

——中学の頃からとにかく近代史が好きでした。何で平沼に惹かれたかと言うと、色々な本を読んで勉強していた時に、立法・司法・行政の中で、司法というのはあまりよくわからないけど、面白いんじゃないかなと思って、そこから入りました。政治家を研究するのではなく、「司法官」というのは一体どんなことをやっているのかと手繰り寄せたら、平沼に行きついた。



平沼騏一郎と国本社

唯一、司法官で総理大臣になった人です。戦前、司法官が総理になることにどんな意味があったのだろうと思ってね。そして独学で調べるうちにまとめたくなった。2年生の

ひと夏を使って書き上げ、それが(翌年3月に)「開拓」に出たらみんなが驚いた訳です。

高3になって川野さんの授業が始まった時に呼ばれ、「お前、これを誰に教わった?」と聞かれました。「僕1人で書きました」と言ったら、「本当か?」と。「そうです」と答えると、「これはなかなか面白い」と言われました。

朝日新聞夕刊の「心の開拓」という小さなコラムにも載りました。新聞を見て、川野さんがまた僕を呼びます。「君、進学はどうする?」「入れるかわからないけど、東大に行きます」。もともと日本史に興味があったから、「文学部、当時の文Ⅲを受けて、そっちの方向の研究に進みたい」と言うと、川野さんがニヤッと笑って、「君、文Ⅲはちょっと潰しがきかないよ。研究者でダメとなった時に行くところがない。だから法学部を受けろ」と。川野さんの言っていることは世間と逆なんですね、法学部だったら普通は官僚になれると言うでしょ。だけど「もし研究者になれなかったら、官僚にもなれる」と逆の論理を語っていた。その時、初めて政治史が東大の法学部にあると知りました。法律の方で行けば法制史というのがあると。川野さんは「政治史は戦前、岡義武先生に習った。リベラルで良い先生で、その先生の系統の人が今もいるだろうから、とにかくそこへ行け」と言ってくれました。それを親に伝えると、「じゃあ、文Ⅰ受けてみる?」みたいな感じでした。受けると言ったって、だいたい小石川は3年で受かるということはないから、4年で。(笑)

◎それは的確なアドバイスでしたね。

——そうなんです。僕は川野さんに会わなかったら、今の道はないと思っている。僕が書いた物を読んでくれ、自分が習った東大法学部に行って、政治史の勉強をしろと言ってくれた。だから1年浪人して法学部に入り、岡先生の後継者である三谷太一郎先生が日本政治史をやっていたから、三谷先生のゼミを取って、研究者になりたくて法学部の助手になった。あの時の川野さんは本当に冴えていたなあ(笑)。

小石川のお陰で「開拓」編集部に入って、自分で勝手に文章を載せて。そこで僕の将来が、職業選択が決まったわけで、今考えてもすごく幸せだったと思います。高校でそういうことに出合って、それからもう50年近く、同じ道をずっと歩いて来られたのだから。

◎東大法学部での歴史研究は、明治以降の近代・近世の研究だったのですか。

——近代でした。近世以前は法制史がやっていた。明治維新から後、幕藩体制が崩壊する時期から後は政治史がやるということで、僕も入ったということです。

◎東大の助手時代、どんな関心から研究テーマを決めたのですか。

——最初は、敗戦に至る日本に興味があったから、昭和戦前期をやりたいと先生に申し出ましたが、ダメだと言う。「なぜダメなんですか」と聞くと、「学問としては、まだ生きている人が沢山いる時代はやめろ。今、お前が仮説を立てて、こうだと書いてみる。その時、生きている人から『これは俺の実感と違う』と言われたら、これは反論のしようがない。だから、生きている人が物理的にいなくなる時まで、学問にはならんのだ」と言われました。そうか、昭和戦前期は学問にならないのか。だったら、近代日本がスタートした時点の、明治に戻って研究するのがいいかと思って、明治国家の研究に転じたわけです。

運が良かったのは、その時、国会図書館に戦前の、特に明治期の政治家の書簡が大量に入って、それが整理されて僕等が見られるようになったこと。最初の論文を書くに当たっては、草書体文字を克服して読んで、伊藤博文の書簡とか、天下の元老の書簡をずいぶん読みました。これが血肉になった。国会図書館の憲政資料室が、生の資料をそのまま僕等に見せてくれたのです。ところが今は全部コピーになって、しかも全部機械化されていて、ボタンを押すと自分の見たいところがビビッと出てくる。そうなっちゃったから、今の人は多分、実感がない。書簡なんていうのは、折り方一つでも色々ある。そういうのが電子化されちゃうと、それがわからない訳ですから。

例えば、伊藤博文は1つの紙の中にきちんと書くんです。だからわかりやすい。やはり性格が悪くないんだね。山縣有朋の手紙は、自分の書いたところを変に折り込んで極めて読みにくい。僕等はそれを見て、この人はやっぱり性格が歪んでいるんだなと思う。もう1人、鹿鳴館時代の井上馨。これはまた何を書いているかわからない。途中で興奮してくるもんだから、漢字がわからないと全部かなになって、ぐちゃぐちゃと横になったり縦になったりして書いている。元勳と言っても、性格というのはやっぱり色々あるものだなと。それでもまだ長州は読みやすいんですよ、京都に近かったから。

薩摩の松方正義とかは、もう読めないの。とにかく勝手に崩しているから大変なんです。原稿用紙に書き写すんですが、その際に長州のものは読めないところがあっても、ああ2字分だなとわかるけれど、松方はくしゃくしゃして何字分だかわからない。だから5字分くらい空ける程度たまると、草書体が読める人達のところで読んでもらいました。すると「いくら何でも薩摩だって5文字も空ける必要はないよ。」なんて言われましたが。

そんなことをやって、書簡を読む楽しみを覚えました。書簡というと、「いま電子文字で打つやつと変わらない

でしょ」とよく言われますが、全然違う。書簡は筆で書く以上、そのスピードである程度まとまった内容を書いて出すことになる。それは研究者からしたら一番いいわけ。彼ら自身がまとめてくれているんだから。場合によっては、この人の書簡がこっちに行って、その返事がこっちにあたりする。すると、これは対話しているなということがわかって、当時の政治空間がよく見えてくる。明治の草書体を読んだことが、僕の最初の本を書く成果になりましたが、これで随分と政治の世界を知り、面白いなあと思いました。

◎研究は、都立大に移ってからでも続けたのですか。

——はい。ちょうど都立大でポストが空いていたので、うちの先生が売り込んでくれて、研究の続きをやっていたんです。問題は、困ったことに僕は敗戦のところをやりたいと思ったから、とにかく時代を下って行きたかった。やってみると、大正ぐらいまではまだ手紙があるけれど、昭和になるとピタッとない。何故かと言うと、電話が登場したからです。あの頃からみんな電話でやるようになった。電話では内容が消えちゃう。これは困った、ここからはやり方を変えなくちゃいけないと思って。そこで今度は、政治家の日記だとか、そういう物を追い求め、さらには公文書をいかに読み込んで行くかなどと考えたりして幅を広げました。明治の書簡から始めて、大正、昭和をやって、戦後をずっと追って今日に至るわけです。

戦後でも一番面白かったのは、吉田茂ですよ。吉田茂は「書簡政治」の最後ですから。僕等も知らなかったけれど、書簡を郵便局に行ってポストに入れるのではない。書生が相手の政治家のところへ持って行く。そして、その人が返事を書くまで書生はじっと待っているんですよ。それを持って帰ると、吉田茂がそれに返事を書く。この書簡政治が結構、面白かった。

◎アメリカ留学は、都立大から移られる前ですか？

——そうです。あの当時は2年行かせてくれて、非常に助かった。昔は教授、助教授のポストが空いていても文科省が文句を言わなかった。それは適任者がいないからで、適任者が現れた時にすぐ就けるように空けておくという理屈だった。今はだんだんせせこましくなって空けちゃいかん、どんどん入れろと。そうすると2年も留学すると、戻ってきてポストがないことが現実に起きる。そういう風になってしまった。

僕はハーバード大学に行って、その時はカミさんも子供も一緒に連れて行ったんだけど、やはり生活することが大事だね。本当は3年くらい居た方が能率は上がると思うけれど。

◎アメリカでオーラルヒストリーと出会った？

—はい。僕がアメリカで色々見て、これはすごいと思ったのは、オーラルヒストリーをやっていたことです。人の証言を聞いてそれを活字化、文字化していく。一番よくやっているのはコロンビア大学でした。

コロンビア大でのスタートは、第2次世界大戦を明らかにするために、現実には戦った将軍や政治家の証言を集めたことでした。オーラルヒストリーの教育も盛んで夏休みの講座もある。そこでは質問の仕方とか、聞いたことをどういう風にレコーダーにとるとか、権利関係をどうするかとかを教えてください。

ハーバードはそれと違って、いかにもハーバードらしいけれど、なぜベトナム戦争に負けたか。これがオーラルを使った歴史事例研究の始まりでした。やはり戦争が1つのきっかけになっているんだな、と痛感して、そこで随分やり方等を勉強しました。

◎帰国された後はどうでしたか？

—日本に帰ってきてオーラルヒストリーをやろうと思ったら、これが大変でした。あの当時、今から約30年前は、日本の役人にとって沈黙は金、雄弁は銀どころか銅以下(笑)。しゃべる奴はとにかくあかん、という話でね。最初に大蔵省に話を聞きに行ったら、偉い人が出て来て、あの省って本当に嫌だと思っただけけれど、ニコニコしながら嫌なことを言う。僕みたいな若い者に、事務次官みたいな年寄りが「先生ね」と言うんだよ。「御厨先生ね、私達お互いを何と呼んでいるかご存知ですか」「えっ?」「名前は呼びませんよ。何々課長、何々審議官と言いますでしょ。時には名前も付けないで、審議官、局長と。これが我々の世界です。だから1人ひとりの個性なんか発揮できるところはないんです。そんなものを取ったって無駄です。課長は当然言うべきことを言い、局長は言うべきことを言っているんです。日本の場合、これが官僚制の特徴です」とベラベラしゃべって。この野郎と思いましたね。

それでも「上手の手から水が漏れる」というか……。



インタビュー風景

大蔵省って長いことオーラルヒストリーをやっているんです。自分達だけで取得して、あの時の決定はこうだった、とか全部やって記録を残している。その記録の一部を古本屋に売り飛ばした奴がいるから古本屋でその記録を買って、大蔵省に行きました。「やってるじゃないですか」と。

大蔵省が本当にすごいと思ったのは、窓口の奴が眉一つ動かさず、「御厨先生が今、お持ちになったものは大蔵省のものではありません」と言う。「だって次官って書いてあるじゃない。これ直したりしているじゃない」と言っても、「これは大蔵省のものではありません」「じゃあ贋物ですか?」「贋物とは申し上げていない。とにかく大蔵省のものではない。贋物とか言うともた問題になるから、大蔵省のものではない、と言われて。これはうまい答え方だなと思った。最近、公文書管理がどうのこうのと揉めた時も、財務省の奴は言い抜けたけれども。

大蔵はしゃべらなかつたけれど、通産、外務、このへんがしゃべってくれて。あとは内務省の官僚に食いつくしかないというので、後藤田正晴さんのところに行って、後藤田さんとか奥野誠亮さんらのオーラルヒストリーをやったという経緯なんです。

◎大物警察官僚から代議士になって「カミソリ後藤田」と言われましたね。

—ある頃から、みんなしゃべり始めました。石原信雄官房副長官なんか、彼がしゃべりたいと言うので行って、あの時は「中央公論」に載せましたが、あれも結構、問題になった。「石原はしゃべり過ぎだ、直近のことをしゃべり過ぎた」と。

ただ、後藤田さんのオーラルをやっている時に、こう言われた。「なあ、俺のところいろんな奴が来るんだよ、石原はしゃべり過ぎだと。あれは公務員法違反だから注意して、しゃべるのを止めさせて下さい、と言ってくるんだよ」「どうなさったんですか?」「だってお前、俺は80近い爺さんだ。石原は70過ぎの爺さんだ。ジジイがジジイにそんなこと言えるか」。その一言でニヤッと笑って、そんな者は追い返したと。彼がその時言ったのは、「機密は確かにあるかも知れないが、その判断は本人の判断であって、一般的な機密なんて本当はない。だから石原がしゃべりたいと思ったら、そのまましゃべればいいんだ」ということです。石原さんがしゃべってくれたお陰で、1990年代の複雑な日本政治史が結構わかるようになった。他の人に質問した時に、「この程度のところまで石原さんはしゃべっていますよ」と言うと、しゃべってくれるようになった。石原さんはそういう点では非常に良かったし、それを後藤田さんは容認しましたね。

後藤田さんの時も、最初は理論闘争ですよ。オーラルヒストリーというのはこういう良いことがある、と話す、

「御厨君に非常に役に立つことはわかった。しかし、俺にはないと思う」「いやいや、世の中の歴史を正す」「そんな役目を俺は考えてもいない。しかも俺が今までやって隠していたこととか、嫌だなと思っていることを全部しゃべらせるわけだろ。気持ち良くない。老人の健康にとって非常に良くない。だから俺はしゃべらない」。そこから始まって、ここで帰ったらおしまいだと思ったから、2時間ぐらい粘って、色々効能とかを説くと、だんだん面倒臭くなったらしくて、「じゃあ1回だけやるか」と。そこで、1回だけだと中途半端なので次を続けなくちゃと言ったら、何となく彼もやる気になって、それでずっと続いていった。

◎聞き取りの時は、お1人で行くのですか？

——1人では質問の応酬の時に怯んだりするから、「老壮青」で行きました。僕より年嵩の先生1人と、当時50代の僕と、30代くらいの若手を連れて。後藤田さんの時も若い大学院生を一遍連れて行ったのですがこれには作戦がありました。後藤田さんは、徳島で最初に参議院に出た時に違反をやった。今回はこれも聞かなくてはいけないけど、僕はその勇気がない。で、何も知らない若者に言わせようと思ったんです。事前の打ち合わせで、彼が「あの違反出した時の……」なんて喜んでいるから、それをお前が聞けと。「先生、聞かないんですか？」「いや、とにかくお前が聞け。聞いたら後はうまく引き取るから」。すると案の定、「あの時はどうしてあんなに違反を出したんですか」とズバツと聞いちゃった。そうしたら後藤田さんは一瞬ハツとなって。そんなことを僕等が言ったら怒ったと思うけれど、「お前なあ、痛いこと言うよなあ」と言いながらベラベラしゃべり出す。まあ、子供に話す感じだったんでしょう。そんな調子で後藤田さんとは27回やった。だいたい1回2時間として50～60時間は付き合ったことになります。

これがすごく良かったので、『情と理』として講談社から上下2巻を出した。ちょうどその頃に講談社は村上春樹の「ノルウェイの森」(上下2巻・赤と緑の色違いの表紙カバー)が売れていました。そこで広告担当が、似せた表紙にして店頭に置いたら間違えて買ってくれるんじゃないかとバカな作戦を立てて三省堂の入ったところにワーツと広げたら、本当に売れました(笑)。あの時だけです、20万部も売れたのは。

ありがたかったのは、印税をどうするという話になった時には、圧倒的にしゃべった方に印税が行くわけですが、後藤田さんは「俺が貧乏学者から1千万円も取れんよ。もう年金生活になっているから、臨時収入が来ると大変なんだ。痛くない腹を探られてもいやだから全部やる。お前のところに寄付する」と。結局、当時の政策研

究大学院大学と講談社に寄付してくれました。それが原資になって、その先をやっていけましたから。

◎政策研究大学院大学から東大先端科学技術センターに移られて、併せてTBS系「時事放談」のキャスターを務められました。この頃から新聞の書評なども含めて社会への発信が増えてきました。

——時事放談は政治家が2人來ます。一番面白い話が聞けるのは、実はメイクルームなんですよ。メイクルームでは気張っていないから、そこで彼等の本質がポロツと見える。だいたい政治家は魔物ですよ。普通の人間だと考えちゃいけない。登場すれば一応、やあやあと言っているけれど、お互いに、こいつ、と思っていることが多くて、今日の45分でこいつをギャフンと言わせてやろうみたいな感じで来ている。仲良く話をしているフリをしているけれど。

一番面白かったのは、同じ田中派で、もうどちらも亡くなられた渡部恒三さんと野中広務さん。野中さんの方が後から来た人で、渡部さんは「七人の侍」とか言われて、田中、竹下派の中核にいた人です。ところが時事放談をやった頃は、渡部さんは民主党に出ちゃったこともあってやや落剥している。野中さんも引退はしたけれども、まだ花が咲いている感じがする。メイクルームに新聞記者が入って来て、みんな集まってあの時はお世話になりましたとか、野中さんをご機嫌になってしゃべっている。一方で、渡部さんのところには記者が来ない。そうすると渡部さんの顔色がだんだん変わってくる。そして大声を出し、「野中さん、あんたそこで威張っているけれども、あんたが京都で最初に立候補した時の、最初の会場で応援演説をぶったのは誰か覚えておるか」。すると野中さんがシャキッと立ち上がって、渡部さんに向かって「それは渡部先生でありました。あの時、先生に応援していただいたお陰で今日の私があるのであります」と深々とお辞儀をする。ほとんど歌舞伎みたいな世界です。渡部さんはニタツと笑って、「なんや、覚えとったんかいな」(笑)。これはすごい世界だなと思った。

◎東日本大震災の時の話を伺いますが、政府の「復興構想会議」の議長代理に就任されましたね。

——議長となる五百旗頭眞さんに誘われて行きました。それまで僕は、政府の仕事はあまりやらなかったけれど、あの時はボランティアでも何でもしなければいけないと思った。議長代理の話が来た時は、喜んでとにかくやってみようと思ってきました。

ところが民主党政権だったから、官僚は全然協力しないし、政府委員に官僚が「ご説明」に行ってもいけない。だから、こっちが詰めの仕事とか全部やらされて大変

だったですよ。随分いろんな人の所に行って説明もしました。こういうことが実際にあるんだなと思ったのは、財務官僚が「先生、今日は〇〇委員には最後にこれをつかませますから」というから「つかませるって何？」と尋ねました。要するに〇〇委員が納得するような結論を会議の中で橋渡しするのです。結局、55分間つまらない話をして、最後の5分で「大丈夫ですか？」と聞いたら「大丈夫だ」と答えたから、後で財務省の奴は「じゃあ、きっとこれでうまく行きます」と……。そんなことまでやった政府委員の関係者はいないと思う。いろんなことをやらされました。

とにかく委員の連中は、みんな可哀想派だから。東北がこうなって可哀想、ちょっと可哀想な話が出ると、涙ぐんだりして。委員が泣いてどうするんだ、と思った。そしてすぐには結論を出したがる。「もっともっと審議して」と。でもその材料は限られているわけですよ。あの連中を何とか議題に乗せて、言う通りにさせる、というのは非常に大変だったけれど、頑張っただけでそれをやった。復興のビジョンを作って、それを納得してもらわなくてはいけないから。

◎平成の30年、そして令和と続く時代の流れの中で、これからの世界、将来についてどのようなお考えをお持ちですか。

——平成はとにかく自然災害がたくさん起きた時代で、東日本大震災の時もあんなに一挙に人が亡くなるなんてことは滅多になかった。そう思っているうちに、令和になって今度はコロナ。感染症によって、人がどんどん亡くなる事態が起きている。それが解決されないうちに、戦争が来ちゃったわけですよ。ウクライナのことは一応、今のところ日本国土がどうこうということはないけれど、既にいろんな問題が出てきているわけで解決には相当時間がかかる。プーチンがあんな調子だし。

自然災害、コロナ、ウクライナの三重苦ですよ。自然災害では最近、やたらと地震が多い。首都直下か南海トラフ、どちらかが間違いなく来る。弱っているところに来る。日本はこれから危機管理をどうするかという時代に入っているし、そこは大変だと思う。日本人って不思議なもので、2年か3年やっていると慣れてきて、こんなもんかなという状況だから、岸田文雄さんが支持されている。嫌な時代に入るところで古稀を迎えて、色々なことを考えなくてはいけないと。

◎安倍・菅の「一強」体制から岸田政権へと移行した一方で、野党はバラバラです。若年層の政治意識も含めて、議会制民主主義は大丈夫なんでしょうか。——野党がなくなってしまった。可能性として、野党が

ほとんどなくなった状態になると、自民党だけで政治をやるわけです。一党で全部政治をやることになると、必ず浮かばれない奴が出てくる。するとまた自民党が割れる。2つに割れて、どっちか小さくなって野党とくっつく。前は竹下派が膨れ過ぎて2つに割れた。小沢一郎がやったことと同じことが、30年たってもう1度現れる事態になる。それをもう一遍やるかどうかなんだ。このまま野党に期待しても絶対動きませんから。そうやって、ちょっとでも議会制民主主義というのを、2つ以上の政党で運営する体制にしなかったら、国会は本当に意味がなくなります。今度の参議院選挙もそういう観点で考えないとダメでしょうね。

若い人の政治意識は随分、昔と違っていると思う。今の状況や教育の仕組みの中で、彼等に持続的に政治に興味を持ってと言っても無理でしょう。本当に政治がなくなっちゃった。選挙権を18才に下げても(今のままでは)何の意味もないですよ。

◎小石川の現役生、特に文系を目指す学生に伝えたいことは？

——僕は、高校の時に幸いにも将来の目標を得たというふうに言いましたけれど、まあそう言うことはなかなかないだろうけれど。10代後半の高校時代に、何か「これは」というものをつかんでもらえるとすごく嬉しい。小石川は「立志・開拓・創作」。僕は開拓の精神を自分でも拳拳服膺(けんけんふくよう)してきたつもりです。小石川高校は自分の将来を決めたところだと思っている。小学校や中学校ではなかなか残せないけれど、何か自分が生きてきた証の1つを、高校の3年間、今は中等教育になったから6年間かな、の間に、これは1つ、というものを何か発見してもらえると、彼等、彼女等のその後の大きな支えになって行くのではないかと思う。それを見つけて欲しいです。小石川に来たから「これ」というものを。

◎本日はお忙しい中、大変興味深く、また貴重なお話をありがとうございました。

テープ起こし協力 田嶋伸子 (022E)



〈インタビューを終えて〉

私は、昨年の会報第49号の「吾が校友の精神を」の原稿の末尾に「この小さな原稿がきっかけで、また新たな出会いがあったらいいな、と思っています」と書きましたが、早速、素敵な先輩とお会いすることが出来ました。

最初は、日本のオーラルヒストリーの第一人者にインタビューをする、ということで、かなり緊張していたのですが、いざ始まると、すっかり話に引き込まれてしまい、あっという間に時間が過ぎて行きました。

最も印象に残ったのが、明治期の政治家、伊藤博文・山縣有朋・井上馨・松方正義の書簡を研究されていた時のお話です。まさに今、江戸時代の大名の書簡を分析している私にとって、原史料だからこそ見えてくる書き手の息吹や思い、人間性…、いつもワクワクしながら史料と向き合っている自分と重なり、とても共感しました。 福留真紀 (044C)

政治好きだが、政治家嫌いの新聞記者……。組織ジャーリズムでこの手の中途半端な記者は、大概「裏街道」を進むしかないのですが、人生は「七転び八起き」。同窓生の大先輩、御厨貴さんからお話をうかがう機会があれば、「転んでもタダでは起きない」記者精神がムクムクと頭をもたげました。

そこで、心躍らせつつ臨んだのが、春先の桜が舞う赤坂見附でのインタビューでした。では、御厨さんは一体、我々の取材とは違うどんな手を使うのか。どんな技を使えば「学問」になるのか。

わずか2時間のインタビューとはいえ、凝縮されたお話ですべてがストーンと落ちました。元大物警察官僚の後藤田正晴氏。御厨さんのオーラルヒストリーのスタートもその時期と重なりますが、「老壯青」を当てた布陣に、事前の作戦会議。話

が始まってからは抱腹絶倒ものですが、あの希代の大家政治家が本音話を、自分から喋りたくて喋ってしまう。中身はほとんど国家機密級です。

カミソリ後藤田語録「情と理」（講談社）を巡るエピソードはインタビューにあります。あれだけの傑物にあれだけの中身を喋らせる技は只者ではない。大局観を持つ真の政治家と真摯に対峙してきた時間の蓄積こそが、「オーラルヒストリー」の光輝を増している源泉かもしれません。若者の政治意識の希薄化等、聞きたい話は山ほどあります。今度は同窓会報誌の枠にとどまらず、別の形で御厨オーラルヒストリーの奥義に迫ってみたいと思います。

嶋沢裕志 (026B)

同じ学校群1期生として、クラスは違っても同じ時代の空気を吸った御厨さんと卒業後50年を過ぎて、気楽におしゃべりできました。在学中に発表した「開拓」の論文から、君にはルールが敷かれていると見抜いた倫社の川野健二郎先生は当時49歳にして、さながら老大家のようでした。先生の書いた「4項目要求への回答」と69年のけだるい夏を思い出します。

さて、肝心のインタビューですが、中身の感想は同行のお二人に譲るとして、よどみない語り口で2時間たっぷり。記録された音声を文字化するのは至難の業でした。どんなに切っても7ページに収まらず、福留さんとの対話は別立てにしました。内輪向けの場でサービス精神が発揮されたのでしょうか、横で聞いていて自然と都会っ子の軽やかさを感じました。

近年、大病を克服されたとお聞きしました。古希を越えた同世代の一人として、これからも無理をなさらず、そして興味の赴くままに益々活躍されることを願っています。 並木隆 (022E)

おもてなしの街 巣鴨地蔵通り

ミセスファッション サン・まつみや



〈芸術は心のビタミンです〉

巣鴨地蔵通り商店街は
今日も元気に営業中



021G 松宮初枝

先生お元気ですか？

生物の授業と共に

1981(S56).4~1997(H09).3在任
生物科 岩田 浩司



私が都立小石川高校に憧れの心を抱いたのは、9歳年上の兄が当時「五中」と言われていた現在の小石川中等教育学校の話の何かにつけて話していたからでした。それは私が小学生の頃のことでした。

第2次世界大戦が始まり、当時住んでいた北区から板橋区へと定住の場を移り、畑の中に建てられた小・中学校での戦後の学生生活を送らねばならなかったのも、高校生として兄の後を辿って小石川高校へという夢は持てなくなってしまいました。結局、私が身を置いたのは都立北園高校でした。学校でのクラブ活動は兄と同様、生物部に入りました。しかし、兄のやっていた魚類の研究ではなく、私は家の周辺に広がっていた草原や雑木林を点々として昆虫の世界にのめり込んでいきました。

さて、私が教員として小石川高校に着任したのは、実は私が文京高校にいた時に都生物研究会の第四支部長を務めていた折に、小石川高校の生物科の教員をされていた大滝末男先生(1967~1981年在職)と出会ったご縁からでした。そのようなことで、新たに八重樫健式先生(1978~1991年在職)とのコンビが誕生いたしました。

小石川高校のその頃の授業は、各教科の先生方がそれなりに厳しくも充実した内容の講義をされていたことと思います。生徒諸君も大変なことだったと思いますが、生物の実験ノートの完成は特に大変だと声をよく耳にしました。逆に言えば、生徒諸君は実験から得る以上のものを得ていたことだったかと思えます。

1つの実験が終わると直ちに実験のテーマもとより、方法、結果、結論、感想などを記したノートを提出します。次週までに私はそれを点検、次回の実験の前に返却となります。直ぐに点検できるものではないので、次週の実験までに生徒があらかじめ大学ノートに準備するための打ち合わせを担当班と称する4名ほどの生徒達と事前に行いました。辛かったのは、実験ノートを生徒諸君に早く返却したいがために週に何回かポストンバックにノートを詰め込んで家に持ち帰り、夜半までやっていたことでした。

しかし、毎週このような教師生活を続けての14年間でしたが、意外と短かったと思え、我ながら驚きました。授業以外の思い出として印象的だったことは、地学の永田洋先生(1984~1997年在職)企画の東京街歩きでした。中でも特に黒目川流域の街の情景、佇まい、そして両岸にしっかり根を下ろしている桜の大樹は本当に見事なもので、さぞ春の開花時ならばなんと表現されるものだろうかと感じ入りました。この街歩きの楽しさ、良さは、教員同士の共に歩きつつ交わす会話が、日常を離れ教科の垣根を越えて発展していくところにあります。日頃の思いが徐々にほぐされて、互いの会話の深さ、面白さになって行ったのかと思われます。

春もたけなわ、原稿のご依頼を受けてから、体調がうまく合わず時間が経って失礼いたしました。当時の同僚であった先生方にもよろしくお伝えください。



037期 クラス担任の先生方(前列中央・岩田先生)



037期生物研究会 八重樫健式先生(右から4人目)と

先生お元気ですか？

千石で途中下車した12年

1982(S57).4~1994(H06).3在任
国語科 三浦吉明



038期卒業アルバムより

私は世田谷にあった千歳高校から小石川高校国語科に赴任し、12年間在職しました。二校目でした。自分が在職した学校としては一番長い学校です。その間担任は二回で、その他に三浦真先生の休職で、そのクラスで三年生の九月から卒業まで担任の仕事を行いました。

転勤して、クラス替えなし三年間持ち上がりに驚きましたが、もっと驚いたのが、新入生の入学式翌日一時間目からの平常授業でした。今ではあれが一番良いのではと思っていますが、小石川の印象としては、学校全体の自由な雰囲気が、優秀な生徒達を一層個人的にしていたような気がします。一風変わった言動をする生徒に対しても、「あれは彼(女)の個性だから」と認め、尊重する生徒達は、自由にのびのびとしていました。教員も自由で个性的な人が多かったですね。授業も各自の自由が認められており、私も一年生の国語(現代文と古文)では、芥川の「羅生門」を終わらせると、あとは古文のみをさせてもらいました。こんな小石川の雰囲気に私はすぐになじんだらしく、赴任してそれほど経たない時期に、先輩の教員から「君はこの学校に何十年もいるような顔をしている」と言われました(笑)。

自分のことでは、住んでいた三田線蓮根駅から神保町までの定期を買い、千石で途中下車して仕事をし、仕事が終われば神保町の古書街や水道橋から中国語の学校へ通いました。これは私にとって大きな糧となっています。

小石川から新宿・鷺宮と異動し、鷺宮高校で定年退職、その後非常勤教員として日比谷高校にお世話になりま

した。日比谷の五年が終わる頃、日比谷高校資料館から声がかかりました。日比谷は戦災を免れたため数多くの資料が残っています。その中には多くの和漢書があり、それを整理したいのですが、和書のみではなく漢籍も多いので、漢文専門の私に声がかかったようです。現在週一回蔵書の整理をしています。将来蔵書目録を作る計画ですが、まだまだ時間がかかりそうです。

それと同じ頃に、学生時代以来の親友から翻訳書を出す声がかかり、浅野裕一監修・拙訳で『図説孔子』『図説孫子』『図説管子』(科学出版社東京)の三冊を出版、現在は四冊目『古今に一人-王陽明』を年内出版の予定です。

その他、現役の頃から車で神社仏閣を巡り、御朱印をいただいていた。「秩父」「坂東」「全国一宮」「西国」を回り、「四国八十八カ所」を先年終えました。その途中からは、全国の道の駅のスタンプを押し始め、現在1116駅(1194駅中)です。道の駅は毎年新しくできるので、全部を押すのは無理ですが、新しいのできるのを追いかけて日本国中を回りたいと思っています。

また、江戸東京博物館の古文書講座や講演会に参加しており、当分の間教育(今日行く)と教養(今日用)には事欠きそうもありません。健康の面ですが、人間ドックの再検査で、偶然前立腺に腫瘍が見つかり、一昨年に手術しました。幸い発見が早かったようで、術後の治療や投薬は一切なく、相変わらず何の薬も飲まずに日常生活を過ごしています。二人に一人が癌になる時代、「早期発見・早期治療」の重要性を感じるとともに、医学の発達に感謝しているところです。



旧校舎空撮 038期卒業アルバムより

吾が校友の精神を

会員より送られてくる投稿を中心に、同窓生の文章を掲載いたします。どの文からも五中、小石川の立志・開拓・創作、自由闊達な精神を感じます。皆様も是非ご投稿ください。表題は校歌の一節から採用しました。

認知症家族介護者と共に歩む

022C 蛭間 マサ子

【はじめに】

2022年2月24日より、ロシアがウクライナ侵攻、この時代に戦争勃発。戦火の下を逃惑う女性、子供、高齢者の姿に、平和の祭典であるべき北京オリンピックの存在が哀しく写ります。母八重は生前3月9、10日の東京大空襲を語り、昭和天皇の侍従長入江相政日記全6巻のうち2巻では昭和18年から20年、日本の戦争当時がつぶさに記述され、胸を痛めつつ読破したばかりでした。

ところで、私が大手金融機関を定年退職後に入学した大正大学大学院で専攻した社会福祉学での研究テーマは、『認知症の人と家族の会』がもつセルフヘルプ・グループ機能と世話人の役割』でした。

さて、近時マスコミ報道の中で9060(90歳代の親に60歳代の子供)、8050(80歳代の親に50歳代の子供)の所謂老々介護問題が目につくようになっております。同窓生の皆様の中でもお仕事を続けながら、或いは定年退職後にご両親や配偶者の介護をなさっている方も少なからずいらっしゃるかと拝察いたします。認知症介護の研究者として、ご一緒に介護・看護を考え少しでも皆様のお役に立てそうな事柄をご紹介したいと思ひ寄稿を考えました。

【認知症は世界共通—第32回国際アルツハイマー病協会(ADI)国際会議では】

資料によれば、世界の認知症の人の数は、2017年

時点で4,600万人以上、2050年には1億3千150万人に達すると推計されます。イギリスに本部のある国際アルツハイマー病協会(ADI)は、世界各国の研究者が集い、アルツハイマー病の啓発、教育、医学、科学に関する国際的な交流と発信活動を行っています。

2017年4月、京都宝ヶ池国際会議場において日本で2度目となる「第32回国際アルツハイマー病協会(ADI)国際会議」が開催されました。

会議には、約70の国、地域から認知症の人や家族、介護者、研究者ら約3,000人が参加し、テーマは「認知症：ともに新しい時代へ(当事者の意思を尊重した認知症にやさしい社会の実現)」でした。

私はこの会議に指導教授と共に参加し、東京都健康長寿医療センター栗田主一医師の講演「認知症と災害」を拝聴しました。同医師は東日本大震災で被災された認知症の人を診療した経験から、日頃より地域での顔の見える関係性を築くことの重要性を強調されました。

さて、テーマである認知症にやさしい社会の実現とは、何をどのように目指すのでしょうか。それは、〈認知症の人がそれぞれに目標を持ち、彼らもまた社会に貢献出来ることを社会全体が広く理解する〉

ことです。具体的には、地域社会とのつながりにおいて

- ①認知症の人と介護者の視点からの社会形成
- ②患者一人一人に向き合う早期診断、統合的診療の徹底
- ③自立を保てるように地域に合わせた解決策の提供
- ④認知症の人が地域活動に参加できる仕組み作りなど、目標に沿った福祉・医療にまたがるきめの細かい施策が討議されました。



ADI国際会議：クマモン発信

【日本に於ける家族会の設立】

そもそもADI国際会議が京都で2回開催されているには意味があります。「認知症の人と家族の会」(日本アルツハイマー病協会)の本部は京都にあり、その

歴史は、1980年90名の介護家族が京都市の早川一光医師とともに「ぼけ老人を抱える家族の会」を結成したのが始まりです。1992年、ベルギーでの会議に代表団を派遣し、正式にADIに加盟しました。2004年、京都市に国際会議を招聘し、そこで認知症当事者が自らの体験を発表したことが契機となり、世界中で認知症ケアへの理解が一気に進展しました。2006年に「認知症の人と家族の会」に改称され、2019年3月末現在、47都道府県に支部を持ち、会員数は12,216名となっています。

(2020年3月末現在では10,841名と減少傾向に在りませぬ。)



ADI国際会議：各国から発信

【高齢化と核家族化：家族介護者の意識の変化】

私の研究テーマは、「『認知症の人と家族の会』がもつ、セルフヘルプ・グループ機能と世話人の役割に関する研究」です。その対象である家族会に参加する家族介護者は、近年急速に高齢化が進んでいます。

高齢化と核家族化についてみるに、日本の高齢化率は1972（昭和47）年には7%台でしたが、2019（令和元）年には28.4%迄上昇し、超高齢社会（Super-aged Society）に突入し、100才以上の高齢者数（推計）は71,238人で米国に次いで第2位となりました。（100才以上は、2020年では8万450人）

核家族化については、高齢者世帯（65才以上の者のみで構成、又はこれに18才未満の未婚の者が加わった世帯）は、1,322万世帯で全世帯の26.2%を占めています。1989（平成元）年では306万世帯、7.8%であったので27年間で4.3倍となっています。

このように高齢化、核家族化の結果、家族の介護基盤の弱体化が進み、老老介護、地方に住む親を介護する遠距離介護も珍しくなくなりました。さらに平均寿命の伸長から、誰もが相当程度の確率で介護が必要な状態となる可能性があります。

ご家庭で夫や妻、あるいは父や母が「認知症である」と診断されると家族の中に「衝撃・戸惑い・否定」に始まり、「混乱・怒り」、「諦め・居直り」、「理解・受容」という心理の変化が見られます。このような家庭における孤立した介護状態から脱却するためには、要介護者に対して初期（記憶障害中心）、中期（見当識障害明白）、後期（身体的問題中心）の各症状を鑑みて専門職が適切に介入することが重要です。

しかし、家族を介護することは、経験の無い人には理解されにくい特有のものであり、専門職以外でも身近に相談の出来る介護経験のある人による支援が望まれます。介護者の介護負担感、抑うつ感、閉塞感、孤立感を軽減するためには、同じような立場の家族介護者が集う家族会への参加に効力が認められるのです。

【時間軸と変化する役割】

次に介護を時間軸で捉えてみましょう。

介護は保育とは異なるために、家族は人生の長い年月に培われた人間関係に左右されながら、介護という人生の課題に直面します。時間と共に「子ども」としてケアされていた立場から「親」として「老親」をケアする立場へと変化し、次世代へ継承されます。時間軸における役割は、**変化する役割**であり、長期介護期間で介護者自身が変化してゆきます。例として、ある仲の良い夫婦間では夫が父の役割となって妻を娘のように介護するという事例報告があります。

このように当たり前のことですが、家族の介護は介護以前の人間関係の質が大いに影響し、人生を通じて良好の場合は介護に対する肯定感が高まり、「生き甲斐感」を持つのです。

【家族会の機能】

認知症の介護は、介護期間が長期にわたること、それぞれの進行度合いにより要介護者の人格が変容すること、また、認知症に関する正しい知識を得るために、専門職や講演会による学習が必要なことを踏まえると、介護者一人一人のヒストリーの中でその人にしか判らない人生観、介護観が形成されていきます。結局、介護には介護者と要介護者とのつながり、関係性に大きく関わることは明白です。

そのためにも家族介護者が「認知症介護者の会（家族会）」に参加することは、負担感、抑うつ感を軽減し、社会的孤立を防ぐために必要であることが判りました。同じような経験を持つものが集うことにより、共感を生み出し、介護に於ける各自の気持ち、情報、考え方を『わかちあい』、自分で選び、自分で決めた情報、考え方をもとに『ひとりだち』し、自分の気持ちを『ときはなち』、やがて会に頼るのではなく自立をしてゆきます。

【認知症の人との出会い】

ところで、初めて認知症（当時はボケとか痴呆症と言っていました）の人に出会ったときのことをお話しましょう。今でも鮮明に脳裏に残る出会いでした。

2001（平成13）年、私は急性胃腸炎を発症し深夜に東京都老人医療センターに救急搬送され、婦長さんの計らいで「あなた、まだ若いから大部屋は可哀想なので個室に」と。

入院3日目の未明、入り口の鉄の扉に何かぶつかったようなすさまじい大音響。吃驚して飛び起きると、隣の個室に明かりがつき、医師と看護婦の姿がありました。それはさておき、「何があったの？」と問うと「患者さんがベッドに横がけの食台をほん投げたのよ」といい、患者であるおばあちゃんは暗闇の黒ネコのように瞳をキラキラさせて「家に帰せ。靴を履かせてくれ」と、細身の小柄な体のどこからそんな声が出るのかしらと思うように興奮して叫んでいました。

朝の検温に来た看護婦さんが「夜中にごめんね。吃驚したでしょう。夜中になるとやるのよねえ」。「おばあちゃんどこにあんな力があるのかしら。どこが悪いの？」と聞くと「痴呆症なのよ。昔はボケとか言ったけど。さみしいのよね。家の人が入院の時連れてきて、あとは置きっ放しなのよ。時々担当医が『箸と茶碗と患者だけ置きっ放しにして、うちは施設じゃないよ。病院なんだから家族は様子を見に来てくれなきゃ患者が可哀想だよ』と怒っているわ」とため息をつかれ、これは現代版姥捨山かしらと胸が痛みました。このおばあちゃん廊下で会うと「あんた、うちの嫁と同じくらいかねえ。隣の部屋にいるから遊びに来なさい。」と優しい笑顔で声を掛けてくれました。

そういえば、有吉佐和子さんの小説に『恍惚の人（1972年）』というのがありました。

有吉氏が「老いて長生きすることは幸福か？ 日本の老人福祉政策はこれで良いのか？ 誰もが迎える〈老い〉を直視し…」この時の優しい笑顔のおばあちゃんとの出会いが、今言うところの認知症の人との初めての出会いであり、「さみしいのよね。夜中になるとやるのよね」という看護婦さんの言葉が大音響と共に私の心に蘇ります。

【おわりに】

昨年放送された大河ドラマ「青天を衝け」の主人公 渋沢栄一は、東京都健康長寿医療センターの基礎となる1872（明治5）年に設立された救貧施設『養育院』の院長を1889（明治22）年から1931（昭和6）年の逝去まで勤めました。この『養育院』は、近代日本の時代の求めに応えるように、精神病・ハンセン病・結核・児童福祉・高齢者福祉対策などの様々な医療・福祉事業を展開しました。

その歴史は、日本の近代医療・福祉の源流とって

も過言ではありません。母八重のお世話になったこの場所が、遙か昔に文学部を卒業した私を福祉の道へ導いてくれたのです。お札になる渋沢さんも、ウクライナの戦火に泉下で驚愕仰天していることでしょう。

国際アルツハイマー病協会（ADI本部）は、ロシアのウクライナ侵攻により、人道危機が拡大する状況について、全世界の協会に対してメッセージを発信しました。認知症の人とその家族が取り残されないように働きかけるものです。「人々は爆弾から逃れるため、国境を越えて隣接の国々に逃れたり、シェルターや地下鉄駅に避難しています。そして、その中には認知症の人やその介護者の方々がいます。」現在のところ、ウクライナはADIの正式な加盟団体ではありません。テレビ画面からも高齢者の必死で逃惑う姿が浮かび、ましてや、この中に認知症本人や家族がいると考えると言葉を失います。（ウクライナの認知症者数は不明）

5年前、春うららの京都宝ヶ池で開催されたADI国際会議の折、アメリカ、イギリス、カナダ等、色々な国の認知症者本人、その家族、研究者と出会いましたが、このような戦火を誰が想像したことでしょう。

日本においても戦時下は弱者と言われる子供、女性、高齢者が多々犠牲となりました。第二次大戦から77年も経っているのに、戦火の現状は何ら変わっていないのです。一日も早い終戦を祈っています。このような時代ですが、どの国においても「パーソン・センタード・ケア」（認知症を持つ人を一人の「人」として尊重し、その人の立場に立って考え、ケアを行おうとする認知症ケアの一つの考え方）を重視した介護・看護の道を世界の皆様と共に歩めることを願っております。

（2022年3月27日 記）



ADI国際会議：カナダ代表と

参考：ADI = Alzheimer's Disease International

鉱山技師として 歩んで

023C 境 大学

(附) 佐野初雄さん(旧制G4)との不思議なご縁

はじめに

1952年(昭和27年)生まれの私は、文京区の真砂小学校、文京二中を卒業して1968年(昭和43年)小石川高校へ入学しました。当時の校長は真田幸男先生、担任は生物の大滝末男先生でした。家の近



くを通る白山通りは地下鉄三田線の工事が真っ最中で都電が廃止されたためバスでの通学でした。高校生活はバレーボール部に入部し、毎日厳しい練習に明け暮れ、高2の時、東京都の第三支部で優勝しました。大学は海外で資源開発の仕事がしたいと思い、早稲田大学理工学部資源工学科に入学しました。鉱山見学で紀州鉱山や柘原(やなはら)鉱山を訪問した時、黄銅鉱や黄鉄鉱の輝きに魅せられて、就職は地下三千尺のロマンを追求めて1976年(昭和51年)4月に鉱山会社(三井金属鉱業株)に入社しました。

神岡鉱山が鉱山技師としてのスタート

1970年代、国内で多数操業していた金属鉱山は鉱量枯渇、品位低下により相次いで閉山に追い込まれていました。就職の時も不景気で求人がありませんでした。最初の赴任地は岐阜県北部の神岡鉱山(亜鉛、鉛)で、不況は続いており人員整理、合理化を進めていました。神岡に赴任して2年目の夏に国家試験に合格して坑内保安係員となりました。正月明けから生産現場に配属され、いきなり経験豊富な作業員を部下にもって交代勤務に従事しました。現場の仕事は朝の番割で作業員にその日の作業内容、現場の状況を説明し、現場巡視時に安全と作業内容の確認をして、その月の予定鉱量を出鉱することです。仕事の休みの日は春に山菜取り、夏に鮎釣り、秋に紅葉と温泉、冬にスキーと年間通して自然を相手にしたダイナミックな遊びを満喫し、この山紫水明の地、神岡がとても気に入りました。

神岡で8年間坑内勤務した後、鹿児島県の串木野鉱山(金・銀)に転勤し、上級保安技術職員試験(国家試験)に合格して管理職となりました。仕事の内容も広範囲となり、「鉱山業とはどういうものか?」を身をもって理解を深めました。両鉱山はその後、鉱量枯渇、品位の低下、採算性の悪化により採掘休止となり、仕事は鉱山技術を応用したロックエンジニアリングの分野へ変わっていきました。

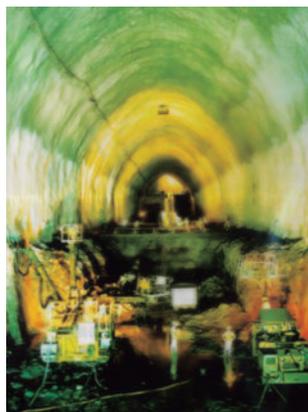
鉱山から地下空間利用の仕事へ

その後、これまで培ってきた岩盤に削岩機で穿孔し、その孔に爆薬を装薬、発破により硬い岩盤を開削する技術は、地下空間利用で活かされ、岩盤エンジニアリングとして新たな用途が導かれました。その結果、神岡鉱山は亜鉛鉱石を産出する鉱山から、宇宙素粒子研究の最先端の地下空間利用施設(スーパーカミオカンデ)へと生まれ変わったのです。

鉱山技術はこの他にも原油備蓄の地下岩盤タンク建設工事でも大いに発揮されました。1989年(平成元年)から1994年(平成6年)まで国家地下石油備蓄基地建設プロジェクトに従事するため再び鹿児島県串木野の地へ赴任し、作業員数1000人ほどの大所帯の土木工事全体を管理しました。

工事では岩盤タンク掘削中に想定外の断層及び弱層部が出現して、補強工事や形状変更等の対策を講じて開削を乗り切り、また、タンクは周りの地下水圧で中の油・ガスを封じ込める自然水封方式という特殊な設計であったため、限界地下水位を維持することと坑内湧水量を規制値以下にすることが必須でした。そのため、止水グラウト工事、人工水封工事など追加対策を施工して検査に合格、無事岩盤タンクは完工しました。

10万tタンカーでアラブ諸国から運ばれてきた原油が海底配管を通して岩盤タンク内へオイルインが開始され、苦労したタンクの稼働を喜んだその最中に海外



左は岩盤タンク掘削中の写真、右は工事完成後の写真

転職の話が舞い込んできました。

赴任地を聞いたら中央アジアのキルギスというこれまで聞いたことのない国でした。

キルギスでの技術協力（採鉱技術移転）

JICA（国際協力機構）の長期専門家として中央アジアのキルギスに1994年（平成6年）12月～1997年（平成9年）12月まで3年間、鉱業技術の指導で単身赴任しました。中央アジアとはカザフスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン、タジキスタンとキルギスの5か国を中央アジアと称しています。古代から東西の交流が盛んで、西域と呼ばれた地域です。



中央アジアとキルギス共和国の位置

キルギス共和国（以下、キ国）はパミール高原北側の高地と天山山脈に抱かれた面積約20万km²（日本の国土の約半分）の小国です。国土の90%は海拔1,500mを越える高地であり、海拔3000m以上の急峻な山岳地形が国土の40%を占めています。美しい山々と湖、高山植物が咲く山岳国家といえます。人口は約450万人（当時）程度で全土の60%がキルギス人、25%がロシア人、その他ウズベク人など全部で100以上の民族からなる多民族国家でもあります。主な産業は農牧業、鉱業で、羊の肉がよく食事に出て、魚中心の串木野での食生活が一変しました。また、言語は公用語がロシア語で英語はほとんど通じません。仕事では英語・ロシア語の通訳を雇いました。



草原と野牛の群れ

キ国は1991年8月に旧ソ連邦の崩壊により分離独立しましたが、1994年の派遣当時、町にはスーパーもなく、夜の街は真っ暗で危険で、電信・電話などインフラも未整備で自国通

貨（ソム）が導入されて日も浅く、国民の生活は混乱していました。キルギス政府は国内経済の再建を図るため外資導入と鉱業振興（鉱山開発、金の増産）による外貨獲得を国家の最優先課題に掲げましたが、旧ソ連時代、鉱山開発計画と資金はモスクワの中央政府が握っていたために独立後は中央からの資金も途切れ鉱業技術者も散逸して政府は自力更生を強いられました。

こうした中で、キ国政府は外資優遇策により経済の再建を積極的に進めました。一方、日本政府は市場経済移行国支援で、ODA（政府開発援助）による専門家派遣、機材供与と本邦研修を3つの柱とする技術協力を進めました。長期専門家の派遣は両国にとって初めての試みであり、当時は現地に日本国大使館もJICA事務所もなく、出国する前に現地情報がほとんどない状態で、私はすべて「さきがけ」の対応を迫られました。

現地での活動内容

1994年12月、私は日本を出発し、フランクフルト経由でアルマティまで空路で21時間、その後、アイスバーンと雪で凍てつく陸路（240km）を車で8時間かけて真冬（氷点下25℃）のキ国に着任しました。事務手続きが済んで、生活基盤と鉱業公社内での執務室の準備が整うまでに2か月かかりましたが、3月中頃から資料調査のほか近場の鉱山、研究機関を訪問して情報収集を始めました。



マクマル鉱山全景

派遣先のマクマル鉱山は首都ビシュケクから車で南へ8時間のところに位置するキ国を代表する国営の金鉱山で、近い将来露天掘りが終掘となる状況にあり、延命策として坑内掘りに移行するかどうか判断に迫られていました。私の仕事（任務）である現地情報収集と技術移転（将来の開発計画づくり）の作業は当初、遅々として思うように進みませんでした。

その原因として、調査、開発、経理の三部門が旧ソ連時代の硬直した組織そのまま、鉱業を統一的に実施していく体制がなかった点が挙げられます。そこでまず、7名ほどのワーキンググループを設立して共同作業の場を作り連携を強化することから始めました。その方法として、日本流のブレインストーミング（ロードマップ作成、計画・立案）・プレゼンテーション（西側の鉱業技術の紹介）・飲みニケーション（意思疎通）を実践しました。その結果、全体として徐々に打ち解けて作業が進むようになり、坑内開発計画の報告書（露

語・英語)が完成し、鉱業公社総裁に提出しました。報告書の内容は国家鉱量委員会で精査し、結論として、詳細調査により坑内開発の可否検討をすることとなりました。その後、私の派遣期間が満了となり帰国しましたが、キ国での検討結果については、鉱床の下部は金品位が低く坑内掘りをするには採算が取れないとの結論に達し、計画だけ残して断念したとの報告を受けました。一方、キ国政府は、外資導入による金鉱床の調査開発も進めていましたが、そちらは鉱量、品位とも良好な結果が得られ、急ピッチで開発が進められています。

キルギス滞在 3 年

キルギス人と接触して感じた点はキルギス人には温かいハートがあり、以心伝心で言葉を交わさなくても気が通じ合うところでした。また、温和で人懐っこく、慣れてくると冗談をよく言い話もよくはずみます。帰国前の盛大な送別会では、ねぎらいとお礼の言葉をたくさんいただきました。



現場視察途中の遊牧民の移動式住居(ユルタ)の中で

帰国してから

帰国後に子会社のコンサルに転籍しました。コンサルタントをやっていくうえで「技術士」の資格が必要で、上司から技術士の第二次試験を受けるよう命じられて、何とか無事に合格、日本技術士会に入会して「広報委員」から活動を開始しました。日本技術士会は1951年(昭和26年)、戦後の日本を技術の力で復興することを目指した先輩技術者たちによって産声を上げました。その後、1957年(昭和32年)に技術士法が制定され、翌年には第1回の技術士試験が実施され、「技術士」はエンジニアの国家資格として法的に位置づけられました。これまでに21の技術部門で9万人を超える技術士が誕生し、行政機関や産業界で多くの技術士が活躍されています。

一方、会社の仕事は、役員となり経営事項全般が主な内容になりましたが、2015年(平成27年)に退任し、

2016年に技術士事務所を設立、開業致しました。2021年(昨年)は日本技術士会創立70周年記念全国大会(東京)が11月に開催され、運営委員長として成功裏に無事終了することができました。これからも社会に貢献する技術士の使命を忘れず、尽力したいと考えております。

佐野初雄さん(旧制 G4) とのご縁

本校同窓生の大先輩で鉱山技師かつ技術士(資源工学部門)でもあった故佐野初雄さん(旧制 G4)について紙面を借りてご紹介します。



佐野さんと私とは公益社団法人日本技術士会が発行する広報誌である月刊『技術士』のインタビュー(2009年)がご縁で知り合いました。あれから随分経ちましたが、お会いした当時のことが懐かしく思われます。佐野さんは1909年(明治42年)生まれ、お会いした時は99歳、お元気で記憶もしっかりしていらっしゃいましたが、誠に残念ながらその3年後に102歳で天寿を全うされました。100歳の時、地下資源の開発に情熱を捧げ、日本の資源確保のためその道一筋に尽力されてきた功績に対して黄綬褒章を受章されました。

佐野初雄さんへのインタビュー

——お生まれはどちらですか。

「1909年(明治42年)10月上野池之端の生まれです。小さい頃は上野の山を走り回ったり、蝉取りをしたり、また、不忍池でザリガニ取りや魚釣りをして遊んだものです。中学は開校して4年目の東京府立第五中学校に進学しました。初代校長の伊藤長七先生の教育を受け、校是の「立志・開拓・創作」の精神を叩き込まれました。」

——府立五中在学の時に関東大震災を体験されているのですね。

「大震災に遭遇したのは、府立五中2年の時、1923年(大正12年)9月1日で、その日は学校が早く終わり帰宅して昼食に五目飯を食べている時でした。確か、揺れ始めたのは昼前でした。あまりに揺れが激しいので取るものも取らずに庭に出て柿の木の下に避難しました。隣家の土塀は倒壊するし、近所は昼食時で出火し、

町全体が大火災に見舞われることになりました。幸い、我が家は倒壊、延焼などは免れましたが、揺れが収まった後、家に戻るも五目飯がダメになってしまっていた切ない思いが何故だか記憶に残っています。」



インタビュー風景

——旧制第2高等学校から東京帝国大学鉱山学科に進まれました。

「叔父が台湾の北端にある台北県で鉱山の仕事をしていたこともあり、その影響を受けて東京帝国大学の鉱山学科を選択しました。叔父から「金瓜石（きんかせき）」という台湾の鉱山（金・銅）での話を聞くにつれて私も早く海外に出て資源開発がしたいという思いが熱くなり、鉱山への道を選択したのだと思います。」

——卒業後は満洲（現中国東北部）に渡られたのですね。

「日露戦争（1904～1905）の結果として、日本はロシアより当時の東清鉄道の支線である南満洲鉄道の一部および撫順炭鉱を譲り受けました。それらを基幹として1906年（明治39年）半官半民の国策会社である南満洲鉄道株式会社（満鉄）を設立し、私は1934年（昭和9年）25歳の時に同社に鉱山技師として入社しました。

入社後は撫順炭鉱に配属され、露天掘りおよび坑内掘りの生産計画に従事しました。次いで石炭およびオイルシェールの露天掘り拡張計画作成に携わりました。これが後の「東洋一の露天採掘場」になりました。それ以降、ほぼ一貫してオイルシェール開発および製油事業に携わりました。」



撫順炭鉱 西露天採掘場

——終戦はどこで迎えられたのでしょうか。

「終戦は36歳の時、撫順炭鉱で迎えました。帰国を許されず中国の復興のために協力を要請され、私も撫

順炭鉱に留用されて工場・鉱山の復旧、増産と技術移転に打ち込みました。妻と子供3人の家族5人の生活は大変な苦勞を強いられました。3年経ち、1948年（昭和23年）7月ようやく日本に帰国することができました。この3年間で今までの人生で一番苦勞した時期だと思います。」

——戦後の復興期のお仕事については。

「戦争による壊滅的打撃を受け凄まじい状況でしたが、石炭産業は戦時中に劣悪になった坑内環境をいち早く整備して、基幹産業の主要な役割を担ってきました。この頃、有識者の間で“日本の炭鉱から優秀な若者を西独の炭鉱に派遣して石炭採掘技術を修得させるとともに、労使関係などを日本でも参考にしてはどうか”との問題提起がありました。一方、西独の状況も日本と同様でしたが両国政府間で派遣にかかる話がまとまり、日本から3年以上国内炭鉱での経験のある30歳までの独身従業員500名をルール炭鉱に派遣することになりました。第1陣から第5陣まで8年間続きました。この事業で嬉しかったのは日本から派遣した技能工の評判が大変良かったことです。日本人の勤勉さと呑み込みの良さが大きく評価をされた結果だと思います。」



2010年（平成22年）黄綬褒章受章記念（前列右から4人目が佐野さん）

終わりに

佐野さんは昭和、平成を通じ、満洲、モンゴル、シベリヤなど大陸の壮大な舞台で活躍されました。晩年になられても矍鑠とし、インタビューの最後には、「未開発資源が豊富なシベリヤに行って開発がしたい」と希望を語られました。

また、佐野さんは、偶然にも府立五中の先輩であること、鉱山技師として異国の地での生活経験をされてきたこと、更にもその根底に「立志・開拓・創作」の精神をもってこれまで歩いてこられたことなど、私と重なる部分が多くあることがわかり、驚きとともに不思議なご縁を感じました。（2022年5月7日 寄稿）

コロナ下での パリ商品展示会

035G 松本 好史

フランスでは、新型コロナウイルスの新規感染者が、毎日40～50万人と桁違いに多い。「本当に行かれるんですか？」と、多くの方に言われました。オミクロン株がどんなコロナウイルスか、まだまだよくわからない状況で、まるでオミクロンのシャワーを浴びに行くようなものとも。



私は大学卒業後、大手アパレル企業で営業、販売促進、マーチャライジングのセクションを経験し、その経験を基に、現在ストール専門の会社を運営しています。独立して22年となりますが、私達のファッション業界も2020年の春からコロナの影響でひどいことになって、先行きが見えない状態が続いています。

6年ほど前に、日本のマーケットに（たかだか1億人ちょっとの国のみを相手では、ビジネス拡大は頭打ちなのではとの思いから）限界を感じて、世界に打って出ることを決めました。ヨーロッパで1番大きな雑貨の展示会に応募、合格となり、海外戦略をスタートさせました。ただ主催者やヨーロッパのビジネスに詳しい友人からは、最初の2年ほどはオーダーも少なく我慢が必要だと、ヨーロッパのバイヤー達も継続性の無い相手からは買わないよ、と。聞いていた通りで厳しい現実が待っていました。

しかし運良く2年目からオーダーも増えて来て、やっと先が見えてきたところのコロナでした。ヨーロッパ各国が日本より先に都市のロックダウンなど厳しい対応がなされた中、追加オーダーがどんどん来て、ヨーロッパ市場に受け入れられた感触を掴んでいました。

2020年1月のパリの展示会出展を最後に、コロナによって3回出展出来なかったのも、その期間はメールと写真だけのやり取りでした。でもファッションはこの目で見て、触って、迷って、選らんで、がとても大切だという確信もありました。従来の顧客のみなさんに、新作を是非触って見てもらいたいのと、新規顧客を獲得すべく、パリ行きを決めた次第です。

パリの展示会

そんな状況で、2022年1月の展示会は、久しぶりの出展となりました。さすがに、EU圏以外の出展者はほとんどなく、しかも日本からはうち1社のみ。しかも、隣のブースの出展者がコロナ感染によりキャンセルで、空のスペースになっていました。主催者の配慮により、そこも無料で使わせてもらえることとなり、スペースはおよそ倍になっての展開でした。なんと、その効果もあり、我社のブランドは、大盛況。命懸けで出展しに来た甲斐がありました。



PAIRS WHO'S NEXT 展示会場にて

絶対感染不可

とりあえず、日本に帰る飛行機に乗るためには、帰国搭乗72時間前のPCR陰性証明が必要です。コロナ新規感染者が毎日40～50万人いるフランスで、滞在中に感染しないことが、最大の課題でした。

妻にも充分注意されていて、食事はスーパーなどで買って、ホテルの部屋で1人で食べなさい、なんて不可能なことまで言われて来たのですが。さすがに外食に必要なことは、フランスの食習慣を考えれば、よくわかります。

食事はお喋りをしながら、ゆっくり食べる、お手拭きも出ないビストロで、手も洗わずパンを掴んで食べる。しかも知らないお隣さん達と、ぴったりくつつく程の席の近さ。感染するのが当たり前な感じでした。こんなレストランには、絶対に行かないと誓って。過去に行ったことのある日本人シェフのレストランは、隣席とのスペースがあるお店が多かったので、そういうお店ばかりで食事をしました。



日本人シェフのレストラン Le Clos Y(左) KIGAWA(右)

フランスのレストランで食事するためには、ワクチン2回以上の接種証明書か、接種されて無い方は、当日の陰性証明が必要なので、今回は、接種済みの友人との食事限定となりました。渡仏は2年ぶりでしたので、久しぶりにたくさんの友人に会いたいと思っていたのですが、限界もあり次回の楽しみとしてとっておきます。

ヨーロッパの感染者が多い理由として、パリに行ってみて判ったことは、コロナに感染しても悪者にはならないこと。1日50万人も感染者が出れば、誰もが罹ってしまっても仕方ありません。また、感染したら仕事を休める上に補償金もあるので、もともと仕事をしたくない人は、大袈裟に言えば喜んじゃうくらい。真面目に仕事されてる方は、そうではありませんが。

マスクの着用については、何事も自由を重んじ、束縛を嫌うお国柄とはいえ、パリの人々も食事以外の時は、きちんとマスクをしていました。特に公共施設内では、マスク着用義務の法律がありました。

ニッポンの水際対策措置

パリからの帰国で、現地PCR検査陰性、羽田空港到着直ぐに再びPCR検査、陰性でも国の指定施設に強制収容。日本出国前は、14日間の隔離でしたが、幸

いにも7日間に短縮されました。(1月28日現在)

もともと14日間の隔離覚悟でパリに行ったので、ラッキーでもあったのですが、いざ施設に入れられると、狭い部屋の中から一步も外には出られず、朝昼晩ドアの外に弁当が置かれるだけで、気が狂ってきそうでした。これではまるで、独房状態。犯罪をやっ



ドア前に置かれた弁当とある日のメニュー

くても、やりました、と言ってしまいそうです。

帰国時はすでに日本でもオミクロン株の市中感染が広がっていて、パリの1日の感染者が12000人、東京も12000人。オミクロン株がよくわからない時期なら仕方なしとも思いましたが、この状況で帰国者を悪者扱い(表現に問題あり)にする意味は、もう無いのではないかと、不満だけが蓄積する7日間でした。

言い方悪いですが、何回もPCR検査をして陰性の帰国者のほうが、よっぽど安全(?)って感じです。

(2022年2月22日 記)

CALÉIDO

〈CALÉIDO〉 カレイド

小石川高校 100周年の返礼品にも採用された、ヨーロッパのセレクトショップやブティックで大人気の、フワフワで軽くて暖かいカシミヤのストールブランド。

Instagram : @caleidoscarf
Online shop : <https://caleidoscarf.thebase.in/>



伊勢丹新宿店 本館1階 ISETAN Leaf 売場にて
8月24日~2023年3月中旬まで、常設販売中です。
是非、お立ち寄りください。

KIMOTO SEIBID

「地球にやさしい印刷」をご提案します

通常、印刷には産業廃棄物として処理する必要がある廃液が出ます。この廃液が出ない仕組みを取り入れた「水なし印刷」は現在、地球にやさしい印刷技術として注目を浴びています。その他にもお客様のご要望に合わせて最適なプランをご提案します。

←印刷 × 環境についての取り組みをHPにて公開中！

価値をカタチに。価値を届ける。情報設計のパートナーを目指して。

株式会社 木元省美堂 <http://www.kimoto-sbd.co.jp/> 〒335-0034 埼玉県戸田市笹目8-15-27 / TEL048-421-8571



1983年卒 (035) G組
木元 哲也

AIとジャズと

036D 松田 圭子

036D、AI 開発者かつジャズボーカルの松田圭子と申します。転居でしばらく紫友同窓会から連絡先不明になっている、という知らせを同級生から受けて事務局にご連絡いたしました。その折に近況もお伝えしたところ、やや珍しい2つの職業などから寄稿をしてはとお声がけいただきました。



現在の AI 開発者の仕事は、硬い言葉で言えば「自然言語処理系エンジンの開発と運用」、平たく言えば、たとえばクチコミの文章を入れてやると、それが好評か不評か、悲しんでいるか喜んでいるかななどを数値に出すことができるようなしくみの研究開発と提供を行っています。

ジャズ歌手の仕事は8年目になりました。家族は25歳の娘（学生）とネコのジジ11歳です。56歳になりましたが、今が人生で最も自由を謳歌している時間のように思います。これまでのことを書いてみようと思います。

仕事と結婚、離婚

初就職は大企業スピンアウト系ベンチャー企業 ISAC の技術職でした。Prolog 拡張言語の開発チームで、主にドキュメント、サポートとライブラリ開発を6年間担当しました。ここで開発関連技術にしっかり馴染んでいたことが今もとても幸いしています。仕事は充実していたし今思えば将来性もあったはずなのですが、主にジェンダー的な悩みを抱え、そのときの生活の延長に幸せな未来を想像できませんでした。そんなときに出会った元夫と南の島へ駆け落ちし、寿退職扱いとしてもらうことに。当時は女性技術者として企業の中で伸びていくことも、家庭を持つことも自分の手には追いきれない課題に見えていました。

沖縄に住んでからは、元夫と共にフリーで技術翻訳（英日）、PC ユーザサポート等で数年働きました。翻訳仕事では運よく先輩として指導してくれる方に出会い、言葉を選ぶ考え方について現場で学びました。一方、パートナーからの暴力が次第に増え、2週間の入院を

要するケガを2度受けたことをきっかけに、当時3歳の娘とともに家を出て東京に戻りました。このとき多くの方々、友人知人や女性センター等の支援を受けて、ようやくシングルマザーとして生活をスタートできたことは今でも感謝してもしきれません。

都内に小さなアパートを借り、フリーで様々な仕事を受注しました。コピーライター、メルマガライター、タウン誌編集、機械翻訳向け文法データ作成等々。人生でもっともしんどかった時期で、たぶん怖い顔をしていたと思います。娘を保育園に預けつつの仕事、食うや食わずの感じながらご縁に助けられていました。仕事しすぎて寝込むこともありましたが、自分の未来を一步でも良くするために今をどう動くか、すべてを自分で考える楽しさを覚えた時期でもありました。テレワーク仕事のために築60年のアパートにISDNを引き常時接続を確保したのですが、これのおかげでシングルマザー支援の情報に繋がることができたのは大きな幸運でした。

離婚成立に向けて情報収集していて出会った Web サイト「母子家庭共和国」では、当時、ちょうど NPO 設立のため事務局長を探していて、理事長となる新川てるえさんからお声がけいただき着任しました。そこでの活動では、自分に必要な情報と知識を浴びるように受け、近い環境の人々と出会い、なによりとても元気づけられました。また、それぞれの人々の自分の状況のとらえ方や問題との取り組み方のバラエティーに驚きました。人はそれぞれ、ほんとうに違うのだということや、コンディションによって人格（として見える部分）は大きく変わり得ること、情報は力であること、などを深く体感した時期でした。ここでの仕事で家庭問題カウンセリングについて学び、資格を得て実際の支援の場で経験を積んだことも、自分自身のその後の生活に大きな強みとなりました（おかげで今では「鋼メンタル」と呼ばれるほど前向きです）。またボランティア含めスタッフに仕事を依頼する場面が多く、人のモチベーションもさまざま（お金、名誉、感謝 etc.）だと、これも体感しました。この時期に2度の裁判で離婚成立。

そんな頃、mixi で私を（ペンネーム登録なのに写真で）発見した元上司から突然連絡がありました。当時の急な退職を詫言べて近況を伝えましたら、近々設立予定の IT ベンチャーの仕事を紹介されたのです。当初は誰か良い候補者を見つけて紹介するつもりが、あまりに面白そうで私が入社させてもらえないかと社長に直談判。NPO 事務局長の仕事は長年一緒した後輩スタッフが担当してくれることとなり転職し、メタデータ株式会社の創業スタッフとなりました。その後取締役

に就任。現職、私には最長の17年目となっています。水が合っているという表現が一番かもしれません。

思えば、メタデータ社での仕事はまるでこれまでの仕事の集大成のようです。最初の仕事で覚えたプログラミングの基礎知識は今でも大いに役立ちます。ドキュメント作成やライター仕事で培った言語への感覚は、自然言語処理の辞書やロジック調整に活かしています。NPO事務局長の経験から、若いインターンさん達とのチームワークを自然に行えています。また、今年になってから、長年の夢であったプロジェクトを立ち上げました。カウンセリングの知見を活かした新しい対話エンジンの製作です。昔の自分のような生活上で悩みを抱える人が気軽に自分を振り返り、やりとりの中で元気になるしくみを提供できればと考えています。

音楽遍歴

歌は子供の頃から好きで、中学のときに叔母からももらったフォークギターで当時流行りのニューミュージックなどを弾き語っていました。高校ではフォーク研に所属し、D組女子でロックバンドを組み、私はギターと歌を担当し、ストーンズからプログレまで幅広く取り組んでいました。



芸能祭(?)のステージ

アルバイトで買った初めてのギターはAriaPro IIの黒、赤いケースをしょって通学していたのを覚えています。

ジャズを歌うようになったのは埼玉大学ジャズ研から。就職後はボーカリストスクールに通ったりセッションに参加したりでぼちぼち楽しんでいました。駆け落ち後にジャズのお店に聞きに行ったら楽しくて、「ここで歌うにはどうしたらいいですか?」と聞いたら、ちょっと何か歌ってみて、と言われて一曲歌ったところ、OK来週からおいでと。娘の出産前まで2年ほど続けさせてもらった忘れがたい楽しい経験です。

東京に戻ってからはしばらくは暮らしの中で鼻歌が欠かせない復活剤でした。NPOスタッフになってからイベントで歌う機会が復活。レッスン受講も再開しました。その後、各種セッションに参加しているうち、応援してくれるミュージシャンやお店から、出演してみたらとお声掛けがあり、歌う場をいただいて今に至ります。

ジャズシンガーで一番長く聞いた、影響を受けた歌手はサラ・ボーンです。特に若い頃の、奇をてらわないまっすぐな説得力のある表現が大好きです。

歌への影響ということ言えば、自分の経験、主にNPOで様々な経験のある多くの人に出会い、その本音に触れたことも学びになっていると感じます。演奏者同士が聴き耳を立てて、アドリブで提案して反応しあうジャズは対話の音楽です。自分が演奏者の中にも、また、レコードを聴いているだけでも、対話の楽しさにもいつも元気づけられます。そんなジャズとのつきあいはこれからもずっと続けます。



AIとジャズと、私ができることで関わった人を元気にできたらなと思っています。

カウンセリング対話エンジンについては、また世に出せるタイミングで広くお知らせしてまいります、見つけたら、応援してやってください。

ジャズ歌手活動では、現在、月に数回ほどライブ出演しています(赤坂のピアノクラブJOEやケイ、銀座シグナス、上野エブリスイング、湯島カスター、浅草ソウルトレイン等)。ご興味をお持ちくださいましたら、一度ぜひ聞きにいらしてください。スケジュールはブログに載せています。

(「松田オリビア圭子」で検索していただくと早いです)
<https://k-matsuda.hatenablog.com/> どこかでお目にかかれたら幸いです!



あるラーメン屋の オヤジのこと 故伊藤睦君(022I)の軌跡

022C 南 高之 022G 柳川 弘行
022I 天野 隆義 022I 渡邊 伸廣

2020年初夏、日比谷の地下街にあった担々麺とお酒と料理の店「むつ新」がひっそりと店を閉じた。その店は、開店以来どんな無理を言っても「OK、いいよ」と笑顔で応じてくれる店長の伊藤睦さん(022I)の味と人柄にひかれて、同期の022はもとより、小石川OB・OG、ラグビー関係者など、幅広い世代の交流・語らいの場として愛されてきた。閉店の知らせから一年経った昨年末の事だ。店の後始末を済ませた伊藤君は急な病に倒れ、天国へと旅立っていった。

今回、同期でも親交の深かった4名(南、柳川、天野、渡邊)が惜別の思いとともに個々のエピソードを紹介します。さらに、奥様の伊藤まさ子さんと友人で「むつ新」の代表でもあった坂田慎一さんより空白の部分埋めるメールをいただきました。以下、エピソードの話者をまさ子さん(ま)、坂田さん(坂)、南(M)、柳川(Y)、天野(A)、渡邊(W)、と表記します。

出会った頃 クラスでは。

●当時の高校生にしてはとっても大人びていて、2年の時、彼と都電を乗り継いで行った「アメ横」で輸入物のMJB緑缶やイタリアのワインを買っていた。皆で柏の家へ遊びに行ったら、お兄さんの影響かモダン・ジャズのレコードが一杯あって、片っ端からかけまくり、そして、その晩はジンフィズに悪酔いした。(W)

●授業をサボっては大原麗子のお父さんの店でアンミツを食べ、巢鴨駅前のボウリング場に行った。ゲームセンターでショートホープを仕入れ、西口のコージコーナーでお茶にも行った(時効とはいえ現役生諸君はマネしないように)。カルピスの効いた甘酸っぱい「初恋みつ豆」の味、吸った煙草はほろ苦かった。(W)

●絵を描くのが得意だったし、印象派のルノアール好き。しょっちゅう行っていたのは、お茶の水の喫茶「レモン」。



ある日「今日は一階の画材部門画翠でレッドセーブルの絵筆を買うのだ」と言って本当に買った。高かった。レッドセーブルとは何だ?と聞くと「赤テン」だと言って笑っていた。(W・A)



修学旅行での一コマ

●「楽しいことをキッチリと楽しむ。そのための労苦はいとわないのだ」という高校生。これ見よがしな所などみじんもなく、廻りの誰をも等しく楽しませようとした。驚くべきは、そんな放課後のお遊び的感觉を、一生、みずみずしく持ち続けたことだ。(A)

ラグビー部でも

●中学校時代は、ブラスバンドでクラリネットを吹いていた伊藤君はお兄さんの博利さん(S37年卒)がラグビー部だったことから入部したのかな。(M)

●浅黒く、精悍な顔立ち、俊足というよりは快足ウイング、我々の代では一番速かった。その走りはカモシカのように、伸びやかに跳ねるように走った。コントロールはいざ知らずキックもよく飛んだ。(Y)

●ところがラグビーにつきものの接触プレーは不得手、1年の夏前のタックル練習で、右肩を脱臼し、夏合宿でも初日に同じところを脱臼してしまった。彼のユニホーム姿には必ず腕を吊った白い布が重なっている。怪我が少しでも快方に向かうと別メニューで、炎天下のグラウンド外周を一人黙々と走っていた。(M・Y)

●1年3学期の新人戦は左ウイングが私、彼は右ウイングだったが、大泉高校グラウンドで行われた試合中、彼が飛んできて、「南! 肩が外れた。腕を押さえてくれ。肩を入れるから……」と、言われるまま腕を体に添えて押さえつけ、自分でゴキッとほめました。ところが、しばらく経つと、「また外れた! 頼む!」と。試合後、OBコーチたちに「お前ら何やってたんだ?」と聞かれ、「伊藤の肩が外れたんで直してたんですよ」「そうなんですよ。僕の肩は簡単にはずれて、戻すことができるんですよ」なんて言って、二人で笑った。(M)

●2年生後半の新チームでは、彼はSO(スタンドオフ)となり、SH(スクラムハーフ)の私とコンビを組んだ。しかし肩の脱臼は癖になって、人と当たり合う練習では外れることが頻繁に起きてしまうようになった。腕立て伏せなどをして肩の筋肉をつけようと努力していたが、徐々に練習も休みがちになった。「伊藤! バックスを一緒に引っ張って行こうよ」と声を掛けると、彼は、「肩がね……」と寂しそうに答えた。(M)



1968年ラグビー部関東大会出場

「大学から就職してサラリーマン時代」

●大学は青山学院文学部日本文学科、大学ではラグビーはやっていません。古美術研究会というクラブの絵画班において、私は建築班でした。(ま)

●大学時代、電話で「ジャズロックフェスティバルがあるんだけど、一緒に見に行かない？」と何度か誘われた。後年、「あの頃、何度も誘ってくれたのに、行かなくてごめん」と謝ったら、「いいんだ。南もあの頃は、『休みにはスポーツで疲れをふっとばさないとやってられない』って言ってたよ」と返してくれた。(M)

●就職したのは市ヶ谷にあった広告代理店で彼は営業部門に配属されました。偶々同期入社私とウマが合い、仕事帰りは駅近くの居酒屋で毎晩のように飲み続ける日々でした。彼と奥さんが青学のチャペルで式を挙げたあとも二人の夜遊びは続きました。(坂)

数年して市ヶ谷の雑誌出版社「流行通信」に転職し、ファッションとインタビュー記事が若者の支持を受けた人気の雑誌、「Studio Voice」で広告を担当した。

●1983年、彼の会社の社屋が安藤忠雄の設計で新築されたとき、「うちの会社見学に来ない？ ついでに、1階にフランスレストランがあるんだけど、ザリ



流行通信社時代

ガニ使った料理を食べてみない？」と誘われ、彼のおごりで料理を堪能した。そのころから、彼も酒を嗜むようになって、アートやクリエイティブな話が大好きだった。仕事柄、絵画展やアート・建築関係の展覧会などの入場券が手に入ると、一緒に見に行ったりした。(M)

持ち前の誠実で前向き、我慢強い性格でストレスの多い仕事に堪え、数年後に坂田氏の勤める広告代理店に転職。いつしか二人で飲食業をやること決心した。

●むつ新を始めたきっかけは直接聞いていません。広告業界という虚業から生業に変わったのかなと私は思いましたが、勤めの最後の頃はイライラしていたので坂田さんと新しい事を始めるのはいいかと思いついて反対しませんでした。(ま)

●1996年、私はラーメン屋をやること決心して会社を辞め、その1年後に後を追うように彼も退職、私は世田谷、彼は麻布で修行しました。開業までは肝心の店探しに苦労しましたが、日比谷シティ地下街に決まりました。(坂)

2000年、地下鉄日比谷駅直結の好立地、日比谷シティにラーメン厨房「むつ新」を開店。周辺の店が閉まる土曜日にはジャズライブを開催。ラスト前の一曲は厨房着姿のまま照れながら、アルトサックスを気持ちよさそうに吹いた。

●むつ新を開店して体はきつそうでしたが、良い顔をしていました。坂田さんの知り合いの麻布の店で、修行させてもらう事が出来ました。(ま)



「むつ新」ライブ

●「中華料理の店を始めることになった」「南も来てよ。オープンしたから！」と、再び連絡をもらった。その店「むつ新」の場所が日比谷シティという一等地だったのにビックリ。「ここ家賃高いんじゃない？ 良く借りられたね」と不躰な質問もした。「南の顔の広いところで、どんどん人を連れてきてよ」なんて言われて、「よし！ これは、皆に吹聴しなきゃ」と請け負った。ラグビー部OB会に声をかけたりしていると、ある日突然、卒業以来音信不通だった柳川君から連絡があった。(M)

●2006年のこと、同級の3番右PR横塚君の逝去の報を、副将だった南君に連絡すると「一度会いたい、日比谷シティの地下にある「むつ新」に来い」と。そしてあの優しい笑顔に迎えられた。(Y)

●丁度、私と伊藤君は、2代目ラグビー部後援会(OB会)会長の川口明さん(019)から声をかけられ、創部60周年記念式典(2007年開催)をS40年代卒業が幹事となってやることになり、打ち合わせという名の飲み会をたびたび開いた。(M)

●その渦に巻き込まれた私は「お前は舞台の仕事をしているそうだからシナリオを書け」と祝賀パーティの進行台本作りを命じられた。テーマは‘小石川ラグビー部の歌を作る’。やがて作詞山中達夫さん(017)、前同窓会会長の故俵一雄さん(018)補作の歌詞が完成、元監督

のソニーミュージック音楽プロデューサー丸山茂雄さん(012)の労でYO-KING 倉持陽一さん(038)作曲の‘小石川ラグビーソング’が完成し、土曜日午後の「むつ新」で大斉唱を録音した。(Y)

●式典の翌年から、ラグビー部OBチームは全国公立高校ラグビー部OBチームによる大会「10校ラグビーフェスティバル」に参加し、2020年には、参加学校数が全国から33校まで増加している。(M)

●現役やOBチームの試合などにもいつもグラウンドの傍にやさしさに溢れたまなざしがあった。2019年のラグビーワールドカップの際には高校現役ラグビー部員に日本戦観戦チケットが彼から贈られた。(M・Y)



10校ラグビーフェスティバルで(2008.3)

●2005年のI組クラス会を手始めに、022期が自由に集まる同期会幹事会にとって大変居心地の良い場所となった。創立90周年記念祝賀会組曲「小石川」の映像ナレーション制作、022還暦同期会、入学50周年同期会は、作戦会議場「むつ新」があってこそその大成功を収めた。クラスの定例会にはA組も加わり、そのうち全クラスに声を掛けて何人来るか分からない会となったが、いつも彼は「いいよ」の一言だった。(M・Y・W)

●睦ちゃんとはJazz好きな友人たちとMotion Blue、Blue Noteなどのライブや、遊びで香港にも行った。香港の坂の途中で足がつって動けなくなった私に優しく「タクシーで帰ろうか」とホテルまで送ってくれた。ゆっくり掘り出し物を探したかったのにね。(W)

●時間を持って余す我ら初老の爺さんたちに、接客配膳をやらないかと声をかけてくれて、お店を手伝うようになった。朝から晩まで睦ちゃんの働く姿や従業員への気配りを見るにつけ、いかに我々は甘えていたのかを知った。(W)



2020年、「むつ新」はお店を閉めた。本当にお疲れさまでした。

●店を閉じると決めた時、私に「店の解体・整理について安くやってくれる業者を紹介してくれ」と依頼があった。ラグビー部歌の録音に使用し、また、ジャズコンサートでも使われたキーボードは、彼から「持っててよ」と言われてもらってきました。今は、我が家に思い出と一緒に眠っています。(M)

●一つ一つの思い出は、心の中の物語となって記憶されるでしょう。それをプレゼントするので、どうかそれを持って天国へ行き、夜空に輝く星となって我々を見守って下さい。いつかは我々も遅れて行くけど、その時は時空を飛び越え自由気ままな旅行をしよう。ニューヨークのブルーノートやビレッジ・バンガードで本物のコルトレーンやキャノンボール、マイルスに出会い、好きなだけ聴きに行こうね。(W)

●むつ新を閉めてからも、ついこの間まで「あれ聴いたか、これ読んだか、あのミュージシャンが亡くなったな、今度あれやろう」そんな高校生のようなメールのやりとりをしていた。誰よりも長生きをして、僕らみんなの骨を拾ってくれるものだと思い込んでいた。だから今は、喪失感を持って余している。どうか安らかに。僕らは絶対、きみを忘れない。(A)

●今でも昔二人で毎晩のように飲み歩いた市ヶ谷近辺や銀座の裏通りを思い出して「おい、もう帰ろうか?」「もう一本だけ」そんな会話が聞こえてくるようです。蛇足ですが、店名の「むつ新」は私の慎一=しんいちと睦=むつみを合わせたものです。「しんむつ」ではちょっとおさまりが悪そうなので。(坂)

●いつも一緒に出掛けていたので、今もデパートへに行ってもレストランに行っても思い出して寂しさが募ります。睦の事ですが改めてあまりわかっていなかったと思ひ知りました。(ま)

誰もがその居心地の良い場所と心はずむ時間はいつまでも続くものだと思っていたのに。

並木 隆 (022E・編)

今、学校では

コロナ禍と学校活動

教諭 小原 洋平

コロナ禍における学校活動が始まってから、約2年間が経過をしました。このコロナ禍において、宿泊行事がなかなか行えない現状であったり、時差登校により部活動の活動時間が制限されたりと、多くの学校で生徒の能力が発揮される場が制限されたのは事実です。本校においても、この2年間、従来通りの行事週間が行えなかったり、海外語学研修が中止になったりと、生徒が最も期待している行事が制限されてきました。しかし、このような状況の中でも、その条件の中で最大限の創造性を発揮し、新たなものを生み出していくのが小石川生です。今回は、このコロナ禍において、促進された学校活動を紹介していきます。

●オンラインを活用した数多くのセミナー

小石川生が自由に参加できる講座として、SSH部が主催するサイエンスカフェや国際部が主催するグローバルカフェなどがあります。これらの講座は、従来は講師が来校していただき行うものでした。対面での講演が行えない中、このような機会を失わないように始まったのが、オンラインを活用したセミナーです。ただ、講演をオンラインで行うのではなく、オンラインの利点を生かし、現地とつなぐことでリアルに内容が伝わる講話もありました。

その1つに3月に行われた防災講話があります。講師は東日大震災で被災された経験をもつ教員の方です。講師の方の体験をもとに、万一の際に必要な考え方や生き方について深く考えることができた講演でした。慰霊祭で現地入りしている場所からのオンラインでの講話をいただきました。

また、6月にはポーランドに在住していた卒業生を講師に招き、ウクライナの現状や支援活動について伝えていただきました。特に現地の方とオンラインでつなぎ、現地のようなすを聞く際には、生徒から多くの質問がでました。

どちらの講話も、現地からの生の声を聴くことで、生徒は臨場感や共感をもって聞いているように感じました。オンラインを活用することで、これまでのセミナーでは招くことのできなかった卒業生や講師の方の講演を聞くことができるようになり、生徒の視野の広がりに貢献しています。



セミナーで、ポーランド在住の卒業生方とつないでのオンライン対話

●理科分野でのコンクールでの活躍

部活動の時間が制限される中、放課後のオープンラボの時間を使い、研究を続け、たくさんの成果を出しています。短い研究時間の中でも、計画的に毎日コツコツと研究してきた成果の表れであると感じます。成果の一部を紹介します。

・科学の甲子園ジュニア全国大会優勝

この大会は、各都道府県の代表6人が物理、化学、生物、地学、数学、情報の各分野で競技に取り組み、総合得点を競う大会です。東京都予選で成績を残し、東京都代表に選ばれた本校の生徒は、他校生徒とチームを組みました。東京都チームは総合優勝し、あわせて文部科学大臣賞を受賞しました。

・国際化学オリンピック出場（銅賞）、国際生物学オリンピック日本代表（7月に出場）、国際情報オリンピック女子日本代表（10月に出場予定）

日本国内で各分野のオリンピックに出場し、優秀な成績であり、日本代表候補となりました。さらに様々な選考を経て、日本代表となりました。

・日本学生科学賞 科学政策担当大臣賞受賞

日本学生科学賞は昭和32年に創設された中学。高校生の科学分野のコンクールです。本校からは毎年、多くの優秀な課題研究を出品しており。平成29年度には学校賞も受賞しました。昨年度の東京都大会では9件の作品が受賞し、5件が中央審査（全国大会）に進出しました。その中の1作品が科学政策大臣賞を受賞しました。

今、学校では

んな問題が出るの？

難易度は 高校～大学レベル

- ◀ 化学の様々な範囲からまんべんなく出題され
- ◀ 開催国にまつわる問題「ご当地問題」が何問存在する。53th大阪大会では菊に関する問題が出題された。

理科分野のコンクールで活躍した生徒から後輩への講演

●ライブ配信

光庭ライブや体育祭、芸能祭などを全員が一堂に会して視聴できる機会が難しくなりました。そんな中で、委員会の生徒が身に付けた技術に「ライブ配信」があります。ただ様子を各クラスに届けるのではなく、数台のカメラを使ったカメラワークやオリンピック解説を彷彿させるアナウンスなどの技術を習得して、より臨場感のある映像を届けられるようになりました。

全校生徒からの評判も良く、これからの小石川のスタンダードになる技術のようです。ライブ配信のための「カメラ班」もつくられ、行事のたびにプロフェッショナルとして活躍しています。この技術も後輩へと着々と受け継がれていくことと期待しています。



ライブ配信を視聴しながら、別室で応援

日本フィル杉並公会堂シリーズ
2022-23
第3回
小林 研一郎 × 桑原 志織
日本フィル
2022年9月23日(金・祝) 15:00 開演(14:15開場) 杉並公会堂大ホール

山本倫子



桑原志織コンサートの情報はこちらから

会報・HP に皆様の投稿と情報をお寄せください！

- ◎同窓会 HP は、同窓会からのお知らせや母校の情報をいち早くお届けしています。また、同窓生相互の情報交換の場として、クラス会や講座など催事の告知・報告についても随時更新、掲載しています。各クラス幹事の皆さんや広く告知をお考えの方は是非ご利用ください。【紫友同窓会で検索！】
- ◎会報では、常時、「吾が校友の精神を」のページで自由な投稿を受け付けています。また、「クラブ OP つながり」と「小石川つながり」のコーナーには、クラスや学年を超えた交流が報告されています。
- ◎連載「同窓生訪問」では、あなたの学年や身の回りで知っている活躍する（ユニークな小石川生らしい）同窓生の情報を求めています。インタビューに登場してほしい方を教えてください。
- ◎投稿及びお問合せはお気軽に【紫友同窓会事務局へ】

今、学校では

PTA 活動報告

続 楽しくなければ PTAじゃない

PTA 会長 塩川 浩司

紫友同窓会の皆様、いつも小石川在校生のためにご尽力をいただき、本当にお世話になっております。一昨年、昨年に引き続き、今年度も小石川 PTA 会長を務めさせていただきます。今年が最後になりますが、どうぞ宜しくお願いいたします。



思い起こせば、私が会長になった 2020 年度は、まさしくコロナ元年で、いきなり春休みの休校からのスタートとなり、結局その年は、PTA 活動らしきものは何もせずに終わってしまいました。その中で、ZOOM を活用した役員会議をなんとか開始して、2021 年度はそのオンラインによる活動がやっと軌道に乗った年にもなりました。都立高のネット接続に関しては、かなりハードルが高くて、外部のパソコンは学校の WIFI には繋がせてもらえません。そのため、各学年委員さん全員が集まる PTA 運営委員会を ZOOM で開催しようにも、我々 PTA 役員が学校にパソコンを持ち込むことができずに外部から開催することになります。そこで、本当にありがたく活用させていただいているのが、紫友スタジオです。PTA 役員が各自ノートパソコンを持って紫友スタジオに結集し、そこを拠点に ZOOM による運営委員会を開催し、校長先生をはじめとする学校にはその一員としてアクセスしていただくというスタイルをとりました。本当に感謝しています。

オンライン化に関しましては、学校も試行錯誤していたようで、この 2 年程でいろんな機材が揃ってきたようです。それを実感したのが、12 月に開催しました、東京女子大学学長の森本あんり先生による PTA 講演会でした。これは、学校の会議室からリアルとオンラインを併用して開催したもので、森本先生による熱気を帯びたお話しを、そのまま各家庭に届けられた講演会となり、大成功を収めました。森本先生の反骨精神に満ちた小石川時代から始まり、ICU でのリベラルアーツとの出会い、さらにその深い知性を世界を舞台に飛

翔させ、新しい人材を育成し続けるその情熱は、まさに小石川の伝統を受け継ぐべき子どもを持つ親としては、可能性に満ちた我が子の将来を夢想するに余りあり、それと同時に身が引きしまる思いをさせていただいた講演会でした。本当にありがとうございました。

その中で、卒業以来の再会だという森本先生と戸叶会長が、何やらハワイがまだあるとかなとか、嬉しそうに話をしているのです。聞けば正面玄関前のヤシの木は、ハワイという小石川生の聖地とも呼ぶべきパワースポットだということも教えてもらいました。そんなことも知らずに、子どもを毎日学校に送り出していたとは、保護者として恥ずかしい限りです。という訳で、それ以来、親時（おやじ）の会などで知り合った下級生の保護者さんにはまず、「ハワイ知ってます？」という挨拶から始めることにしています。

それと関連してですが、ここ 2 年間は小学生を招いた学校公開が行われていませんでした。後期生の保護者さんからは、「うちの子は、創作展を見て小石川受験を決めたんです」という方も多いのですが、そんな体験もコロナでできなかつたお子さんも多いことを思うと、まず伝えるべき事、やっぱり根本は、伊藤長七先生に行き着くのではないかと思います。

小石川の保護者さんは、この 2 年間、学校に来ることも、部活を見ることも制限されていたので、本当に悲しい思いをしてきました。私自身、「楽しくなければ PTA じゃない」をずっと掲げてまいりましたが、その楽しさは、やっぱり人と人がリアルで繋がり、支え合うことで生まれます。生徒、先生、保護者、そして同窓会の皆様。チーム小石川が丸一となって、これからも伝統ある小石川を育んでいきたいと思えます。

最後に。自分自身もそうでしたが、学校や勉強、普段の生活に息苦しさを感じている子どもたち。そんな声なき声を、少なくとも聞き取りたいと願える保護者でありたいと思っています。



入学式前に、鳥屋尾校長、高橋副校長を交えて正門周辺の草取りをした後、ハワイの前に集合した親時（おやじ）の会メンバー

旧職員だより

星にのばされた螺旋

東京都立中野工業高等学校 末佐和子

「われわれは探求を止めない。あらゆる探求を尽くした果てにわれわれが到達するのは出発した場所である。だが、初めてその地をわれわれは見るのだ。」

小石川への赴任が決まった際に、大学教授はT.Sエリオットのこの言葉を私に贈ってくれました。当時の私はこの文章を全く解釈できなかつたのですが、5年間の在任中にこの言葉の意味がどのように変わったかを書かせていただきます。



赴任にあたって私は、生徒達に愛や温もり、驚きや発見がある国際理解教育がやりたい、英語はコミュニケーションのツールであるという表面的な捉え方ではなく、「ことば」が自らの思考を紡ぎ、表現し、伝え、相手の想いを受け取ることを可能にしてくれるかけがえのないものであること、そして英語と日本語の2つの言語を行き来する中で、自分の世界が広がっていく感覚を味わってほしい…そんな目標を考えました。

働いている時はとにかく忙しくて、自分が同心円の中をグルグルと回っている感覚でしたが、11期生の担任を終える時、前任校で立てた目標は全て取り組み、確たる成果を実感しました。そして目標を立てた出発地点に戻ると、確かに出発した時よりもはるかに違う景色が広がっていました。

思うのは、伊藤長七先生の教えの通り、「立志」がとっても大切だということです。常に出発地点であるその「立志」が自分の心のベースキャンプとして戻る場所になる。そしてそこから続く「開拓」「創作」として自分が歩む道は、同心円ではなく、フィボナッチ数列あるいはヘーゲルの“螺旋的発展の法則”のイメージで、螺旋階段のように、新しい価値が加わってスパイラル状に上がっていき、気がつけば自分のいる場所の高さが変わり、眺める景色が違う、だから出発した場所を初めて見ることになる。。。

私がこういった螺旋階段を駆け上がることができたのは、小石川100年にわたる伝統とも言える小石川生特有の知に対する貪欲な姿勢と、互いに切磋琢磨し学

び合う姿勢を毎日身近に見てきたこと、そして、先生方、同窓会、保護者、外部講師の方々など多くのご指導とご協力の賜物です。

そのいくつかを振り返りますと、紫友同窓会・卒業生の方々には、水泳部や英語ディベート班の技術指導、楽器支援、英国カーディフ海外研修渡航支援、加湿器レンタル、進路講話やチューターでのアドバイスなど、多くの力を貸していただきました。卒業生野老朝雄様がデザインされた創立100周年の「つながる」をテーマにしたマグネットは、私の企画した国際理解教育の12回の授業と講演会で講師の方々にも配布し、大変喜んでいただきました。さらに、同窓会の伊藤長七賞で、11期生が英語ディベートやエッセイコンテスト入賞でメダルを授与されている姿を見た時は本当に嬉しかったです。

また、離任式の終了後に2階中央階段前で、多くの11期生が私を出迎えて拍手してくれた瞬間、「次の学校でも生徒に寄り添ってやってほしい」「先生の情熱は人を救う」といった生徒からの言葉を一つ一つ胸に刻みました。教職という螺旋階段からの眺めは、自分の眼で見る時よりも、生徒の感動のまなざしや生徒が紡いだ感想を通して眺めた方がはるかに美しいことを知ったのです。この階段を駆け上がっている間、常に私は生徒や保護者の皆様、同窓会・卒業生の皆様から教えられ、励まされ、力をもらっていたことをあらためて痛感いたします。

小石川5年間の素晴らしい出会いは、私の人生の財産であり、教員としての大きな礎になりました。本当にありがとうございました。

最後にこの場を借りて11期生の皆さんへ。

卒業後に聞く皆さんの近況報告一つひとつも美しい螺旋であり、私の誇りと喜びです。このまま螺旋状に伸びていき、「卒業生が小石川セミナーに登壇できる人材になって小石川に戻ってくる。」という私の夢は、きっと誰か実現してくれるに違いありません。

人は皆、幼い頃の「ただ好きだからやる」「ただ負けるのが悔しいからやる」という気持ちが情熱の根源であり、前進する力になることを無意識に知っています。だから、いかなる時も、小石川の在校生・卒業生の皆さんには、小石川の授業、フィロソフィー、部活動、行事週間で培った自分の感動と憧れを大切に、自分自身と力強く向き合ってほしいと思います。もしあなたに何か想いや悩み、一生懸命あがっていることがあるとするなら、それは同心円状ではなく、美しい螺旋状の途中にあると思ってみませんか。

旧職員だより

小石川での日々を振り返って

筑波大学付属中学・高等学校 高杉 達也

私は、平成31年4月から令和4年3月までの3年間、小石川中等教育学校に勤務しました。「たった3年」と思われてしまうかもしれませんが、今こうして小石川を離れてこの年月を振り返ると、数字が表すもの以上に私には多くのものが残っています。



実は、私は在籍中に担任をもったことはありません。生徒とは、授業や部活動などの限られた場だけの関わりではありましたが、小石川生の魅力や素晴らしさを感じるには十分すぎるくらいでした。今も強く印象に残っているのは、行事や部活動を自主的に運営しようとする主体性やチームワーク、毎回の授業に真摯に取り組もうとする勤勉さ、そして互いの素晴らしさを認め合うことのできる姿勢です。

部活動では3年間、サッカー部の顧問を担当しました。校務もあり、なかなか平日の放課後練習に顔を出すことはできませんでしたが、週末の練習や試合のときには、部員が協力しながら活動し、懸命にボールを追う

姿を見て、元気と感動をもらいました。思うように結果が伴わないこともありましたが、どんな状況でも仲間を大切にして思いやる彼らから、私自身も多くのことを学びました。

授業については、9期生、10期生、11期生、14期生の授業を担当しました。それぞれの学年のカラーが異なることも興味深かったのですが、どの学年にも共通するのが学びに向かう強い気持ちです。9期生、10期生、11期生については6年次を担当し、受験期の難しい時期を仲間とともに乗り越えていく生徒の姿に感銘を受けました。14期については2年次と3年次の2年連続で授業を担当しました。どんな課題にも前向きに、そして創造的に取り組もうとする彼らの姿勢に、私も励まされました。

そして、小石川生の一番素晴らしいと思う点は、いろいろな特徴や強みをもった生徒が、お互いのことをリスペクトし、高め合っているということです。とかく、目立つのを避けるために、自らの長所を隠して学校生活を送ることも一般的には少なくないとも思われますが、小石川には安心して、個性や強みを思う存分に発揮できる空気感がありました。そのことが、生徒が幅広く活躍していることの一因であるのは間違いありません。ぜひこの姿勢はこれからも大切にしてほしいです。

短い期間ではありましたが、生徒、教職員、同窓会の皆様には大変お世話になりました。今後のさらなる発展をお祈りしております。

令和3年度転出・令和4年度転入者等一覧

〈転出・退職者等〉

職名	教科等	氏名	転出先
校長	数 学	フジタ ヨシタカ 藤田 ヨシ豊	田無高校
校長	理 科 (物 理)	アカミネ オサム 赤 嶺 オサム	向丘高校
非常勤教員	社 会 (世界史)	サイトウ カツヒサ 齊藤 勝久	戸山高校
主任教諭	数 学	マエダ トオル 前田 トオル	九段中等教育学校
主任教諭	英 語	オオツカ アリサ 大塚 有紗	青山高校
主任教諭	英 語	スエ サワコ 末 佐和子	中野工業高校
主任教諭	英 語	タカスギ タツヤ 高杉 達也	筑波大学附属中学・高校
経営企画室長	経営企画室	サワイ アヤコ 澤井 綾子	西部学校経営センター支所
事務主任	経営企画室	チノ ヒロコ 知野 弘子	竹台高校

〈転入者〉

職名	教科	氏名	転入元
副校長	数 学	タカハシ ショウジ 高橋 ショウ司	九段中等教育学校
副校長	地 歴 (世界史)	ミトウ マサヨシ 三藤 マサ義	南多摩中等教育学校
教 諭	社 会 (世界史)	カワマタ ヒロキ 川又 大樹	白鷗高校・附属中学
主任教諭	数 学	スズキ ケイスケ 鈴木 恵介	八王子市立由木中学
主任教諭	英 語	ツカサ エリコ 政 絵里子	国際高校
主任教諭	英 語	ヨコヤマ ミチ子 横山美智子	立川高校
主任教諭	英 語	オカ ダイスケ 岡 大佑	足立区立江南中学
非常勤教員	保健体育	ワカイ ヤスヒロ 若井 康至	新規
経営企画室長	経営企画室	カネタニ タケシ 金谷 岳司	城東高校
事務主事	経営企画室	サトウ ユウヤ 佐藤 ユウ也	竹早高校

●2022年度大学入試合格者数（現浪合計／現役）

（5月6日段階）

国公立大学	現浪	現役
北海道	1	1
東北	4	4
山形	2	2
筑波	10	8
埼玉	1	1
千葉	3	2
お茶の水女子	1	1
東京	20	19
東京医科歯科	2	2
東京外国語	4	4
東京海洋	2	2
東京学芸	2	2
東京工業	5	3
東京農工	5	5
一橋	9	9
横浜国立	2	2
信州	2	2
金沢	1	0
静岡	1	0
浜松医科	1	0
名古屋	1	1
京都	4	4
和歌山	1	1
九州	3	2
長崎	1	0
宮崎	1	1
国際教養	2	2
東京都立	7	6
横浜市立	1	1
国公立大学合計	99	87

文部科学省所管外の大学校

大学校	現浪	現役
防衛医科大学校	1	1
合計	1	1

上記、国公立大学・大学校のうち

医学部医学科	現浪	現役
東北	1	1
山形	2	2
筑波	3	3
信州	2	2
金沢	1	0

浜松医科	1	0
長崎	1	0
宮崎	1	1
防衛医科大学校	1	1
合計	13	10

私立大学	現浪	現役
東北医科薬科	1	0
青山学院	16	15
大妻女子	3	3
学習院	3	3
神奈川	2	2
北里	2	2
杏林	1	0
慶應義塾	37	34
工学院	5	5
國學院	4	4
国際医療福祉	3	3
国際基督教	4	3
国士館	3	0
駒沢	2	2
芝浦工業	10	8
順天堂	5	4
上智	24	24
昭和	1	1
昭和薬科	1	1
成蹊	7	7
成城	2	1
専修	5	5
千葉工業	4	4
千葉商科	1	1
中央	19	19
津田塾	2	0
帝京	3	1
東海	2	2
東京医科	3	3
東京慈恵会医科	1	1
東京女子	2	2
東京電機	2	2
東京都市	7	4
東京農業	2	2
東京薬科	1	1
東京理科	55	46
東邦	6	6

東洋	4	3
東洋英和女学院	1	1
獨協	1	1
日本	6	4
日本医科	4	2
日本女子	2	2
法政	27	25
武蔵	2	2
武蔵野美術	2	2
明治	61	57
明治学院	5	4
明治薬科	1	1
明星	2	2
立教	37	34
早稲田	71	64
同志社	1	0
関西	1	0
大阪芸術	1	0
私立大学合計	480	425

上記、私立大学のうち

医学部医学科	現浪	現役
東北医科薬科	1	0
杏林	1	0
慶應義塾	1	1
国際医療福祉	3	3
順天堂	3	2
昭和	1	1
東京医科	3	3
東京慈恵会医科	1	1
東邦	2	2
日本医科	4	2
合計	20	15

海外大学	現浪	現役
University of Toronto (加)	1	1
ソウル (韓)	1	1
延世 (韓)	1	1
高麗 (韓)	1	1
成均館 (韓)	1	1
合計	5	5

❀ 同期会・クラス会 ❀

クラス文集誌「礎」臨時号を発行 06E 2021年近況報告 コロナ禍の社会へのメッセージ

同窓会事務局に送られた06Eの文集「礎」をご紹介します。1954年卒85歳を超える皆さんはほぼ毎年懇親の会を続けていましたが、コロナ禍により昨年の会合は取りやめ、文集「礎」（臨時号）としてクラス14名の近況報告を配布しました。同集より幹事の村田正弘さんの巻頭言（抄）を掲載します。

2021年はコロナに翻弄された年になりました。晩年の語らいの場であった秋の紀尾井町吉座会食の知らせを出す時期になっても状況は変わらないままでした、会合は諦めるとし、現況の報告とコロナが凶らずも露呈させた現代社会の不条理と克服への提言を集めてみることにしました。

即日原稿を送って頂いた方もいましたが、期限を延長、14通が集まりました。身体機能の衰えを嘆くのはほぼ共通ですが、年寄りの冷や水と言われても、昭和の礎を築いた心意気を感じます。記録として次世代に継ぐ誰かの目に留まるかもしれません。

コロナの推移を含め、未来は誰にもわかりません。同窓会は再会が目的ですから必ず再会します。それまで様々な体験をコンパクトにまとめておいてください。

（村田正弘）



06E 同窓会（2016年5月・銀座にて）

「015A こんちゃん会」

日時：2021年10月31日（日）14：00～16：00

参加者：13名（幹事含む）

幹事：榊田（ケアンズ在住）、久保田

補佐：太田、内田、田辺

昨年はコロナ禍のため初のZOOMによるオンラインクラス会を12名の参加で行いました。

今年はリアルクラス会をと当初は考えていましたが、コロナ禍は益々激しく、オンラインクラス会を余儀なくされました。LINEを使えば参加者がもっと増えるのではないかと思い幹事間で試みましたが思うようにはいかず、結局昨年同様ZOOMによる開催を決めました。

参加者は昨年の参加者に加えて、今年初めてスマホによる参加者もいて、事前に何度かテストを行いました。前半は各自近況を報告し合い、今回の欠席者から届いたたよりや画像を共有しました。自宅の家庭菜園の様子を画像で紹介する人、楽器の演奏をする人、趣味の絵画や工芸の作品を披露する人などいてZOOMならではのクラス会となりました。

また今回は1970年に「よど号」で北朝鮮に渡った小西隆裕さんと卒業以来初めて連絡がとれました。数枚の写真とともに近況報告が送られてきましたのでそれをクラス全員に発信いたしました。クラス会の後半には彼と電話接続ができて、懐かしい声を皆で聞くことができ、まさに時空を超えた楽しいクラス会でした。

それでも次回はリアルで行いたいという意見も多く、次の幹事に諏訪、関口、浅沼の3名を選出し、最後に校歌を皆で歌い会を終わりました。（久保田記）



紫友美術会

生涯の趣味、交流の場として

この二年余り、紫友美術会としての活動は制限されてきました。それでもコロナ禍という背景の中でも定期展を予定通り開催、そして昨年8月には同窓会と共催で建畠 哲氏（埼玉県立近代美術館館長）のオンライン講演会も開催できました。

今年は定期展の他、スケッチ教室やスケッチ旅行、美術館の鑑賞会など精力的に活動する予定です。こんな時だからこそコミュニケーションの大切さ、SNSやバーチャルでは感じることのできない本当の交流を求めたいものです。

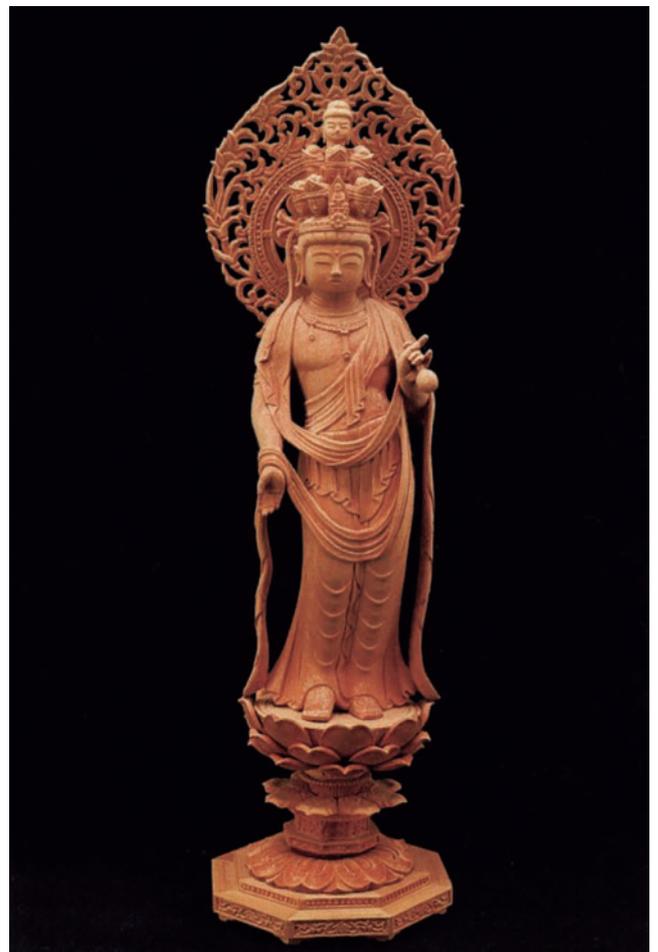
私がこの会に入会したのは三十代。その当時、スケッチ旅行や先輩方の別荘、隠れ家によく連れていってもらいました。故清水会長をはじめ諸先輩方に昔の小石川（特に先生）の話や戦前、戦後、高度成長期にわたる先輩方の武勇伝を楽しく聴かせていただきました。普段、交流の無い世代間、異業種の方との会話や情報交換などは貴重な体験の連続でした。毎年企画イベントとして、講演会（海外で活躍された先輩方の体験談や永年の研究、仕事の経験談など）、絵はがきの教室、自身の骨壺製作、ヌードデッサン教室、10年毎の記念画集「青春邂逅」の発行など多種多様にわたりました。定期展では現役の生徒さんにも参加していただき、年齢差70才以上の交流の場ともなりました。

美術会というと絵を描く会、芸術を語る会と思われがちですが、様々な方が在籍し常に柔軟に活動していま

す。本職の画家、彫刻家も居られますが、大多数が趣味人です。飲み会だけ活躍する論客、洋画、水彩、写真、陶芸、キルト、書道…つまり、何でもアリです。自分だけの表現を追求、発表するのもアリだと思います。常に新しい方の流入、参加は会にとって必要不可欠です。この会の入会資格は小石川卒業生というだけです。生涯の趣味を持ちたい方、自分の作品を発表する場の欲しい方、ただ、世代を超えた小石川という共通の話題で盛り上がりたい方、交流の場を作りたい方、参加、入会をお待ちしています。

紫友美術会代表幹事 矢島孝人 (032F)

お問合せは shiyu.bijyutsukai@gmail.com



2022年度紫友美術会特別講演会 「仏像彫刻の魅力」石井孝夫氏(022D)
東洋文庫講座室にて2022.5.29

小石川つながり —交流のかたち—

1. 紫友まち歩き

～「紫友まち歩きウェブサイト」とまち歩きのアイドルを紹介～

●待ち遠しい 100 回記念紫友まち歩き

紫友まち歩きは、2005年1月雪の中第1回「向島界隈・ディープな下町を歩く」から始まり、2020年2月「菜の花と梅の湘南のまち歩き」で95回になりました。新型コロナのため2年ちょっと中断しています。100回記念紫友まち歩き「(仮)本校正門から五中小石川の100年を巡るまち歩き」を多くの仲間が待ち遠しく思っています。

●紫友まち歩きの記録は紫友同窓会のウェブサイトに蓄積

95回の紫友まち歩きの記録が紫友同窓会のウェブサイト上に蓄積されています。残念ながら、第1回と初期の14回の報告書は作成されていません。残りの80回については、まち歩きの報告書が公開されています。Googleなどの検索エンジンで、「紫友まち歩き 紫友同窓会」で検索するとたどり着けます。直接のURLは以下です。

https://www.shiyu-dousoukai.jp/archives/a_dousousei/a_hito_koto/machi/index.html

●紫友まち歩きに楽しいエピソードを提供してくれたアイドルは誰でしょう？

今年もまち歩きの実施がないため、何をテーマに会報に報告をしようかと考えました。まち歩きの中で仲間を何度も驚かせ、楽しませてくれたまさにアイドルと言っても良い仲間を紹介しようと、まち歩きのウェブサイトの写真や報告内容を確認しました。まち歩きに参加された方はきっと思い出すと思うエピソードを、まち歩きの概略説明とともにいくつかを紹介したいと思います。アイドルを、Xさんとしましょう。

*エピソード1：2005年4月2日

第2回まち歩き「お花見 向島その2」

第2回からXさんは参加していました。墨堤で仲間持参の赤ワインを数本楽しんだ後、花街はずれのふく

屋に行きました。鯛めし鍋の中の鯛の骨取りも習ったし、「鯛の鯛」という骨を見つけて、これを焼酎につけるとピンクになってきれいになるということも教わりました。この写真の中にXさんがいます。



*エピソード2：2008年11月14日～16日

海外編第1弾「アモイ・コロンス島まち歩き」

9:45 発アモイ行きのセキュリティチェックで、Xさんは呑み助なのか、液体没収に対してアルコールはその場で飲み干したそうです。さらに、コロンス島観光を楽しんだ後、アモイのレストランで夕食を楽しんでいた時、部屋に黒服が2人入って来ました。ビールを飲んでいたXさんが呼ばれました。どうもホテルの人がトイレでパスポートも入っている財布を拾ったようで、この部屋の誰かだと言って来てくれたようです。見つかったというよりも、ちゃんと持ってきてくれたことが今や奇跡のようなものかもしれません。このレストランの質の高さに感謝。ホテルの部屋での宴会では、Xさんの話題で盛り上がりました。

*エピソード3：2010年2月19日～21日

番外編「別府温泉&道頓堀であそ歩(ぼ)」

大阪南港コスモフェリーターミナル18時45分迄に集合(19:05出港)の約束。まだ残りの3名が着かない。30分前になっても来ない。携帯で連絡を取るとそばに来ているがフェリーターミナルが分からず、30分近く周辺をタクシーに乗ったまま探し回っているという。あれほど電車で来るように言ったのに！ やっと姿が現れる。大阪のタクシーはけしからん等と大きな声で話しながら、楽しい思い出の話題になっていくのは

うして？ この3人の一人がXさんでした。次は、鉄輪温泉で男組が夕食を作るといことで数名が近くのスーパーに買い物に行きました。Xさんを含むあのメンバーでは危ないと監視役が追いかけたが、遅かったようでした。かなりのものは返却できたが、次のような多くの材料が持ち込まれました。ビール缶多量、ワイン5本、日本酒1升、焼酎、ウーロン茶、水、氷、ほうれん草、たけのこ、カブ、わけぎ、銀杏、肉、カレー、刺身2種、さつま揚げ、イチゴ、金柑等々。

***エピソード4：2011年2月18日～20日**

海外編第二弾「台北のまち歩き—夢中になって食べる」夕方、九份の茶芸レストランで休憩をしていました。16:30頃に野球帽、白いマスク、黒サングラス、ジャージ姿の変なおじさん登場。なんというサプライズ。トラブルマン登場でなく、皆のアイドル、Xさんが登場しました。びっくりの瞬間でした。サプライズで雨に負けそうだった空気が一変し、一気にいつもの珍道中になりました。雨が降る九份の坂道…水中メガネの「変なおじさん」…との感想も。父親が一時住んでいた場所を是非とも訪問したかったため、仕事の都合で一日遅れとなってしまったが参加することにしたそうです。



***エピソード5：2015年10月10日～12日**

番外編「奈良まち歩き（第3回）」奈良まち歩きの3回目。今回で奈良での最後のまち歩きとなります。Xさんは最初から参加し、皆は電動自転車を借りて飛鳥の見学をしました。石舞台古墳に集合して記念写真を撮り、石室内を見学しました。



***エピソード6：2018年3月31日**

「小田原宿場町」
Xさんは、小田原宿場まち歩きの歩きには参加しま

せんでしたが、懇親会近くの小田原城そばでぱったりと会いました。懇親会だけに参加するのかなと思っていましたが、残念ながら帰ってしまったようでした。このまち歩きがXさんのまち歩きへの最後になったと案内人だった報告者は記憶しています。

他にも、いくつかのまち歩きに最初から参加しています。忘年会、懇親会やカラオケの場に突然姿を現していたことを思い出します。

上述のように紫友まち歩きの初期から参加し、多くのエピソードにより皆のアイドルとなっていました。もう誰がXさんか、まち歩きの仲間は分かったと思います。

そうです、紫友同窓会元会長の故俵一雄さん（2019年1月没）です。100回目のまち歩き「(仮)本校正門から五中小石川の100年を巡るまち歩き」はXさんこと俵さんが企画し案内人の予定でした。無事開催され、報告されることを待っていることと思います。

●あなたも参加しませんか。

2、3時間のまち歩きとその後の懇親会です。参加者卒年は、06から036まで30年と幅広い同窓生が参加しています。100回目の紫友まち歩きが待ち遠しいですね。
017D 小林偉昭



トラットリア・イタリア文京店

東京都文京区本駒込2-28-10 文京グリーンコート1F
JR駒込駅 徒歩8分 三田線千石駅A3出口 徒歩5分
営業時間 11:30～22:30 / 150席(個室2) / 年中無休 / 駐車場あり
yoyaku@kyoei-kikaku-group.co.jp



2. 031期D・Gの有志による「まち歩き」

本所吉良邸から高輪泉岳寺まで

031DとGの6人で、赤穂浪士の吉良邸討ち入り後、泉岳寺までの引き揚げの道程を辿ってみました。そもそもこの集まりは、高校在学中にほとんど話したこともなかったG堀内浩君とD小田嶋との出会いから始まりました。コロナ禍で飲食会や野球観戦もままならず、ようやく実現した「まち歩き」企画です。

当日は両国駅集合、吉良邸跡から回向院、豎川の一之橋、小名木川の万年橋を渡り、隅田川の永代橋、明石町・聖路加国際病院にある浅野内匠頭邸跡をまずは目指しました。近くの築地教会や明石小学校のレトロ建築を楽しみ、築地本願寺近くで小休憩（ここまで2時間と少し）。この後は、第一京浜をひたすら南下、旧新橋停車場、高輪大木戸の「おばけトンネル」（東側半分くらいが歩行者・自転車道としてまだ残っている）、発掘された高輪築堤（工事フェンスの向こうを

覗き見）などの鉄道遺産と本来の目的から少し外れつつも、ゴールの泉岳寺に到着、浪士のお墓にお参り。

寄り道を入れて約12キロ、約5時間（休憩含む）の行程でした。友人とおしゃべりしながらのウォーキングはとても楽しいものです（健康のためにも）。今後（日時未定）も、大宮の鉄道博物館、横浜レトロ建築めぐり、落語「黄金餅」の弔い道中など、行きたいところ歩きたいところが目白押しです。031期のみなさん、D・G組に限らず参加者も募っています。

（031D 小田嶋永）



※撮影時のみマスクを外しています。
（左より矢田真一、浮島（金本）優子、廣瀬（加藤）奈保子、関口健勇、堀内浩、小田嶋）

3. 第二回 紫友経済人交流会 開催報告」

去る4月23日土曜日、一ツ橋学士会館におきまして、第二回紫友経済人交流会が開催されました。まん延防止条例が明けての開催とはいえ、参加者の心配もありましたが、総勢35名の参加をいただき、第一回目以上の盛会となりました。まず、冒頭の豊田皓会長

（017E）のあいさつは、久しぶりの開催への喜びと前回の会のムードの良さからの今後の発展の期待をお話しいただきました。そして今回は会員のお二人にミニ講演をお願いしました。

最初に登壇した高井俊成さん（017A）のお話は、長銀時代の活躍や苦勞、日本郵政副社長としてのエピソードなど、まさに日本経済の歴史を歩んだ方の本音と裏側が披露され、同窓の場、ここだけでしか知りえない内容に大いに学びを得ることができました。

そして最年少会員大関綾さん（063C）の講演では、起業のために小石川に編入され17歳で社長に、自由



豊田皓会長の挨拶



会議・講演の様子

な校風に支えられ学業と経営を両立し、時代に合わせて業種を転換し、今はSNSマーケティングの先端企業として発展継続させ、第13期の決算を迎えられているとの話に、大先輩方もまさに感嘆しきりでした。

お二人は世代も違い、全く違う道を歩みながらも、お話のそこかしこに、小石川らしさ「立志、開拓、創作」を感じたのは私だけではないと思いますし、それがまた、参加者自らを見直させてくれる良い機会になったと思います。

休憩をはさみ懇親交流会へ移行し、来賓の戸叶司武郎同窓会長から本会への賛同と期待のご挨拶をいただき、野村勉副幹事長(030C)のウィットに富む挨拶と乾杯で歓談へとスタート。立食形式マスキュールを守りながら、和気あいあいと情報交流ができました。

会の半ばでは、プロベシストとして活躍する永田利樹さん(030F)にJAZZライブをお願いしました。奥様のサクソ奏者早坂沙知さんも入ったトリオによる一流の演奏は、久しぶりの生音・ライブ感に大いに心を震わされ、皆さん大感動でした。指名による出席者のスピーチも、幅広い世代と業種などさまざまな方々により、まさに多士済々。最後は、コロナ禍で何度も開催延期を余儀なくされ、苦勞してきた事務局長の大村仁さん(031H)の一本締めにて無事終了。経済から芸術まで盛り沢山の内容に加え、新たな出会いも多くあって、本当に、小石川ならではの会になったと思います。

これらの場面を通して、この紫友経済人交流会が小石川のネットワークをもっと広げ、それぞれの仕事や人生に、大いに役に立つ存在になっていけると確信した次第です。今後も、少しずつ輪を広げて、まずは100名での開催を目指してまいります。本会の趣旨にご賛同いただける方の参加を大いに募っております。皆様、どうぞ引き続きご協力いただきますようお願いいたします。

紫友経済人交流会 幹事長 031H 笠原盛泰



4. 「我らは伊藤長七の教え子だった」 刊行 —紫友 85 周年会編集委員会—

同窓会では、母校の創立を同窓生や学校関係者とともに祝いする5年毎の周年行事を開催しています。戦前の記録は定かではありませんが、戦後は各界で活躍する卒業生が一堂に会する機会として、有志による実行委員会や幹事会が工夫を凝らして開催してきました。なかでも2003年5月に開催された創立85周年同窓会総会と記念パーティは、母校を会場として当日参加者が1000名を超える一大イベントでした。

この記念同窓会では、初代校長伊藤長七（1877 - 1929）の生涯と教育者としての思想信条を残された書簡、草稿、色紙、写真などから辿った14枚のパネル「我らは伊藤長七の教え子だった」が制作、展示され、来場者からは、時代の制約のなかで視野を世界に広げた教育者伊藤長七の型破りの行動力を知って、小石川の伝統、校是とも通じるものがあるとの声がありました。

また、伊藤家に残された膨大な資料の調査、整理の過程でお孫さんの伊藤博子様とのご縁が生まれ、学校へ多くの資料（レプリカ）が寄贈されるきっかけになりました。（資料の一部を事務室前で公開）

その後、85周年会の有志による活動は、例年の「創作展」に参加して、教室をお借りして資料・パネル展示やまもなく100回を迎える「紫友まち歩き」に引き継がれています。

今回、刊行された「我らは伊藤長七の教え子だった」は、紫友85周年会編集委員会（柴田知彦さん（017D）・小駒清さん（018A）・横山とみさん（018G）・川口由紀子さん（020A））が若い世代のために、伊藤長七初代校長と小石川三校是を理解するための入門書として自

費出版したものです。2022年5月に学校及び同窓会、周年会関係者に配布されました。

全体の内容は3部構成250ページで、第1部「長七物語」では長七先生の半生と周辺の人物像を詳しく紹介しています。（文責・川口由紀子さん）第2部は「伊藤長七展」で発表した14枚のカラーパネル集、当時の貴重な写真や残した足跡に目を奪われます。そして第3部は長七先生が残した22冊の小冊子類のうち、創立85周年記念CD「我らは伊藤長七の教え子だった」のシナリオの素となった7冊に収められた文章を掲載しています。この7冊には1920年（大正9年）の府立五中入学式告示、1922年（大正11年）の諸国外遊先から五中生徒へ送った手紙など、大正から昭和に移る時代の中で、長七先生が生徒たちに伝えたかった立志・開拓・創作の精神を知ることができます。

なお、刊行後に本の著作権は同窓会に寄贈され、今後の再版・増刷については理事会で検討することになりました。詳細は決定次第、HP等でお知らせいたします。



伊藤博子さんによる長七資料(小冊子22冊のレプリカ)の寄贈
(鳥屋尾校長と伊藤博子さん:2022年5月)



創作展に展示参加(2019年の入口スナップ)



5. 御厨貴さん(日本近現代政治史・022H)と 福留真紀さん(日本近世政治史・044C)の対話

(福留)

はじめまして福留真紀です。以前、同窓会紫友文庫に寄贈した著書から、昨年、会報に寄稿を依頼されました。そのご縁から今回、インタビューに同席させていただきました。



私は日本近世史の研究者として、オーラルヒストリーとは違って、物言わぬ史料、主に文献史料や、絵画史料などを分析の糸口としています。史料に書いてあることそれ以上を言えば、飛躍しているとか、根拠がないとか言われ、抑制的に書けと叩き込まれてきました。現代人の感覚を持ち込むなども。それは歴史学が史実を追い求めることが究極の目標だからだと思っているのですが、一方で、先生は、「知の格闘」というご著書(注：御厨貴著『知の格闘—掟破りの政治学講義』ちくま新書)の中で、あまりにもつまらない学問的歴史学が多過ぎるとの印象を持っていると述べられています。もしかしたら我々前近代の歴史研究のアプローチについて何かおっしゃりたいことがあるのかなと想像しているのですが、前近代の歴史研究についてどのように感じておられますか。

(御厨)

前近代のみならず近代でもそうだと思いますが、歴史学をきちんと方法論的に学んだ人は、どこかに歴史的な真実があると仮説を持っている。僕はそうだとは思いませんが。それに少しでも近づくのが歴史家の仕事だと思っている。できる限りそれに近づけるためには確実な史料を読み込んで、史料と史料の合間に見える到達した地点を書く。だからそこ以外に見えてくる、こっちだったのではあっちだったのではといういくつかのオルタナティブ(代案)があるにもかかわらず、それは絶対に書かない。それでは僕はつまらないのではないかと思う。

オーラルでやっている、書いてある史料よりもずっといい加減ですから解釈上の違いもあるし、僕らは政策決定にあたって絶対にこれ一本で最初からというものはないと思っている。そこには分岐点としてA・B・Cぐらいの実はオルタナティブがあって、Aが消えCが消え最終的に残ったのはBだとしても、活字史料だけではなぜそれだけが残ったのかはわからない。彼らが

書いた文章というのは、特に公文書なんかではどこが重要点かは全くわからない。だからオルタナティブを探すためにオーラルをやって政策決定を知ることが僕らの主たる眼目でした。だけでもAなりCなりが見つかって、だからBが選ばれたんだと綺麗に行きますかということそうでもない。むしろ最初から決まったものではない、その不確実性が判ればそれでいいというのが僕らの近現代史をやっている時の感覚ですね。

もう1つはオーラルをやっていると発想が豊かになってくる。不思議なものですが、それまで文書だけをやっていると「これにこう書いてあるけど意味が解らない」ことが良くあります。その時は解釈を飛ばして進むのだけれど、オーラルをやっていると「あれ、今、この人が言っていることはどこかで見たことがあるな」と感じることもあるんです。要するに時空を超えて大正時代のある財務関係者がある問題について言っていることと同じだね、と。オーラルをやっていると文書史料の解釈が豊かになるんです。それまで止まっていたものが動き始める。ああそうかと。もちろん、近代の(研究)の話で近世には使えませんがね。

(福留)

私は研究のテーマが近世の中でも徳川の政治史なのですが、当時の公文書は結果しか書いていないと考えたときに、私の注目点は将軍側近とその周りの人間関係で、政策をつくったのはどういう格の人間で、どう育ち、誰と結婚し親戚となって、誰と交際をしたのか、とにかく人から考えていこうとするのですが、それを見ていく対象は、主に残された書簡集なのです。それを積み重ねて本質に近づこうと思っても史料が無ければ手も足も出ません。これはこうに違いないと思っても、書けばそれは想像でしか過ぎないと言われます。ですから学術論文では抑制的に、新書や文庫を書くチャンスをいただいたときは大胆にやってみると棲み分けをしながら研究を進めています。

(御厨)

それはよくわかります。棲み分けされた方がいいと思う。僕も論文を書きますけれど、一般向けに書くときはかなり自由に書いています。その方が皆読んでくれるし、いいと思いますよ。

(福留)

それで、新書などを書いているときには、編集者に現代の政治の問題が浮かび上がるように書いてくださいとよく言われます。私の中で普通に書いてしまうと特に歴史ファンには喜ばれるけれど読者は限られるから、歴史ファンじゃない人たちにも読んでもらえるように現代の問題に結びつけることを意識するように求

められるのですが。先生は、ご著書の中で歴史的なアナロジーの危険な側面について述べておられます。その塩梅というのがとても難しいと思っています。

(御厨)

大体、編集者はできるだけたくさん売りたいから、現代的な要請と意外にも歴史は重なるという話をしたがるんです。だけれど僕ぐらいの年になると、ハイと聞いたふりをして全然違うことを書く。出来ちゃってから何を言っていたんだっけと聞くと、(編集者は)、先生、これには現代についての言及がありませんなどと言ってくる。そうだったのか、でも書きちゃったからと(スルーする)。現代と結び付けると言っても、それは安易にやると文章が乱れるからやらない方がいい。ちらっとどこかに出すぐらいでいい。編集者は売ればいいと思っているだけだから、せめぎ合いだもの。

(福留)

はい、新書だとそれなりにうまくいくと思いますが、テレビの歴史番組となると。

(御厨)

ああ、これは全然違うものです。あれは僕も時々出たりはしますが、最初から自分もしゃべっていてこれは半分ぐらい嘘だなと思うことがある。だから僕は断定的には言わない。こういう見え方もあると。あれは面白くするために言っているんだもの。

(福留)

先生のご専門は現代史を扱っているのですからある程度、番組との相性があるというか、発言が影響を与えることもあると思いますが、前近代(が題材)だと、時に勝手に面白話にいつの間にかされてしまう。そうすると研究者は(そのような番組に)関わるべきではないと考える人も結構います。メディア(に出る)というのは(自分の)研究を知ってもらうチャンスだとも思うのですが、メディアとどう関わるべきか、どのような付き合い方をすべきなのかよくわかりません。

(御厨)

特に最近メディアで取り上げるようになって崩れましたよね。NHKの大河ドラマと歴史はこうだったみたいな番組とほとんど変わらなくなってしまった。だから観る方もこれは本当の事かどうかを考えていなくて面白ければよいかだけ、本当かどうかをガチガチやっていたら視聴率も上がらないし。問題は学会の方がはるかに遅れていて、何か正しいことをやっていけばいいというのは、ちょっと思い込み過ぎのところがあるんだけど。しょうがないかな。

大体、近代史を滅茶苦茶にある意味で壊されたのは、司馬遼太郎の登場だもの。いかに歴史的真相が壊されているか。でも、それはみんな気にしないでしょ。面白ければいいじゃない、他にこんな人はいなかったともね。それが現代のエンターテインメントなのかな。僕のところに来る制作の人なんか何も知らないよ。読み方も知らない。少しは調べて来いよと思う。そこは割り切るしかない。でもね、ある程度サービスしてやった方がいい、すると意外と史料が出てきたりしますよ。

(後略)

(編集)

本日が初対面のお2人ですが、先ほどから歴史研究者とメディアとの距離の取り方、取るべき姿勢について大変突っ込んだ内容のお話が展開されました。同窓生だからこその丁々発止のやり取りとなっていますが時間も限られていますので、この辺で引き取らせていただきます。



日蓮宗 立應寺 (りゅうおうじ)

仏事全般 所願ご祈祷 本堂葬できます

住職 関口健勇 (031G)

【立應寺(りゅうおうじ)住所】

東京都足立区大谷田2-21-13

(最寄駅はJR亀有)

TEL 03-3605-8250



事務局だより

事務局長 清水 茂 (031D)

事務局は、031D 清水茂、030A 清水潤子、035G 駒田晴美の3人で担当しています。原則として火曜日と金曜日が在室日ですが、その他の日は留守電、FAX、メールにてご用件を承っておりますので、お気軽にご連絡ください。

●ホームカミングデー

コロナ禍のため2年間見送りとなっていたホームカミングデーを、本年度は開催する方向で準備を進めています。詳しくはHPでお知らせします。なお、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が取られた場合、取りやめとする可能性があることをご了承ください。

●評議委員について

同窓会と会員をつなぐパイプ役として、各クラスから1～3名の方を評議委員として選出していただいています(評議委員の一覧はホームページを参照ください)。評議委員の皆様には、クラスを代表して同窓会の運営・活動への提言、ご意見をいただいております。

登録、欠員が生じているクラスは、クラス会幹事など実質的に活動されている方にお引受けいただき、事務局へご連絡ください。また、評議委員会への出席率向上の為にも、可能であれば各クラス2名以上の方を選任いただきたく、宜しく申し上げます。

●東洋文庫ミュージアムの利用について

年会費を納入された会員の方は、無償で同施設の観覧、利用ができます。利用希望者は、事務局にて会員証を発行しますので、初回利用日の2週間前までに事務局へご連絡ください。

●名簿の変更について

引越しや改姓などによる登録情報の変更がある場合には、次の方法で変更・届け出をお願いします。

- ① 「Web名簿管理システム」にログインして、ご自身で変更する(「Web名簿管理システム」を利用するには、メールアドレスの登録が必要です。未登録の方は、事務局までメールアドレスをお知らせください)。Web名簿管理システム <https://shiyu.alumnet.jp>
- ② 住所・姓名等の変更内容を、事務局まで電話、Fax、メールで連絡する。

●会費の納入について

紫友同窓会の運営は同窓会員の納入会費によって成り立っています。財政運営状況を健全に維持するために、2014年から、毎年2,000円の会費を納めていただくことになりました。納入には下記の4種類の方法があります。

- ① 郵便局：会報の宛名台紙に印刷された「払込取扱票」をご利用ください(手数料は同窓会負担)。
- ② 銀行振込：紫友同窓会口座にお振り込みください(振込手数料はご負担ください)。
※振込の際は、必ず「卒業回または卒年次」「クラス」「お名前」をご記入ください。(記入例 030A シュウタロウ)
- ③ コンビニ支払・スマホ決済：本年度より導入しましたので、宛名台紙に印刷された「払込取扱票」をご活用ください(手数料は同窓会負担)。
- ④ 口座自動引落し：毎年振込の煩わしさを解消するため、「口座振替サービス」を導入しています。口座振替依頼書はホームページに掲載していますが、見られない方は事務局にご連絡いただければ郵送いたします。今年度分からの口座振替を希望される方は、事務処理の都合上10月15日迄にお申し込みください。(振替予定日は11月28日です)

●紫友スタジオ

百周年記念事業の柱の一つである「紫友交流室」のリアル交流活動拠点となる「紫友スタジオ」が開設されました。場所は、不忍通りをはさんだ学校の向かい側、1階にキャピタルコーヒーがあるビルの地下です。クラス会、会議・セミナー、楽器練習等に是非ご活用ください。問合せ先：k100kouryusitu@gmail.com

●紫友文庫

会員の皆様から寄贈された同窓生・小石川に関する著書を「紫友文庫」と名付け、配架しています。一覧はホームページでご覧ください。閲覧・貸し出しは事務局までご連絡ください。

●「紫友みらい基金」へのご寄付のお願い

母校創立百周年を契機に、教育支援・交流促進・小石川の杜プロジェクトの3つの「新しい同窓会活動」が始まりました。それらを継続実施する財務基盤を構築するため、百周年募金の残余資金(約42.5百万)を原資に「紫友みらい基金」を創設しました。活動継続には10年間で約1億円の費用が見込まれ、会員・客員の皆様からのご寄付をお願い申し上げます。

【募金要項】

1. 基金名称：紫友みらい基金
2. 募金の目的
 - ① 教育支援活動の継続、推進
 - ② 交流促進活動の継続、推進
 - ③ 小石川の杜プロジェクトの継続、展開
3. 募金目標額 1億円（2019年～10年間を想定）

・「紫友みらい基金」キャンペーン

12・13ページでご案内のとおり、母校創立105周年に向けて、「紫友みらい基金」のプレキャンペーンを実施いたします。また、ご協賛いただいた同窓生より提供されるオリジナルの物品・サービスを、寄付された方々に返礼品として贈呈いたします。

※当基金への寄付は、税の優遇措置・控除対象には該当しませんので、あらかじめご了承ください。

【返礼品の贈呈】

一口5,000円以上のご寄付に対して、右欄、【返礼品一覧表】の該当カテゴリからご希望のものを1点お選びください。

※ご寄付1回毎に贈呈し、期間内に何回でも可。

【寄付と返礼品の申込み方法】

- ① 郵便局：会報の宛名裏面に印刷された『『郵便局』専用振込用紙』（払込取扱票）をご利用ください。（手数料は口座振替の場合同窓会負担）。ご希望の返礼品を「通信欄」にご記入ください。

(例) A-1 希望

- ② 銀行振込：下記口座に年会費2,000円と合算した額をお振込みください。希望返礼品は下記QRコードの申込フォームよりお選びください。

※振込金額から会費が優先的に納入されます。2,000円を超える金額が「紫友みらい基金」への寄付となります。

※紫友同窓会HPで各返礼品の詳しい内容を紹介しています。

【返礼品一覧表】（2022年8月現在）

- ・カテゴリ＝寄付金額の区分
- ・協賛同窓生（11・12ページ参照）の略称
塚田さん＝塚、窪田さん＝窪、中村さん＝中
伊藤さん＝伊、安城さん＝安、紫友同窓会＝紫

カテゴリ A (5,000円以上 10,000円未満)

- A-1 野老朝雄さん (040E) 意匠マグネット (紫)
- A-2 懐かしの昭和校舎イラスト絵葉書セット (紫)
- A-3 オリジナルマスクケース (製作中) (紫)
- ※ 以上は同窓会制作品です。

カテゴリ B (10,000円以上 20,000円未満)

- B-1 スマホホルダー “elastiX” (塚)
- B-2 和柄小物 (文庫ブックカバー) (窪)
- B-3 ロワイヤルヴェルジュ (葡萄調味料) 1本 (中)
- B-4 マンディアンチョコレート (冬季限定) (伊)
- B-5 新潟胎内黒川農産のコシヒカリ 1Kg (安)

カテゴリ C (20,000円以上 50,000円未満)

- C-1 和柄小物 (名刺入れ) (窪)
- C-2 葡萄ジュースとヴェルジュセット (中)
- C-3 クリエイションファーム 赤ワイン 1本 (中)
- C-4 ショコラ房商品詰め合わせ (冬季限定) (伊)
- C-5 新潟胎内黒川農産のコシヒカリ 5Kg (安)
- C-6 小石川百年史3部セット (紫)

カテゴリ D (50,000円以上)

- D-1 クリエイションファーム ブドウ狩りセット (ワイン+ジュース+ヴェルジュ各1本) (中)
- D-2 ショコラ房商品詰め合わせ (冬季限定) (伊)
- D-3 久右衛門邸ランチコース 1名様食事券 (伊)
- D-4 新潟胎内黒川農産のコシヒカリ 10Kg (安)
- D-5 カシミアストール (百周年記念制作品) (紫)

※ 冬季限定品のお届けは常温発送可能な11月～4月になります。

会費・寄付の振込先「紫友同窓会口座」

【郵便局】口座番号 00110-2-11869 加入者名「紫友同窓会」

【銀行】みずほ銀行駒込支店 普通口座 0629241

名義「シユウドウソウカイ」

※振込の際は、必ず「卒回または卒年次」「クラス」「お名前」をご記入ください。（記入例：030A シユウタロウ）

※用途を指定される寄付は「お名前」の後ろに下記の数字を付記してください。（記入例：030A シユウタロウ -3）
教育支援活動（教育支援口⇒1）交流促進活動（交流活動口⇒2）小石川の杜PJ活動（環境企画口⇒3）

※問い合わせ 紫友同窓会事務局 原則として、火曜と金曜の10時から17時まで在室

Tel/Fax 03-3945-1961（留守電あり） メールアドレス shiyukai@msj.biglobe.ne.jp

銀行振込の方向け

返礼品申し込みQRコード→



○逝去者一覧

前号の発行以降に事務局にご連絡いただいた方々です。心よりご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

卒クラス	逝去者氏名	逝去年月日	卒クラス	逝去者氏名	逝去年月日
旧職員(数学)	岩瀬重雄	2020.9.19	01C	鈴木啓義	
旧職員(数学)	田辺仁士	2018.8.8	01D	山内惟光	2018.12.9
五中11C	中川隆治		02A	大島達夫	
五中12C	中溝 晃		02A	大曾根茂	2015.10.8
五中14A	竹村平二		02A	太田修平	2012.1.5
五中14E	糸賀智男	2010	02A	後藤 康	2015.2.9
五中16D	田澤昌成	2019.3.1	02A	小林秀之	2021.2
五中16E	永井澄和	2018.12.31	02A	田中信雄	2014.4.29
五中17E	笹田正保	2020.8.31	02A	辰巳嘉則	2013.1.24
五中18A	番匠谷淳一	2021.9.25	02B	兼坂晴雄	
五中18A	山川英治	2017.1.29	02B	久保田東志政	
五中19E	市場泰男	2016	02B	戸谷弘彦	2016.5.25
五中19A	鹿島 實	2021.11.28	02C	石原信良	2016.7.5
五中19A	深田謙次	2020.11.16	02C	村岡兼造	2019.12.25
五中19C	佐藤 侑	2015.11.26	02D	浅野 宏	2021.7.31
五中19E	長洲秀夫	2012	02D	澤 秀雄	2013
五中20C	出田 隆	2020.10.28	02F	栗原嘉一郎	2011.8.18
五中20C	柳原敏郎	2021.12	03B	島山寛孝	2020.12
五中21C	森永勝之	2019.11.14	03C	大塚 進	2020.9.27
五中21D	門間利純		03C	米山正儀	2018
五中21D	山崎哲朗	2021.6.7	03E	城島静也	2021.2.26
五中22A	村磯旺嗣	2020.10.15	04A	池田義治	2022.2.6
五中22B	小林忠彦	2006	04B	佐藤哲也	2020.12.12
五中22E	古谷 馨	2022.4.24	04F	清水 茂	2020.4
五中22B	塩塚 修	2022.5.16	04G	植松 紀	2021.10.5
五中22E	北川龍一		04G	斎藤 操	2020.11.7
五中23A	松本英光	2019.1.2	04H	仲村 威	2021.5.18
五中23D	大野泰雄	2011.3	05A	深水義之	2021.1.7
五中23E	鈴木喜久	2022.4.23	05E	田中 寛	2021.4.29
五中24A	安部寅男		05E	渡辺恭造	
五中25A	中島静磨	2021.7.8	05F	秋谷健男	2020.10.4
五中25C	服部隆也	2019.7	05F	加藤仁章	2012
五中25C	山口治巳		05G	高田雅夫	2021.5.16
五中26D	野辺地恒雄	2021.8.23	05H	飛田昌美	
01C	釜井俊弥	2021.4.13	06A	山田文夫	2021.3.29
01C	北島郁夫		06C	沈 重博	2013.8.8

卒クラス	逝去者氏名	逝去年月日	卒クラス	逝去者氏名	逝去年月日
06C	藤田孝次郎		011H	奥村佳弘	2021
06D	岡本哲彦	2012	012B	坂庭靖子	2021.3.2
06D	酒井良正	2018	012E	園木宏志	2017.12.20
06D	小阪弘子	2020	012G	津島園子	2020.4.20
06D	吉田幸郎	2022.1	012H	北島 侗	2022.5.24
06E	中山亮一		013A	宇野正一	2021.6.11
06F	滝本守正	2021.2.24	013A	萬立浩子	
06F	薬丸 薫	2021.4	013B	吉沢紀子	
06G	鈴木達郎	2022.3.5	013E	河野智昭	2021.2.5
06H	纒坂 達		013G	高松光次	
07B	高梨久美子		013H	太田高志	2021.5
07D	池田玉良	2020.12.25	014E	秋葉機四郎	2018.1
07E	西山 真	2020.9.4	017D	坂井正憲	
07H	阿久津栄一	2020.5.1	018E	栗井 甫	2019.1.6
07H	依田光雄	2021.8.31	018F	野口真次	2020.4.26
08A	飯田康弘	2021	018G	稲葉吉治	2020.3.4
08B	青木 至	2021.4	018H	桑原幹夫	2020.9.20
08C	佐藤恒二	2020.1	018J	富永徳雄	2021.1
08E	佐藤正志	2022.1	019D	田口正明	2021.2.8
08E	鈴木章三郎	2020.12.30	019G	寺村雅明	2017
08F	伴 秀之	2020.12.15	019G	宮下徹雄	2016
08F	村野 敦		019H	出牛武夫	2005.1.16
08G	小田島英子	2020.1.27	019I	村上フミヒコ	2022.6.3
09B	野々村恵子		020E	木村雄吉	
09B	原園明男	2020.12.11	021D	西山美知夫	2021.6.17
09C	梅地武昌	2021.9.22	021F	天野 滋	2021.4.30
09E	前田三千代	2021.12.7	022I	伊藤 陸	2021.12.20
09E	田中秀一	2020.11.29	023G	藤野治利	2021.7.15
010A	白井泰洸	2020.11	024B	高梨美智子	
010B	飯島 匠	2021.1.23	024E	本多利江	2015
010C	伊藤丈夫	2020.4.22	024F	山田康子	
010C	岸本紘子	2021.5.20	025G	永末則子	2020.1.22
010D	内田正紀	2011.10.9	029B	竹林 順	2019.5.30
010F	渡辺克比古	2021.1	029E	山崎信子	2021.8.17
011D	岩崎幹夫	2021.8.5	030B	鶴田弘之	2021.9.20
011E	池 誠	2021.7.11	034C	井上典子	2020.12.7
011G	浜崎良弘	2020.10.14	045D	白井清美	2021.2.27
011G	北條隆男	2021.3.22			
011G	堀井昌博	2011			

表紙の言葉 「惹かれる心」(アクリル・100F) OSAMU KOMATSU 小松 修 (019F)

表紙の絵は創作絵本「月子」の中の一場面です。道に迷った一人の男が時の流れの中を一匹の魚に導かれ、街角の時限の隙間に吸い込まれて行く、といったストーリーです。高校時代は一枚の絵も描いてはいませんが、25才から何故か絵の道に入り今に至ります。絵のイメージに繋がる短い言葉を書きました。

〈夢幻の景色〉

旅に出て、見知らぬ街の角を曲がると何か懐かしい風景に出会うことがある。／前にも来たことがあるような不思議な感覚を味わう。／子供の頃見た景色かもしれない。夢の中の景色のような気がする。／夢の中では、瓦屋根や藁葺き屋根の日本風の家を見たことがない。／石造りの家、屋根には細い塔や煙突が立っている。／どうして見たこともない洋風の街を夢見るのか、前世はポルトガル人やスペイン人の血を引く隠れキリシタンかと思っただこともある。／前世といえば、若い頃から臨死体験に興味を持っていた。／体験者が一様に見る「トンネルの向こうに見える、温かく包まれるような眩い光、その向こうに見えるお花畑」。／戻らず先に進んだ世界はどんな世界なのか。／夢の中で見た景色は、トンネルを抜けた先の景色なのか。／細胞の中の遺伝子が記憶している遠い昔の景色なのか。／ワクワクする。イメージが広がる。

編集後記

「嘘だろ？」

府中市の病院で10年ぶりの心臓手術を終え、ほぼ1か月ぶりに自宅へ帰還する前夜。スマホから流れてきたニュースに思わず目を疑いました。「反権力の論客、コラムニスト、小田嶋隆さんが死去、65歳」(東京新聞)「小田嶋隆さん、お疲れさまでした。そして、ありがとう」(日経ビジネスオンライン)

昨年の「同窓会報第49号」でその前の年2020年に亡くなった盟友・岡康道さん(027I)の追悼ページを作ろうと、病床にあった小田嶋さんと何度も電話で会話をしました。日経ビジネスに在籍した知人の柳瀬博一氏から「いかにも同級生らしいノスタルジーが溢れる写真」の提供を受け、記事の完成を喜んでいたので、よもや1年後、こんな急変に見舞われようとは。

「人生2割がちょうどいい」(講談社)、「日本語を、取り戻す。」(亜紀書房)など、小田嶋さんのコラム集はいま再び、書店の店頭には並んでいます。ある意味で墮ちるところまで墮ちた、もしくは「小石川教養主義」という名の偏差値以外の学問的粉飾をまとった者にしか分からないオダジマファンのためにも、必ずや「小田嶋隆追悼ページ」を創り上げたいと誓っています。 嶋沢裕志 (026B)

ちょっとした好奇心で雑誌作りの真似事をしてみようとした引き受けた会報編集ですが、いつの間にか本号で6冊目を数えました。毎号、行き当たりばったりの企画・特集と学校関係の情報に同窓生のご寄稿頼み、重ねた経験を次のノウハウに転化できず、毎回不規則発行が続いています。素人だからボラだからとの甘えも二度三度使うのは恥ずかしく、〇〇局長の名前が泣くというものです。

と、ここまで書いて気付きました。会報の編集作業とは、家の狭い台所で毎日義務的とまではいかな

いが、普段やっている手料理と一緒にじゃないか。

特別な材料を用意して、レシピどおり忠実に作るものではない。冷蔵庫のチルドと野菜室にあるもので何ができるか考えて、弱火で焦がさず煮詰めず、「さしすせそ」は目分量。みんな同じ味のようと家人は言っても、こちらはホームランを狙っていない。その時々、二つ三つの主菜と酒肴ができれば満足なのです。小石川という冷蔵庫の広さと深さを未だ見極めてはいませんが。

という訳で、料理好きな貴方、料理は編集に通じます。あ、逆かな。貴方ならどんな味付けでどんなページを作りますか。興味をお持ちの方は、お気軽に声をかけてください。勿論、男女不問です。 並木隆 (022E)

紫友同窓会 事務局

原則として、火曜と金曜の10時から17時まで在室
住所 〒113-0021

東京都文京区本駒込2-29-29
都立小石川中等教育学校内

Tel/Fax 03-3945-1961 (留守電あり)

メールアドレス shiyukai@msj.biglobe.ne.jp

ホームページ

<https://www.shiyu-dousoukai.jp>

(または“紫友同窓会”で検索)

紫友同窓会会報 第50号

令和4年8月26日発行

発行所：紫友同窓会

事務局：〒113-0021 東京都文京区本駒込2-29-29

東京都立小石川中等教育学校内

TEL・FAX 03-3945-1961 (原則火・金曜日入室)

郵便振替口座 00110-2-11869

メールアドレス shiyukai@msj.biglobe.ne.jp

印刷所：株式会社アイワード

非売品

紫友同窓会特別割引

卒業衣裳・男子紋服など全ての衣裳

紫友同窓会 ☒ 晴れ着の丸昌

府立五中、小石川高校および小石川中等教育学校
在校生・卒業生・教職員・会員の皆様へ

この会報をお持ちになったお客様は

レンタル衣裳 10%OFF

成人式の
振袖も
限定
10パーセント
特別割引!

丸昌イメージモデル
菊上なずな



丸昌池袋店ホームページ
スマートフォンのみ対応



この特別割引を撮影した画像や
コピーした用紙のご提示でも
割引を適用します

- 晴れ着の丸昌池袋店のみ有効
- その他割引・優待サービスや互助会カード、特約店が発行する丸昌紹介カードのご利用不可
- 草履やブーツ・その他の単品レンタル、特価品や販売品、着付け・美容・撮影料は対象外
- レンタル合計 44,000円(税込) 未滿は別途送料 2,200円(税込) 必要
- 衣裳ご成約後の割引は不可
- 卒業衣裳予約は 6月中旬から翌年3月末迄
- 有効期限 2023年9月末

池袋駅西口より徒歩5分。(ご入店は16時頃まで)

晴れ着の丸昌 池袋店 東京都豊島区池袋2-39-2 ☎ 0120(870)511
毎週火曜定休(祝日は営業) ※夏季休館期間・年末年始休業あり / 営業時間10:00~18:00

生涯の趣味として
交流の場として

紫友美術会

新規会員募集!

shiyu.bijyutsukai@gmail.com

お問い合わせ

紫友美術会展 鑑賞会 講演会

水彩画 陶芸 書道